



平成22年度 学社融合実践集録



平成23年 3月

田辺市教育委員会

はじめに

田辺市では、「学社融合」を推進するため、平成14年度より市内の小中学校、幼稚園に地域連携担当者を置き、各地区の公民館と連携を図りながら、地域の教育資源、人材を活用し、社会科、総合的な学習の時間などで、様々な取り組みを進めて参りました。

この取り組みは、平成17年の合併後も引き継がれました。学社融合元年と位置づけ、スタートした平成19年度以降も、その取り組みを継続すると共に、融合のあり方について以前から指導して下さっている越田先生にご講演を頂きながら、多くの教育関係者（公民館長、公民館主事、学校長及び園長、地域連携担当者、PTA、社会教育委員等）による研修会も重ねています。

平成20年度、田辺市教育委員会は、芳養小学校、芳養公民館を指定し「地域の教育力を生かした学社融合の推進」というテーマで研究（平成21年12月発表）をお願いしました。地域と学校が結び付き、地域の教育力を生かした授業、芳養ふれあい教室の取り組みは、地域の大人と子どもに大きな感動を与えるだけでなく、確かな成果、先進的な取り組みとして広く内外に影響を与えてくれました。

昨年11月に開かれた第58回近畿公民館大会や、日本PTA近畿ブロック研究大会での芳養小学校、芳養公民館の実践発表。さらに12月、和歌山県教育委員会主催の市町村教育委員会指導主事、社会教育担当者合同会議でも取り組み発表の機会を与えられ、好評を得ました。その取り組み、実践は、文部科学省にも伝わり、「地域と連携した育友会活動、学習活動への保護者の参画」との評価で芳養小学校育友会が文部科学大臣賞を頂くこととなり、国、県からは、月刊「生涯学習」への投稿依頼も受けました。

また、昨年12月3日には、文部科学省委託事業（平成20～22年度）の一つである「学校支援地域本部事業」の成果発表会が本宮小、中学校で開催されました。保護者、地域の方の授業への参画、伝統芸能、文化の継承等、地域の特色を生かした学社融合の取り組みは、芳養小学校、芳養公民館との実践とは異なった視点で高い評価を頂き、近畿地区社会教育研究大会（奈良大会）では、地域コーディネーターが取組を発表しました。

田辺市教育委員会では、芳養小学校、芳養公民館に続き、平成21年度から田辺第一小学校、中部公民館を指定し研究をお願いしていますが、学校・公民館一体型施設と地域の教育力を生かした学社融合活動として学校（児童）、地域により多くの成果を期待しています。

近年の各学校、公民館の研究実践発表や取り組み状況は、田辺市の学社融合活動の確かな発展、進歩を確信するところですが、その取り組みのために、限りない支援、協力を頂いた保護者、地域の皆様方に敬意と感謝を申し上げます。

最後になりましたが、これまで熱心にご指導下さった越田先生に心よりお礼を申し上げますと共に、本冊子（実践収録）の有効活用を願い、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

平成23年3月

田辺市教育委員会

教育長 中村 久仁生

目 次

【小学校】

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
新庄小学校	11
新庄第二小学校	13
稲成小学校	15
田辺東部小学校	17
会津小学校	19
上芳養小学校	21
中芳養小学校	23
上秋津小学校	25
秋津川小学校	27
三栖小学校	29
長野小学校	31
伏菟野小学校	33
咲楽小学校	35
中山路小学校	37
上山路小学校	39
龍神小学校	41
栗栖川小学校	43
二川小学校	45
近野小学校	47
鮎川小学校	49
三川小学校	51
富里小学校	53
本宮小学校	55
三里小学校	57

【中学校】

東陽中学校	59
明洋中学校	61
高雄中学校	63
新庄中学校	65
上芳養中学校	67
中芳養中学校	69
上秋津中学校	71
秋津川中学校	73
衣笠中学校	75
長野中学校	77
龍神中学校	79
中辺路中学校	81
近野中学校	83
大塔中学校	85
三里中学校	87
本宮中学校	89

【幼稚園】

新庄幼稚園	91
三栖幼稚園	93
上秋津幼稚園	95
中芳養幼稚園	97

【講評】..... 99

(学社融合研究所 越田 幸洋 先生)

平成22年度
**学社融合
実践集録**

学社融合活動実施報告

学校名	田辺第一小学校	公民館名	中部公民館
-----	---------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子
 本校の校区は、城下町としての名残を示す地名や伝統産業である「かまぼこ店」があり、田辺祭や湊祭があるなど、歴史と伝統にあふれる地域である。加えて、田辺の中心として商店街が栄え、現在も商店の再生・活性化をはかる人々が様々な取り組みを進めている。また、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、学校教育活動を支援してくれる人材も多い。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーに招いた活動を取り入れている。さらに、平成21年度からは「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」をテーマに教育委員会指定研究に取り組んでいる。

活動名	学級討論会をしよう	学年・教科・領域等	6年・国語
-----	-----------	-----------	-------

目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と一緒に討論会をすることにより、より説得力のある話し方に気づくことができる。 ・自分の立場を明確にし、討論会で説得力のある発言をすることができる。 ・討論会を聞きながら、根拠のある判定をすることができる。 ・司会や計時など自分の役割を果たすことができる。
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・大人と子どもが一緒に授業を進めることで、子どもたちは大人の取りむ姿や大人の視点を見ながら学習を進められ、さらには、大人に恥じない発言をする意欲が子どもたちに湧き、一層の学習効果が期待できる。 ・地域住民を巻き込んだ授業により、「地域」や「郷土」といった意識が互いに高まる。

支援者及び支援組織
 田辺第一小学校・中部公民館学社融合研究推進本部・授業研究部

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
日時	ねらい	活動内容	参加人数
5月上旬	一つの授業を通して学校と公民館が協力し、互いの目標を達成させるため打ち合わせをする。	学校から公民館に「学級討論会をしよう」の授業の趣旨を説明し、地域の参加者募集を依頼する。	2名
5月18日	授業に参加していただける地域の方々と打ち合わせをする	学習指導案を示しながら、本時の展開を説明し、授業のねらいを共通理解する。討論会のテーマについて、意見交換をする。	5名
5月25日	地域の方々に授業を参観してもらい、本時の取り組みがスムーズにいくようにする。	児童が行っている学級討論会を地域の方々に参観してもらい、参加の仕方を理解してもらおう。次回の討論会のテーマを知らせ、賛成・反対グループ、判定グループに役割分担をする。	5名
5月28日	学校・地域それぞれの目標を達成する。	児童と地域の方々が一緒になって「人に保護されている動物は野生にいる動物より幸せである」というテーマで学級討論会を行う。	5名



	成 果	課 題
学 校	・これまで取り組んできた地域の方々がゲストティーチャーとなる授業づくりから児童と大人と一緒に活動する授業づくりをめざし模索した取り組みであった。地域の方々の発言に学び、児童の発言が根拠を意識したものに深まっていった。今後の学社融合の授業づくりに関する研究の方向性が明確になった。	・授業実施までに、地域の方々と、授業についての打ち合わせと授業参観を実施した。このことにより、地域の方々の参加の仕方や役割が明確になった。今後は、授業のねらいに迫るために、目標や指導計画を明示し、さらに詳細な打ち合わせを行うことが必要である。
* 子どもにとって	・地域の方々が具体的な例を挙げて、根拠に基づいた発言をしてくれたので、それらの発言を聞くことにより、自分の思ったことや主張したいことを、相手に分かりやすく伝える表現方法を学ぶことができた。	・焦点化して議論を深めることができなかった。その点でいえば、司会の役割が重要となる。討論会のはじめの方は、教師が手本を示すことも必要である。また、学年の段階をおって司会をする力を積み上げていくことが大事である。
* 子どもにとって	・大人が授業に参加していることで、良い緊張感が生まれ、学習意欲の高まりを感じ取ることができた。 ・地域住民と共に学ぶことで、「地域」に対する意識が高まった。	・今後も子どもたちが自らの「地域」を意識し、かつ、学習効果を高めていけるよう研究を進める必要がある。
地 域 (公民館)	・大人が一方的に子どもたちに指導をするのではなく、参加した大人にも一生懸命取り組む姿が見られ、共に学び合うことができた。 ・これまであまり知りうることのできにくかった教育現場の様子を地域住民も知ることができ、学校と地域の距離が縮まった。	・授業の内容により、子どもたちにとってどのような人材がより効果的な学習に繋がるのか、判断基準の設定が難しい。今後は、そうしたことに対する研究を深めていくことや、より多くの人材を把握する必要性を感じる。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今回の授業の評価

児童は大人の発言の仕方や内容に対して「やっぱりすごいな。」という感想をもち、地域の方々からも「久しぶりに燃えたよ。」という感想を頂いた。この点からも、子どもも大人も共に学び合えるようにするという学社融合の理念を具現化する一つの取り組みであると考えられる。その一方で、学校としては、児童のコミュニケーション能力や表現力などを高めるよい機会となったが、地域の方々の学びの高まりという点では、よかったのかどうか評価が難しい。また、討論テーマについては、6年生児童にとって無理のないもので、情報が集められ、根拠が理論的なデータで示せるものを設定することが基本であるが、学社融合に関わるテーマで実施することも考えられる。

次年度に向けての方向性

①子どもと地域の大人が共に学びあう授業づくりを進める。

本年度は、この実践をもとに各学年で子どもと大人と一緒に活動する授業を作ってきた。その中で、参加者との事前の打ち合わせを密にしておかないと、教科のねらいが薄められてしまうことが浮き彫りになった。今後は、打ち合わせの際に、授業の目標やねらい、参加者の役割や出番などを具体的に念入りに話し合い授業に臨む必要がある。

②田辺第一小学校・中部公民館学社融合研究推進体制のもと、組織的な取り組みを進める。

教育委員会指定研究を進めるにあたり、研究推進体制を組織し、授業研究部・熊楠学推進部・クラブ活動推進部・読書活動推進部・合同行事推進部という5つの部を設置した。これらの各部には、学校職員・育友会・公民館・地域住民が入り、研究を進めている。今後は、各部の活動をさらに推進すると共に、各部の連携を図りながら、学社融合の取り組みを組織的に進めたい。

学校名	田辺第二小学校	公民館名	東部・南部公民館
-----	---------	------	----------

学社融合における学校・地域の様子

本校の校区には東部、南部の2公民館が設置されているが、これまで両公民館には専用の施設がなく、公民館主事も校区外の施設に事務所を置き、本校との連携を図ってきた。そのような中、昨年9月に東部公民館が東陽中学校に併設されたことで公民館主事が常駐となり、学社融合の取り組みをコーディネートする立場である学校と公民館の連携体制がさらに強くなった。

育友会や地域の方々は、かねてより学校行事や育友会活動等に対して協力的に参加してくれている。

活動名	昔から伝わる地域行事を知ろう	学年・教科・領域等	3年生 社会科
-----	----------------	-----------	---------

目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から地域に伝えられている祭の内容やいわれを調べ、祭の様子やそれに関わる人たちの願いや思いを理解する。 ・校外の方たちとの関わりの中で、見学や聞き取りなどをしたり、調べた事をまとめて発表したりする事で、それらの方法を身につける。
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・昔からの伝統的な行事を子どもたちに教える事で、次世代への文化の継承を支援する。 ・児童と地域の人との交流を通じて、地域行事に積極的に参加する心を育てる。

支援者及び支援組織

日吉神社の関係者

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

日時	ねらい	活動内容
11月15日	支援者に協力していただき、児童が直接電話でアポイントメントを取ることで、「見学」という活動を進める為の手順を身につけさせる。	日吉神社の見学について、児童と支援者が直接電話でやりとりし、見学日時を決定する。
11月18日	直接見たり学んだりする事で、授業ではできない体験を得るだけでなく、学ぶ上での見学態度や言葉づかいを身につけさせる。	支援者の案内や説明の下、日吉神社の境内を見学し、例祭の内容やいわれについて学ぶ。
11月18日	支援者に協力していただき、児童が見学し学んだ中で、出てきた疑問を電話でやりとりする事で、解決する力を身につけさせる。	見学終了後、日吉神社の例祭などについての質疑応答を、児童と支援者が直接電話でやりとりする。
12月9日	支援者や保護者に学習発表会を参観していただく事で、よりよい発表を見てもらいたいという意欲の向上につなげる。	学習発表会の開催(参観日) 児童はこれまでの学習の成果を参観者に分かりやすく伝え、支援者も学習発表会を参観し、感想を児童に伝える。



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・担任自身も詳しく知らない地域の伝統行事であったが、支援者から分かりやすく解説してもらえ、教師の教材へ理解が深まった。 ・昨年に続いての活動だったので、地域の方に趣旨をよく理解していただけた。ポイントを絞りこんで説明してもらった事で、児童にとってより分かりやすいものとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材として取り上げる価値のある地域題材が他にもあるので、より有効な活用方法を検討したい。 ・見学の仕方について指導が徹底できなかった部分があった。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に古くから伝わる行事について体験的に学ぶ事で、興味や関心が高まり、理解を深めることができた。 ・学習発表会を参観していただく事で、よりよい発表を見てもらいたいという意欲の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統行事を守り続けている人々の願いや思いについて、理解を十分深める事ができなかった児童もいたようである。 ・児童の興味や関心を、校区内に伝わる他の伝統行事にも広げ、積極的に参加したり調べたりする事ができるように、学習課程を改善できるとよい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と交流することで、改めて地域の良さを知ったり、地域に対する関心が強くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統的な行事を知るだけでなく、それを継承していくためには、何ができるのか考えていく必要がある。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校活動に参加する事で、子どもたちとの結びつきが深まり、学校の様子をよく理解することができた。 ・地域の伝統的な行事を子どもたちに教えることで、子どもたちが地域に対して愛着をもってほしいという願いが強くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、昨年度に引き続く取り組みであった為、共通理解をもって進めてこれた。今後、新たに支援者が他の授業に参加する際には、教職員と十分に打ち合わせを行い、授業のねらいや計画、内容等を共通理解しておく必要がある。 ・支援者を授業等に招聘する場合、年間もしくは学期ごとの授業計画に反映させていく事で、単発的に招聘するのではなく、計画的に進めていく事ができ、スムーズに進めていけるのではないかと思う。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

◎評 価

普段子どもたちは、地域の祭りなど伝統的な行事が行われているのは知っているが、それが、どのようにして今まで続いてきたのか知らなかった。しかし、今回の学習を通してその歴史を知り、改めて地域を見直すきっかけになったように思う。また、積極的に地域の行事に参加したいという子も多くなった。

本校では他にも、自分が住んでいる地域の自然を大切に育てるために、校区にある海水浴場の清掃活動を育友会や地域住民と協働で行っている。また、日本の伝統文化を学ぶために学校外の活動として、いけばな子ども教室を公民館と連携を図りながら実施しており、地域の方が子どもたちに指導したり、協働体験をする事で、地域の方も子どもたちと共に喜びや楽しみを感じてくれている。

◎次年度に向けての取り組み

- ・地域の人材の把握や整理を行う事で、様々な学社融合の取り組みを、継続・発展させていきたい。
- ・学校の教育計画や授業計画に学社融合の観点を反映させていく事で、教科や総合的な学習の時間をはじめ、様々な分野で学社融合活動に計画的に取り組むことができるようにしたい。

学社融合活動実施報告

学校名	田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
-----	---------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子
 ○本校は、西部センターや天神児童館と共同で、また連携して、各種事業や行事を行っている。地域社会の中で児童をいかに育成していくかは本校にとって重要な教育課題であり、学社融合の取組はその課題を達成するための中心に位置付けている。
 ○本校はこれまで、地域とともに人権教育・同和教育に取り組む中で、西部センターとは「天神町の教育を進める会」で、天神児童館とは「西部子どもエンパワーメント支援事業」などで行動連携を行ってきている。しかしこれまでは、西部公民館とは、直接的な関係での事業には取り組めていなかった。そこで、本年度は、公民館長および公民館主事と協議を行い、公民館と学校とを結ぶ事業や取組に着手することを考えた。
 ○その取組の中から、今年度立ち上げた西部公民館主催による田辺第三小学校での「西部公民館・明洋中学校作品展示コーナー」の取組を紹介する。

活動名	西部公民館・明洋中学校作品展示コーナー	学年・教科・領域等	全校児童対象
-----	---------------------	-----------	--------

目標	学校	○西部公民館のサークル生、教室生および明洋中学校の生徒のさまざまな作品を「展示コーナー」に展示することで、学校の文化力を向上させる。また、公民館との具体的な行動連携を強化する。 ○児童が校区に住む地域の方々や卒業生でもある明洋中学校の生徒の作品を鑑賞することで、児童の色彩感覚、美的感性、発想や構想、創作的な技能、制作意欲や向上心などを養う。
	公民館	○作品展示コーナーの取り組みをする中で、子どもたちが地域の人々と交流する機会やつながりを強く持ち、コミュニティー活動の活性化を図る。

支援者及び支援組織
 西部公民館および公民館の各教室と各サークル・天神児童館・明洋中学校(家庭科、美術科)

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

月	展示作品	出品者
6	公民館報で展示作品を募集する	
7	絵・折り紙の小物	明洋中学校美術部・山根すずゑさん
8	書道作品・家庭科作品	西部公民館書道教室・明洋中学校
9	鉛筆画	中畑太一さん
10	水彩画・未生流生け花	中畑太一さん・榎本絵里園さん
11	スイーツデコレーション こけ玉・絵手紙	天神児童館祭りの出品者
12	ポスター・家庭科作品	明洋中学校美術部・明洋中学校
1	フラワーアート	川嶋千津枝さん
2	ちぎり絵	小林絹子さん
3	写真	羽山由美子さん



	成 果	課 題
学 校	<p>○絵画作品は、構図のとり方、遠近法や陰影の作り方を参考にして、図画工作科の授業で活用することができた。</p> <p>○家庭科作品は、子どもたちに創作意欲を持たせることに役立った。また、中学校の学習について紹介することにも活用することができた。</p> <p>○折り紙で作った小物や飾りは、今後クラブ活動として発展することも期待させられるものであった。</p>	<p>○学校の教育課程に則って、展示時期や期間を調整し図画工作科の授業と関連して鑑賞できるようにすれば子どもたちの意欲向上につながり、より効果的な取組みになる。</p> <p>○中学校の作品では、美術科や家庭科の作品だけでなく、他の教科の制作作品も、できるだけたくさん掲示したい。</p> <p>○立体作品は倒れて壊れないよう展示方法を工夫したい。</p>
* 子どもにとって	<p>○子どもたちは、休み時間などに自主的に絵画作品を見て、自分の作品作りに生かそうとしていた。家庭科作品は、子どもたちが自分で作りたくなるような作品が多く、大変興味を持っていた。自分たちの作品展示についてもとても喜んでいた。</p>	<p>○さまざまな作品を展示することで、子どもたちの興味に対応していきたい。</p> <p>○作者が本校児童の関係者(兄妹、父母、祖父母、親族、知り合い、本校卒業生)であると、子どもらの印象に強く残ることから、そのような配慮を続けたい。</p>
* 子どもにとって	<p>○子どもたちが、作品を見て、「地域にはこんなすばらしい人がいるんだな」と感じてもらえたこと。</p>	<p>○地域の方々に感謝する心や、この取組みが貴重な体験であるという喜びを感じてもらいたい。</p>
地 域 (公民館)	<p>○地域の方々に多くの作品を展示していただくなど、地域の人たちと学校との距離が近くなった。今後の展開にも協力していただけると感じている。</p>	<p>○今後も、当取組みを継続的にできればと考えている。しかしながら、地域にどのような人材がいるのか、つかみ切れていないのが現状である。今後は、西部町内会連絡協議会等に、地域にはどのような人材がいるのかを呼びかけて、人材の把握に努めたい。</p>

評価及び次年度に向けての取組みの方向

○この「展示コーナー」では、子どもたちは展示作品が新しくなると必ず気付いて見ている。日頃は廊下を走り去ってしまう子どもたちも、立ち止まって見ているくらいである。大人の作品には、子どもたちは、尊敬のまなざしを向けて「上手やなあ。」「この絵、写真みたいやなあ。」「どんなにしたらこんな細かいの、作れるのかなあ。」と驚嘆の声をあげる。また、中学生の作品や児童館行事で作った自分たちの作品が並ぶと、ワイワイと話しながら見ている。それぞれの子が作品に興味を持ち、話が尽きない様子である。自分たちの知っている卒業生の作品や地域の方々の作品ということが、なおさら子どもたちを惹きつける力になっていると思われる。この取組により子どもたちの創作意欲を育むことができ、また子どもが地域の人材を知ることができた。

○この「作品展示コーナー」は、西部公民館、天神児童館と公民館主事の尽力、そして明洋中学校の全面的な協力のおかげで大成功を収めたと考えているので、次年度も継続したい。

次年度には、西部公民館や天神児童館の主催事業に学校が共催することを計画している。また、子ども、保護者、その祖父母と3世代にわたる交流が実現できるような公民館事業や学校行事を企画していきたいと考えている。

学校名		芳養小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>芳養小学校区では、『芳養共育コミュニティ本部』を母体として、「子どもの安全・安心に関すること」や「地域の伝統文化の継承」など、学校・保護者・地域・公民館が一体となった学社融合の取り組みを進めている。また、地域の教育力を生かしたさまざまな授業にも、地域の方々がSP(スクールパートナー)として参画し、担任とともに授業を創り上げている。そして、平成19年度から実行委員会を立ち上げスタートした「芳養ふれあい教室」では、芳養地域人材バンク登録者を中心に、多くの保護者や地域の方々が主体的に教室運営を行っている。どの活動についても、全員が完全無償のボランティアで、みんな“生きがい”や“やりがい”を感じながら積極的に取り組みを進めてくれている。</p>				
活動名		地域の伝統文化の継承	学年・教科・領域等	全学年
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化を学ぶとともに、郷土を愛する心を育む。 ・地域の行事に参加し、地域の方々との交流を深める。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う子どもたちへの、地域の伝統文化の継承を支援する。 ・子どもたちと幅広い世代の地域の方々との交流を図ることで、学校と地域の一体感を育む。 		
支援者及び支援組織				
町内会・婦人会・青年団・大神社総代会・保護者・地域の方々				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<ul style="list-style-type: none"> ●7月1日(木) 大神社夏祭りの神輿渡御に参加【6年生:総合的な学習の時間】 ※児童の見守り安全ボランティアとして保護者5名が参加 ●9月9日(木) 芳養浦音頭の練習【3～6年生:体育科】 ※SPとして婦人会8名が参加 ●9月19日(日) 秋期大運動会にて芳養浦音頭を踊る【3～6年生】 ※保護者や地域の方々と一緒に踊る ●9月下旬頃 大神社例大祭に向け、神輿屋台の飾り作り【全学年】 ※屋台の飾り(1～3年生:短冊 4～6年生:花) ●10月8日(金) 松原青年団による獅子舞披露【全学年】 ※低学年は図工科の題材として扱う ●10月10日(日) 大神社例大祭の神輿渡御に参加【6年生】 ●12月10日(金) 大神社の歴史についての学習【5年生:総合的な学習の時間「芳養に生きる」】 ※大神社の宮司さんからインタビュー形式で教えていただく ●2月下旬頃 芳養浦音頭についての学習【4年生:音楽科】 ※作られた当時の様子や歌詞の内容について地域の方々から教えていただく 				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流がさらに深まったことで、地域の教育力を生かした授業づくりをする際に、気軽にSPを依頼できる環境が整ってきた。 ・学校が地域行事に参加する機会が増えたことで、地域の方々との距離が近くなり、地域との一体感が生まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことをもっとよく知り、地域の伝統文化を継承していくための新たな教材開発をしていきたい。 ・校外での学習活動をより安全に行うためにも、保護者による安全ボランティアをもっと充実させていきたい。
*子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統行事を継承していく意義を学ぶことができた。 ・地域の一員としての自覚を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業として参加するだけではなく、個々に課題意識を持ち、学習に生かしていこうとする姿勢を育てていきたい。
*子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの地域の方々顔見知りになることができ、学校以外の場で出会っても、自分からあいさつができるようになってきた。 ・地域行事に参加する姿勢を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動以外でも、保護者と一緒にもっと積極的に地域行事や公民館活動に参加するなど、日常的な学校・家庭・地域の交流へとつなげていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から交流を図っている町内会や婦人会だけではなく、普段はあまり交流する機会がない青年団など、若い世代の方々とも交流することができた。 ・地域の伝統文化を、次代を担う子どもたちに継承していくための良い機会となった。 ・盆踊り大会や町民運動会でも、「芳養浦音頭」を地域の方々と一緒に踊ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの地域の方々に参加していただくためにも、このような取り組みを継続して実施しているということをもっと地域に発信できるよう、効果的な周知方法を考えていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・子どもたちが地域行事に参加することで、地域の活性化にもつながっている。
- ・「芳養ふれあい教室」や「地域の教育力を生かした授業」で育まれた地域の方々子どもたちとのつながりを、さらに地域の伝統文化の継承にも役立てていきたい。
- ・芳養浦音頭についての学習を授業で扱うことで、地域の方々の芳養浦音頭に対する思いを知ることができ、踊りにも前向きに取り組むことができたので、今後も継続して学習に取り入れていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名		大坊小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>校区内には地域の文化施設や商店がないため、学校は地域の文化・教育・厚生のための唯一の場所であり、地域住民の交流センター的な役割を果たしている。そのため、地域住民は子どもたちや学校職員に対する愛着も強く、学校行事等をはじめとする児童の諸活動にあたっては、地域を挙げての協力体制を得ることができている。</p>				
活動名		大坊のびのび教室	学年・教科・領域等	全学年の希望者
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・休日の土曜日に、子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進する。 ・読み聞かせやものづくりの活動を通して、豊かな心を育てる。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・休日の土曜日に、子どもたちが安全に、安心して過ごせる居場所づくりを推進する。 ・子どもたちが心豊かに育まれるよう、文化活動や地域住民との交流に取り組む。 		
支援者及び支援組織				
のびのび教室母の会(保護者)・田辺おはなしの会・地域の方々(講師)・育友会				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
(ねらい)				
<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを通して、子どもたちの心を豊かにする。 ・ものづくり活動をする中で、多くの方々と交流を深め、体験を豊かにする。 				
	日 時	活 動 名	活 動 内 容 等	
	5月15日	ものづくり教室	のびのび教室母の会による、石ころペイントを楽しむ。	
	6月 5日	読み聞かせ教室	のびのび教室母の会による、読み聞かせを楽しむ。	
	6月19日	ものづくり教室	鹿毛先生による、動くゲーム活動を楽しむ。	
	7月18日	ものづくり教室	ペットボトルロケットを親子で作って飛ばそうを楽しむ。	
	8月 7日	読み聞かせ教室	田辺おはなしの会による、読み聞かせを楽しむ	
	9月 4日	ものづくり教室	篠原先生による、ちぎり絵を楽しむ。	
	9月25日	ものづくり教室	鹿毛先生による、工作活動を楽しむ。	
	10月 2日	ものづくり教室	のびのび教室母の会による、バスケットピンポンを楽しむ。	
	10月16日	ものづくり教室	山口先生による、親子リズムあそびを楽しむ。	
	11月 6日	ものづくり教室	篠原先生による、ちぎり絵を楽しむ。	
	11月20日	読み聞かせ教室	のびのび教室母の会による、読み聞かせを楽しむ。	
	12月 4日	読み聞かせ教室	田辺おはなしの会による、読み聞かせを楽しむ	
	12月18日	ものづくり教室	クリスマス会を楽しむ。	
	1月15日	ものづくり教室	中本先生による、アメリカンフットボールを体験する。	
	2月 5日	読み聞かせ教室	田辺おはなしの会による、読み聞かせを楽しむ	
	2月19日	ものづくり教室	鹿毛先生による、工作活動を楽しむ。	
	3月 5日	読み聞かせ教室	のびのび教室母の会による、読み聞かせを楽しむ。	

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業とはちがった活動を行うことで児童の学習経験の幅が広がった。 ・楽しく活動することでストレス解消になり、学校での学習意欲が高まった。 ・公民館の協力で、活動費用が確保されており、また、安全に活動することが出来ている。 ・ゲストティーチャーの創意工夫による取り組みが、子どもたちの国語、図工、体育などの教科への興味、関心を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の幅が広がったが、今後、マンネリ化しないよう常に工夫する必要がある。 ・活動中は学校施設を利用しているため安全であるが、登下校の安全対策に保護者の協力が必要である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの積み重ねが、子どもたちの読書の幅を広げ、自分たちでも読み聞かせをするようになった。 ・ものづくり体験で、材料の利用法や道具の使い方などを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験するだけで終わるのではなく、活動の感想を述べ合ったり、1年間の記録を残したりすることも大切である。 ・集合や準備、清掃、片付けなどを自主的にできる態度をより育成したい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が当番制で読み聞かせを行い、「聞く側」と「聞かせる側」の両方の立場を経験することができている。 ・授業では学ぶことの出来ないスポーツなども体験することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、より主体的に活動に取り組める工夫が必要である。 ・今後は、地域行事や公民館活動へも積極的な参加が望まれる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と公民館による運営ではなく、「のびのび教室母の会(保護者)」による、主体的な教室運営が定着してきている。 ・活動を通して、学校・家庭・地域が一体となって地域の子どもを育てるという意識が高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の支援者や、ボランティアを担ってくれるメンバーが特定化してきている。 ・継続的に実施することにより、活動がマンネリ化している傾向にある。 ・登下校時の子どもたちの安全確保に関するより良い方法を考えていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・公民館を中心に、継続的に活動を展開することで、「地域の子どもは地域で育てる」という意識がより一層深まってきている。
- ・のびのび教室母の会(保護者)の方々が中心となり、大変熱心に取り組んで行ってくれていることが活動の大きな成果である。
- ・長期間継続的に取り組みを進めているため、マンネリ化しないよう活動内容の充実を図っていきたい。
- ・地域の産業であるみかんの収穫期は、どうしても保護者等の支援が手薄になるため、今後はこの時期の支援体制をどうするかについて考えていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名	新庄小学校	公民館名	新庄公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>新庄小学校では、「地域と連携し、地域を知り、地域を学び、地域を愛する児童を育成すること」を目標に、農業、伝統的な祭りや行事、福祉、地震や津波等について学習する機会を設け取り組んでいる。</p> <p>新庄地域は、県指定無形文化財の「ぎおんさん」を始めとする伝統的な行事も多く、地域の方や各種団体の方々も学校教育活動にたいへん協力的である。</p> <p>また、新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしている。また、年に一度当番校が公開授業を行う合同研修会を開催し、全職員が共に研修をしている。</p>			
活動名	農業体験学習	学年・教科・領域等	1・2年生活科 3・4年社会科,学級活動 5・6年社会科,総合的な学習の時間,学級活動
目標	学校	農業の栽培、収穫体験活動を通して地域の様子を知ると共に、心豊かな子どもを育てる。	
	公民館	地域の教育力を学校教育に生かすと共に、地域の方々に学校や子どもの様子を知ってもらい、今後の地域づくりに生かしてもらおう。	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>地域の方々 JA紀南新庄支所</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>5月～</p> <p>[学習園でさつまいもを育て、栽培の苦労と収穫の喜びを体験する。(1～6年)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕耘、畝づくり、マルチがけを地域の方に手伝ってもらい、全校児童がさつまいもの苗を植える。 ・分担を決め、水やり草ひき等の世話をする。 ・さつまいもを収穫し、調理して食べたり家庭に持ち帰ったりする。 <p>5月～</p> <p>[野菜や花を植え栽培収穫することにより、いろいろな種類の植物を育てることができることを知り、大切に世話をする経験を通して、豊かな心を育てる。(1～3年)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習園に種や苗を植える。 ・分担を決め世話をする。 ・育てた体験を話し合ったり、発表したりする。 ・収穫し、調理したり家庭に持ち帰ったりする。 <p>6月～</p> <p>[梅の収穫加工を体験することにより、自然の恵み、農業の苦労や喜び、地元の産業の様子を知り、自分が生活する地域の理解を深める。(5年)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅を中心とした農業の様子について学習する。 ・地域の方に畑を提供してもらい、梅の収穫を体験する。 ・梅をジュースや梅干しに加工する。 ・ジュースを試飲したり、家に持ち帰り家庭での話題にする。 ・梅の加工場や物品販売所を見学する。 ・体験をまとめ発表し、交流する。 <p>11月</p> <p>[みかんの収穫をし農家の人の話を聞くことにより、農業の様子を知り、地域の特産物について理解を深める。(4年)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みかん栽培のことを学習する。 ・地域の方に畑を提供してもらい、みかんの収穫体験をする。 ・農家の人やJA指導員から話を聞き、みかん栽培のことを学習する。 ・体験や学習を振り返りまとめ深め合う。 			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に依頼したりともに活動したりする中で、地域の人々との距離が近くなり、話もよくなってきた。 ・地域の方に学校や子どものことを知ってもらうことにより、「地域の学校」という意識が広がってきた。 ・教室だけでは教えられないことを学ばせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に教えてもらう、地域に出かけて体験する、というように受身の活動になっている。児童が地域の役に立つようなものや学校の教育力を地域に生かすことのできるような活動が必要である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな農業体験を通して知識や経験が広がり、自然のことや農業のことを学習し、考えることができた。 ・地域へ出向き、地域の人に教えてもらうことにより、地域のことを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は意欲的に活動しているが、積極的になれない児童も見られ、個人差が見られる。しかし、そのような児童にこそ必要な活動である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様子を知ると共に、在住の大人の方々と触れ合うことで、少しずつ社会的な視野を広くするための機会を提供することができた。 ・祭りなどの地域行事に参加する児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後さらに多くの関わり合いから、地域やふるさとを大切にす気持ち育てていければと考える。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が子どもに地域の様子を教えたり、農業体験をさせることにより、さらに地域を見直し大切にしようという気持ちが強くなった。 ・学校や児童の様子を知ることにより、以前と比べて、「地域の学校や子ども」といった意識で接してくれるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関わる人が限られているので、今後の人材発掘が求められるのだが、現状のままでは新規発掘はなかなか難しい。 ・より多くの人が双方向で参加できるような取り組みができるとよい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

- ・協力してくれた地域の方は、毎回準備万端整えてくれている。
- ・農作物ができる様子から栽培の苦労と収穫の喜びを体験させることができた。
- ・分担を決め世話をすることから、役割の大切さや、育てる喜びを経験させることができた。
- ・農業の学習や体験をすることにより、地元の農業のようすを知り、地域への理解を深めることができた。
- ・栽培は長期にわたるため、興味を持続させることが難しい。

○次年度に向けて

- ・新学習指導要領の実施にともなう総合的な学習の時間の変更により、内容の見直しが必要であるが、充実した取り組みが多いので内容をよく吟味し精選していきたい。
- ・学校の特長を生かして児童が地域の役に立つような活動を取り入れたい。
- ・気軽に学校の手伝いをしてもらったり、子どもに遊びを教えてもらったりするような形の取り組みをしたい。



学社融合活動実施報告

学校名	新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>学社融合が強く叫ばれる以前から「新二まつり」が実施され、本年度で22年目を終えた。この取り組みは、学校・家庭・地域が一体となり進めてきている。又、生活科や総合学習で、地域を知り、ふれあい、深め合う関係を作っている。学校支援ボランティアでは、登下校の見守り隊・読み聞かせ・校外学習の引率支援・サークル活動(クラブ活動)の支援・校庭の庭木の剪定・花壇の手入れ・英語学習や水泳指導の支援・実習授業での指導補助等、地域との関わりが昨年度よりさらに広く深い活動になってきている。</p>			
活動名	出会い・ふれあい・深め合い	学年・教科・領域等	全校・全教科・領域 (生活・総合を中心に報告)
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・領域の中で家庭・地域との連携を深める取り組みをさらに継続、発展、充実させる。 公民館、幼稚園、隣接小学校、中学校と定期的な会を持ち、情報交換や行事などの相談をしながら、地域の教材化や教育力の活用を推進し、地域との体験的活動を積極的に行う。 	
	公民館	<p>地域で活動されている方々を始め潜在的な人材を把握し、地域と学校が共に育つ環境をつくるための支援(機会や場の提供)を行う。</p>	
支援者及び支援組織			
<p>小学校・公民館・保護者・地域・新二まつり実行委員会</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) (全教科・全領域で取り組んだが、今回は、総合学習や生活科の主な取り組みについて報告をする。)</p> <p>○1年「地域のお年寄りの方との交流」 ねらい(様々な活動を通し地域のお年寄りの方とふれあう。) ・5月27日地域にある老人施設「真寿苑」訪問 ・9月12日の敬老会でのダンス披露・9月19日の運動会でのお年寄りの方との玉入れ(共に2年生と一緒に活動)などでお年寄りの方と交流した。</p> <p>○2年「町たんけん」 ねらい(自分たちが住んでいる町のお店探検を通してそれに関わる人々と交流する) ・6月25日校区を6グループにわけて探検し、自分たちの町を調べた。お店やさんのことを調べたり校区の方々とふれあったりした。各グループには、6名の保護者の方についていただき、安全確保に対するご協力もいただいた。</p> <p>○3年・なかよし「自分たちの町のぎおんさん」 ねらい(地域の伝統行事を知り、出品作品を制作する。) ・7月8日 祇園さんの由来や作品作りを講師先生に教えていただいた。 「ものを作る人びとの仕事」 ねらい(みかん作りについて学習し、それに関わる人々と交流する。) ・10月・11月「みかん作りの学習」 地元でみかん栽培している方々にご協力いただき、みかん畑でみかん作りの説明を聞き、みかん採り体験をさせていただく。又、水の確保について教えていただき貯水池の説明などをしてもらった。それを「みかん作りの？」として新二まつりで発表した。</p> <p>○4年「結ぼう 人と自然一みんなにやさしい町をめざして」 ねらい(公園の木を調べ地域の方と交流する。) ・10月・11月 新庄総合公園へ行き、新庄総合公園の管理人さんや市役所の方に教えていただく。『一自然を守ろう 2010』として新二まつりで学習したことを発表した。</p> <p>○5年「新二遺産一受け継ごう 私たちの伝統」 ねらい(地域の獅子舞について調べ、伝統を受け継ぐ。) ・10月・11月 内の浦の獅子舞に関わっていた方々の家に向き、内の浦の獅子舞の歴史や獅子舞への思い等の聞き取り学習をしたり獅子舞の舞い方を教えてもらう等の学習をした。それを『未来に残そう！新二遺産』としてまとめ、新二まつりで発表した。又、内の浦の祭り当日には、新二まつりで獅子舞を舞った児童が神前でも舞った。</p> <p>○6年「ともに生きる一地域の魅力再発見！」 ねらい(地域の施設等を調べ人々と交流し地域の魅力を見つける。) ・10・11月地域の施設等(塩作り・新庄総合公園・鳥の巣洞窟・BIG U・神島郵便局等)を訪問し、そこで働く人の様子を観察したり、聞き取り学習をしたりした。学習したことをまとめ、『サンデープロジェクト・S』として新二まつりで発表した。</p> <p>○学校行事「新二まつりー出会い・ふれあい・深め合い」～午前の部～ねらい(地域の方々に学習したことを知らせる) ・11月14日 各学級が総合的な学習などで取り組んだことを発表した。</p>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りの方々との交流では、核家族化している現在、おじいさんやおばあさんと触れ合うことでやさしい気持ちを育てることができた。 ・地域の農業、自然、施設、伝統文化等の調べ学習とそれに関わる地域の方々との交流を通して郷土愛を育てることができた。 ・学習したことを「新二まつり」の午前の部で地域の方々へ伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度もさらに地域へ積極的に出て行く活動を増やし、地域とのつながりを深めていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とふれあうことでコミュニケーション能力を高め、地域の魅力を再発見し、地域を誇りに思い、大切にしようとする心が育った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがさらに主体的に地域とかかわり活動できるように取り組みをすすめていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事などを通じて、地域の方々をはじめ多様な方々と触れ合う機会をもつことができ、学校内だけでは経験できないことを、実体験するなど良い刺激になった。 ・新二まつりで地域学習などを発表することで、学習成果を伝えることができ、同時に特に新興地域住民には地域の様子を伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のゲストティーチャーが固定化してきているため、子どものニーズに合わせた人材を確保するためのコーディネーターが必要である。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・新二まつりでは、舞台照明などの協力が得られ、発表内容が伝わりやすかった。 ・内の浦の獅子舞については、祭り当日に神前で子ども獅子舞として舞うことにもつながり、今後の伝統文化の継承に有意義であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学習をさらに取り組みやすくするため、より多くの人材を確保するとともに、コーディネーターを養成し活用する。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・生活科、総合学習において学年当初に学校全体で計画を立て確認することにより、系統だった取り組みができ、学習が積みあがっていることで、成果をあげてきている。その取り組みにより、地域の魅力を再発見し、そこに関わっている人の想いを感じ取り、また、その想いを受けて、自分たちにはできることを考え、実践する態度が育ってきていると考える。

・新二まつりでの午前の部を学習発表とし、地域から教えていただいたことを地域へ発信する場を設定していることも大切なことだと考えられる。

・5年生の内の浦の獅子舞の学習では、「新二まつり」の後、地域の神社へ出向き、祭りで獅子舞を奉納した。後継者として将来育つ可能性も考えられ、今後の地域の伝統文化の継承に意義深いものであった。

・ゲストティーチャーなどの確保では、すでに取り組んでいることについては、人材マップをもとに公民館からお願いしていただいたり、学校からお願いしたりしているが、新たなこととなると難しい面も考えられる。やはり、地域のコーディネーターの役割をして下さる方がいれば、地域の学習に取り組みやすいと考えられる。

学社融合活動実施報告

学校名	稲成小学校	公民館名	稲成公民館																																																										
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の諸団体に実行委員会を組織し、子どもたちの居場所作りとして、稲成ふれあいスクールを定期的に開催している。その中で、地域の方々を講師として、スポーツ活動(卓球・グラウンドゴルフ等)や文化活動(将棋・料理等)を行っている。 ・学校は、地域の農業従事者の指導のもと、総合的な学習の一環として、野菜作り・梅取り・米作りなどを行っている。 ・グラウンドゴルフや清掃活動を通し、地域の老人会と児童との交流を行っている。 ・公民館のコーディネートのもと、地域の方々を指導者として、絵画や書道、伝統文化の学習を深めている。 ・地域の諸団体・公民館・学校の連携のもと、町民運動会やふれあい文化祭などの行事を行っている。 																																																													
活動名	2010いなりふるさとまつり	学年・教科・領域等	全学年(生活科・総合的な学習・児童会・学校行事)																																																										
目 標	学校	・地域の方々に学校にお越し頂くことで、学校での子どもの様子を知って頂くとともに、子どもたちと地域の方々とのふれあいを深める。																																																											
	公民館	・地域社会の中で、地域住民と子どもたちの交流を深めることにより、コミュニティー活動の活性化を図る。																																																											
<p>支援者及び支援組織</p> <p>小学校、小学校PTA、子ども会、保育所、稲成公民館、稲成町内会、むつみ町内会、愛郷会、JA稲成支所、老人会、消防分団、青年グループ、市議会議員、地域住民</p>																																																													
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>○平成22年7月21日 第1回実行委員会 内容:運営要項・趣旨説明、実行委員長選出、内容検討</p> <p>○平成22年10月22日 第2回実行委員会 内容:餅つき、駐車場、抽選会、一般作品、農産物、バザー、前夜祭に係る各部役割の検討、当日までのスケジュール、案内・チラシ(案)</p> <p>○平成22年11月25日 第3回実行委員会 内容:運営等に係る各部の最終確認</p> <p>●平成22年12月4日～5日 2010いなりふるさとまつり</p>																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>日 時</th> <th>事業内容</th> <th>日 時</th> <th>事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">4 土</td> <td>8:00～9:00</td> <td>準備開始 農産物受付</td> <td>8:45～</td> <td>一般公開</td> </tr> <tr> <td>9:00～11:00</td> <td>農産物搬入、一般作品受付・搬入</td> <td>8:45～</td> <td>グラウンドゴルフ開始(いわき会、小学校児童合同)(グラウンド)</td> </tr> <tr> <td>9:00～12:00</td> <td>農産物展示・審査、一般作品展示</td> <td>10:00～</td> <td>売店販売開始</td> </tr> <tr> <td>12:00～17:00</td> <td>一般公開</td> <td>10:15～12:00</td> <td>稲成小学校学習発表会(体育館)</td> </tr> <tr> <td>18:00～21:00頃</td> <td>ふれあい文化祭(夜の部)</td> <td>12:00～13:00</td> <td>福引発表会</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">5 日</td> <td></td> <td></td> <td>13:00～</td> <td>全員集合 稲成保育所発表会(体育館)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>13:30～14:30</td> <td>即売会の受付</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>14:30～15:00</td> <td>式典・表彰式開始</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15:00～15:30</td> <td>もちまき</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>15:30～</td> <td>即売会の引き渡し(餅まき終了後)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>一般作品撤収</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>16:00～</td> <td>後片付け</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>17:00～</td> <td>後片付け終了</td> </tr> </tbody> </table>				日 時	事業内容	日 時	事業内容	4 土	8:00～9:00	準備開始 農産物受付	8:45～	一般公開	9:00～11:00	農産物搬入、一般作品受付・搬入	8:45～	グラウンドゴルフ開始(いわき会、小学校児童合同)(グラウンド)	9:00～12:00	農産物展示・審査、一般作品展示	10:00～	売店販売開始	12:00～17:00	一般公開	10:15～12:00	稲成小学校学習発表会(体育館)	18:00～21:00頃	ふれあい文化祭(夜の部)	12:00～13:00	福引発表会	5 日			13:00～	全員集合 稲成保育所発表会(体育館)			13:30～14:30	即売会の受付			14:30～15:00	式典・表彰式開始			15:00～15:30	もちまき			15:30～	即売会の引き渡し(餅まき終了後)				一般作品撤収			16:00～	後片付け			17:00～	後片付け終了
日 時	事業内容	日 時	事業内容																																																										
4 土	8:00～9:00	準備開始 農産物受付	8:45～	一般公開																																																									
	9:00～11:00	農産物搬入、一般作品受付・搬入	8:45～	グラウンドゴルフ開始(いわき会、小学校児童合同)(グラウンド)																																																									
	9:00～12:00	農産物展示・審査、一般作品展示	10:00～	売店販売開始																																																									
	12:00～17:00	一般公開	10:15～12:00	稲成小学校学習発表会(体育館)																																																									
	18:00～21:00頃	ふれあい文化祭(夜の部)	12:00～13:00	福引発表会																																																									
5 日			13:00～	全員集合 稲成保育所発表会(体育館)																																																									
			13:30～14:30	即売会の受付																																																									
			14:30～15:00	式典・表彰式開始																																																									
			15:00～15:30	もちまき																																																									
			15:30～	即売会の引き渡し(餅まき終了後)																																																									
				一般作品撤収																																																									
			16:00～	後片付け																																																									
			17:00～	後片付け終了																																																									
	<p>◎会場:稲成小学校体育館・教室</p>																																																												
	<p>○平成23年1月14日 第4回実行委員会 内容:決算報告及び反省と課題</p>																																																												

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの地域の方々にお越し頂き、子どもたちの学習の様子や成果を見て頂くことができた。 ・地域の大勢の方々とふれあうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は5年に1回のふるさとまつりであったが、毎年行われている「いなりふれあい文化祭」ともタイアップして、子どもたちの地域行事への参加体制をより整えていくこと。 ・より多くの地域の方々に学校に来て頂けるような手立てをどのようにしていくか。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが学んだことを、地域の方々に向けて発信できる良い場となった。 ・地域の伝統文化を学ぶことで、地域の方々の思いや願いを感じることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上学年から下学年への取り組みの継承。 ・地域の方々によって育てられているという意識をもち、感謝の気持ちを忘れないようにする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・このまつりを通して、子どもたちが、地域の方々とはふれあい、交流を持つことで、地域と子どもの関係が、より深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の催しにも積極的に参加し、故郷の一員であるという自覚をもってもらいたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに知識や経験、技術を伝えることにより、地域の活性化が図れた。 ・地域住民同士の交流を深めることができた。 ・地域の伝統文化が、次世代へ継承することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中には、積極的に行事に参加してくれる人、参加してくれない人がいる。もう少し、多くの地域の方々を巻き込んだ活動となるようにしていかなければならない。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域住民が大勢集まり、2010いなりふるさとまつりが、盛大に開催された。5年に一度のイベントということもあって、学校、町内会、各種団体の方々が積極的に参加し、祭りを大いに盛り上げてくれた。
- ・子どもたちも地域の人たちと 触れ合うことができ、郷土を愛する心が育ったように思う。
- ・地域の例祭等に子どもたちが積極的に参加するなど、地域の文化を守っていこうとする姿も見られた。地域行事の学校教育化、学校教育の地域行事化を図るためにも、毎年秋に行われる「いなりふれあい文化祭」ともタイアップして学習活動を行っていくことができないか、探していきたい。
- ・今後もつながりを大切にする地域という視点で、学社融合事業を継続させていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名	田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校は平成7年度に敷地内にひがしコミュニティーセンターが併設され、以来、「開かれた学校」を目指し、公民館と協力して学社融合の取組を進めてきた。今年度は3年生が総合的な学習の時間に取り組んでいる「クリーン作戦」の一環として、例年の公園の清掃活動に加えて、ひがしコミュニティーセンター進入路の脇や、国道沿いの花壇に花を植えることで、地域の皆さんに楽しんでもらえるような環境美化活動を考えた。日程を調整して、今年で3回目となる公民館・学校・校区の4町内会が一体となった”ひがしふれあい秋祭り”の前に花を植えて、祭りの参加者に見てもらえるようにした。また、地域で花を植える活動をしている「特定非営利活動法人花つぼみ」の協力を得て、花を植えることの意味を学習し、その学習の一環としてひがしコミュニティーセンター進入路や国道沿いに花を植える活動を行うことができた。</p>			
活動名	ぼくたちのクリーン作戦	学年・教科・領域等	第3学年 総合的な学習の時間
目標	学校	第3学年総合的な学習の時間に、地域の公園の清掃活動や、地域のNPO法人花つぼみの活動を学び、自らも花を植える活動等を通して、地域を美しくすることで人の心も豊かになっていくことに気付かせるとともに、地域に貢献できる喜びを地域の方々や保護者とともに共有することを目標とする。	
	公民館	地域の公園の清掃活動や、近くの国道沿いやひがしコミュニティーセンターの進入路の脇に児童が花を植える活動等を通して、地域環境の向上に資するとともに、公園清掃やNPO法人花つぼみとともに地域の美化活動に子どもが参加しているという姿を示すことで、地域の美化活動に対する気運を高めていくことを目標とする。	
<p>支援者及び支援組</p> <p>田辺東部小学校・ひがし公民館・特定非営利活動法人花つぼみ</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>7月12日</p> <p>・3年生児童が、ひがしコミュニティーセンター大集会室で、NPO法人花つぼみ代表の古守氏から、花つぼみ設立の意義や願い・活動等について、プロジェクターで写真も見ながら話を聞く。</p> <p>7月15日 午前中</p> <p>・3年生児童が、NPO法人花つぼみの方に花の植え方を教えてもらい、国道42号線バイパス脇の花壇にキバナコスモス・ハウセンカなどの花を植えた。</p> <p>10月14日(木)</p> <p>・全校参観日に、ひがしコミュニティーセンター大集会室において、3年生児童がNPO法人花つぼみの古守氏から、クイズ形式で活動の意義などを聞くとともに、引き続いて、ひがしコミュニティーセンターの進入路脇の花壇、並びにプランターや鉢に、親子で花を植えた。</p> <p>11月 8日(月)</p> <p>・新万・朝日ヶ丘の公園(新万小公園・かいじゅう公園・たこ公園・花公園)で3年生児童がクリーン作戦(ごみ拾い活動)を実施した。</p> <p>11月11日(木)</p> <p>・南新万・あけぼのの公園(三角公園・ラクダ公園・なかよし公園)で3年生児童がクリーン作戦(ごみ拾い活動)を実施した。</p>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・国道沿いの花壇に花を植えることで、地域の美化に貢献することができた。 ・花の咲く環境で、“ひがしふれあい秋祭り”の開催を盛り上げることができた。 ・地域の公園を清掃し、ポスターを掲示する活動を通して、公共施設をきれいに使おうという心情を培うことができた。 ・保護者ととともに、地域の美化に貢献できる喜びを共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と一緒に活動できる機会を増やしていくことで、子どもたちに、地域の一員としての自覚を高めるとともに、地域に見守られているという認識をより一層高めること。 ・毎日水をやるというような機械的な世話ではなく、花の状態に合った世話を継続的にしていくこと。 ・公共施設をきれいに使おうとする心情をさらに培っていくこと。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・国道やコミュニティーセンターで自分たちが植えた花を目にしたり、自分たちが清掃した公園を利用したりする中で、花のある環境やごみのない環境をうれしく思う心情が育ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を継続する中で、地域の一員としての自覚を持ち、地域の美化に貢献していこうとする心情をさらに醸成していくこと。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人花つぼみの活動を知るとともに、花を植えて、地域の美化活動に参加することの意義を知ることができた。 ・公園清掃やポスターを貼る活動によって、自分たちの公園であるという意識が芽生えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を通して、地域の環境を大切にするとともに、地域の方々に感謝し、素直で親しみを持った接し方ができるようにすること。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公園や花壇やコミュニティーセンター前の美化を進めていこうという機運を高めることができた。 ・プランターを置き、明るい雰囲気の中で“ひがしふれあい秋祭り”を開催することができた。 ・花植えは、参観日かねて保護者との共同作業で行う機会も持つことができたので、保護者に対する地域美化活動の啓発にもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園清掃や地域に花を植える活動をきっかけとして、地域の人々と直接触れ合う機会を今後も模索していく必要がある。 ・公民館と学校と地域が中心となって活動を継続させていくことが課題である。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に評価できるのは、学校・公民館・地域の団体が協力して活動を行うことができたことである。学校が授業の一環として参観日などの機会も捉えて取り組んだことで、地域の公民館のために、子ども・保護者・地域のNPO・公民館が協働的な活動を行うことができた。 ・公園清掃は、総合的な学習として年間指導計画に位置づけているので、取り組みが定着している。 ・地域のNPO法人花つぼみの協力を得て、児童と保護者で“ひがしふれあい秋祭り”の会場美化にも貢献することができたこと。 ・事前学習や活動をまとめる学習等によって地域を大切にしようという心を醸成するとともに、公園へのポスター掲示などによって、地域に情報を発信することができた。 ・国道42号バイパス周辺の花壇に花を植えた活動が評価されて、近畿道路事務所から表彰された。 <p>次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して公園の美化活動や花を植える活動を行うために、学校と公民館と地域の団体が主体となって協働的な活動をしていくことが必要である。 ・コミュニティーセンター前に花を植える活動は、継続的な取り組みにしていくことも検討していく。 ・上記のような活動を通して、より発展的な活動を模索していく。 		

学校名	会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>学校・地域が一体となって実施している「あんどんまつり」や「会津さわやかコンサート」をはじめ、学校が保護者や校区協議会、公民館、NPO等地域の各種団体と密接な連携・協力体制を図りながら、様々な地域活動・学校教育活動を展開している。その一環として、小学生向け各種短期教室を公民館・学校と地域の各種団体の協力の下に開催した。</p>			
活動名	・「夏休み短期教室」「公民館見学」	学年・教科・領域等	全学年の参加希望者(理科・図工・体育・家庭科等)、3年生(総合的な学習)
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館、各地域団体の諸活動と学校教育との融合 ・子どもたちの地域行事への積極的な参加と、学校外生活の充実 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・休日や放課後における子どもが安心して過ごせる居場所・学びの場づくり ・地域全体で子どもを見守っていく意識の向上 ・地域の文化や活動について、実際の活動を通じて子どもに伝える 	
支援者及び支援組織			
<p>公民館サークル(きんようクラブ、さわやかサークル、めだかサークル)、老人会 会津スポーツクラブ(地元NPO)</p>			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>○ 夏休み短期教室</p> <p>●「ふしぎ科学実験教室」(秋津公民館) 秋津多目的センターを会場に、会津小学校の先生が講師役となり全学年の希望者を対象にしたBTB溶液の化学反応やドライアイスを使用した体験型の理科実験教室を行った。 ・7月26日(月)13時30分～<色の変化を楽しもう・スライムづくり>講師:竹辺志朗 教諭 色んな液体にBTB溶液を加えた化学反応による様々な色の変化の実験や、バルーンスライムの製作 ・8月3日(火)13時30分～<ふわふわ雲・宙に浮かぶシャボン玉>講師:井口哲也 教諭、野田泰輔 教諭 水槽の中のドライアイスの煙の上に浮かこわれにくいシャボン玉づくりなど。</p> <p>●「おかしづくり教室」(秋津公民館) ・7月30日(金)13時～ 講師:地域の保護者の方々 秋津多目的センター調理室にて、子どもたちが各班に分かれて協力しながらフルーツゼリーを作った。</p> <p>●「盆踊り教室」(万呂公民館) ・7月3、10、17、24、31日、8月7、14日(各土曜)13時～ 会場:万呂コミュニティセンター 8月18日(水)、19日(木)、20日(金)19時～ 会場:会津小体育館 きんようクラブ・さわやかサークル・めだかサークルの3公民館サークルと会津スポーツクラブの協力により実施。あんどんまつりでの盆踊りに向けて、地域住民が子どもたちと直接ふれあいながら伝統文化を教える場となった。</p> <p>●「あんどん作り教室」(秋津・万呂公民館) ・7月17日(土)、21日(水)、27日(火)、31日(土)13時～ 会場:秋津多目的センター ・7月24日(土)、26日(月)、28日(水)、29日(木)、30日(金)13時～ 会場:万呂コミュニティセンター あんどんまつりに向けて、老人会や地域の方々の協力を頂きながら約500個のあんどんを作った。小学校では授業にて全校児童が絵や字を描いてあんどんに張る紙の製作に取り組んだ。</p> <p>○ 公民館見学 会津小学校3年生児童が総合的な学習の時間の授業にて秋津・万呂公民館見学を実施した。社会教育と地域の様々な活動の拠点となっている同センターを実際に見学し、公民館活動の実際について、公民館主事より児童に直接伝えることにより、地域への理解を深めることを目的とする。 12月6日(月)10時45分 会場:万呂コミュニティセンター、12月7日(月)10時45分 会場:秋津多目的センター 講師:宮本万呂公民館主事、下田秋津公民館主事(引率教員:辻村・池永・松尾教諭)</p>			

	成 果	課 題
学 校	学校の教諭が地域へ出る機会や公民館・各種団体との連携、児童が学校内外で地域の方々とたくさんふれあうことを通じて、学校全体の地域との距離がより近くなった。	今後とも、地域の特色を生かした学習課題を追究していきたい。また、公民館との連携に関しては諸活動の取り組みが不可欠であり、地域の方々との協力体制構築の上で、さらに推進・充実させていきたい。
* 子どもにとって	活動の過程を通して、学校とは違う場所での成就感を味わうことができた。また、地域の多くの方々や公民館の存在についても意識する良い機会となった。	家庭や地域での社会体験や自然体験、伝統文化に触れる機会が少なくなっている現状の中で、より多くの地域の方々との触れあいや体験活動が今後とも必要である。
* 子どもにとって	1年生から6年生までが一緒になって学ぶことで上級生から下級生への気遣いやコミュニケーション面でも良い経験となった。また、地域の文化や諸活動に関心や理解を深めることができた。	幅広い年代の子どもたちが一定時間、集中力を保っていられるような工夫や、内容、運営が求められる。
地 域 (公民館)	学校の先生が協力してくれることにより、活動に保護者が安心して子どもを預けられる場とすることができた。子どもの居場所、学びの場づくり、地域全体で子どもを見守っていくという意識づくりについては初期の目的を達成することができた。	より保護者を取り込んで、新しいコミュニケーションのきっかけづくりや地域の子どもの見守る体制づくりなど、さらに幅広い年代の、多くの子どもたちの参画を得ることができるように活動内容などについて検討することが必要と考える。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

次年度においても、学校と地域の教育力を相互に活用し、諸活動において体制を構築していきたい。学校と地域の連携・協力体制の中で、学校外での子どもたちの居場所づくりができている。今後に向け、主催する側がさらに工夫を凝らし、より充実した経験、学びを子どもたちに与えられるような場を増やしていきたい。




学社融合活動実施報告

学校名		上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の教育力を生かせる場として自然な取り組みになってきた。子どもたちも年々違和感なく参加している。また、地域の方が気軽に来校し、授業を参観してくれたり指導してくれたりすることは、子どもたちや学校職員にとっても良い機会となっていると感じる。 ・開かれた学校づくりを推進していく上において、地域の方々との交流を深めていくことは不可欠であるが、少しずつ取り組みが地域に浸透しつつあるように感じる。 ・地域の子どもは、地域の手で育てるという意識が、住民の方々に共有されている。 				
活動名		カヌー体験教室	学年・教科・領域等	4・5・6年生の希望者
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者と関わろうとする能力を育てる。 ・体験やものづくり活動を通して、コミュニケーションを図るとともに自他に関心をもつ。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が一体となり、活動を進めることで互いの結びつきを深めるとともに、子どもにとっては地域の方との交流や子どもの同士での交流を通じて、社会性を育む。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>上芳養小学校・上芳養公民館・大塔公民館三川分館・保護者・講師</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>4月19日(月)上芳養小学校と上芳養公民館で本年度の学舎融合事業について打合せ</p> <p>7月2日(金)大塔公民館と上芳養公民館で当日の流れや準備物について打合せ</p> <p>7月8日(木)上芳養小学校4・5・6年生に体験教室のチラシ配布</p> <p>8月23日(月)</p> <p>8:30 バスにて上芳養農村センターを出発。</p> <p>10:00 到着後、着替えと準備体操の後、大塔の生徒とともに、講師からカヌーの乗り方を教わる。</p> <p>カヌー体験</p> <p>11:30 10人ずつの班にわかれ、スイカ割り。</p> <p>12:00 昼休み</p> <p>13:00 カヌー教室開始</p> <p>14:00 カヌー片付け、着替え</p> <p>14:30 カヌー教室終了</p> <p>11月4日(木)新年度設立に向け、上芳養小学校支援地域本部(仮)の準備会を開催する。</p>				
<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他地域の子どもとの交流、協力を通じて、子どもたちの協調性を養う。 ・地域の大人との会話を通じて、子どもたちの社会性を育む。 ・地域の方が生徒に関わりを持つことで、地域の教育に関心を持ってもらう。 				
<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塔地域三川広場付近合川ダムにおいて、上芳養小学校の生徒(24名)と三川小学校の生徒(6名)とで、講師やボランティア(上芳養在住)の方からカヌーの乗り方を教わる。また、生徒同士の交流を深めるため、二つの学校混合で、生徒を3班に分け、スイカ割りをする。 				



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの地域の方々とのかかわりを通して、コミュニケーション能力・校外での挨拶等高まってきている。 ・他校の児童との交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みとしては定着してきているように思うが、子どもたちにとって体験学習が全面的に受身にならないように、自らが考え活動する学習へとなるようにしていく。 ・休日利用の取り組みに、学校職員の関わりがどうあるべきか。(日程調整)
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域の人たちと交流することにより、協調性が養われた。 ・カヌー指導をしてくださる方の生き方等を知ることにより、生涯的にスポーツや文化的なこと等に関わることの大切さを感じと 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外的な取り組みへの参加が一部の子どもたちに偏りがちである。(子どもたちを幅広く取り込む。) ・体験を通して学び取ったことをいかに実生活で生かすことができるか。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域の子どものとの交流、協力を通じて、子どもたちの協調性を養った。 ・大人との会話を通じて、子どもたちの社会性を育めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた枠組みの中だけの活動ではなく、日常的な地域活動への積極的な参加につなげていく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもの様子がよく分かり、地域の方が学校教育に対する関心が持てた。 ・地域の方の知識や技能を發揮できる場を提供できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協力して、子どもを育てるという意識を、より一層広げ、多くの方にボランティアとして参加していただく。そのためにも、活動予定や活動報告などの情報の発信を徹底する。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塔公民館三川分館との共催で実施したことにより、主催者側の負担は軽減し、活動内容は拡充できた。また、参加した子どもにとっては、三川小学校の児童とともに学ぶことで、協調性を養う機会を得られた。また、地域の大人との関わりを通じて、生涯的にスポーツや文化的なこと等に関わることの大切さを感じとれた。 <p>(次年度に向けての取り組みの方向)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も大塔公民館三川分館と協力して実施するとともに、保護者だけでなく、地域の方のボランティアの輪を広げていきたい。そのためにも、公民館報等の広報活動を積極的に進めていく。 ・子ども達が自ら考え行動するような仕掛けを工夫し、主体性が身につくような取り組みにする。 		

学社融合活動実施報告

学校名		中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>地域住民の教育に対する関心は高く、特に学校教育に関しては熱心であり常に協力的である。教室の窓から四季折々の美しい光景が見渡せる。そんな自然環境に恵まれた子の里で育つ子ども達の姿は、明るく素直であり、男女の仲も概ねよいほうである。しかし、この子ども達の生活の中にも、遊び方や考え方が画一化し、都市化していく傾向が徐々に強くなりつつある。</p>				
活動名		梅収穫体験	学年・教科・領域等	3年生・総合学習
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農家の方々、JA紀南、公民館の協力を得て、地域の農業の特色である梅づくりについて学び、梅を使ってジュースや梅干しの作り方を学ぶとともに、梅農家の現状を理解する。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力の活性化を図り、子ども達と地域の交流を深める。 ・公民館施設が地域活動の拠点となり、学校と地域の活性化につながるような機会を提供していく。 		
支援者及び支援組織 公民館・地域の農家の方々・JA紀南職員				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
6月22日(火) <ul style="list-style-type: none"> ・午前中、学校近くの梅畑で梅の収穫体験をし、その後、学校で収穫した梅を洗う。500グラムずつビニル袋に詰め冷凍保存する。 				
7月 1日(木) <ul style="list-style-type: none"> ・公民館施設をお借りしてJA紀南職員の指導で梅干し・梅ジュースを作る。 ・和歌山大学附属小学校4年生と一緒に梅の収穫体験、梅ジュース、梅干しづくりを体験する。 ・子どもたちは、梅ジュースや梅干しを作った経験がなく、JA職員の指導ではじめてチャレンジしました。はじめての経験なので興味津々、目を輝かせながら作業に取りかかっていました。慣れない手つきでしたが、皆一生懸命取り組みました。後日、自分たちが作った梅ジュースや梅干しを飲んだり食べたりするのを楽しみにしていました。 ・梅ジュースは、水泳記録会の終了後みんなでいただきました。自分たちが作ったものなので、とてもおいしいと言っていました。梅干しについては、各家庭に持ち帰り家族と共に食べることにしました。とても好評でした。 ・この活動を通して、梅農家の仕事やJA紀南の梅工場の仕事の一端を知ることができ、子どもたちにとってはとてもいい経験になった。 				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、地域の産業の特色である梅農家の仕事について理解を深めた。 ・子どもたちに地域の良さを大切にしようとする態度を養うことができた。 ・多くの地域住民の方々に子どもたちの様子を知っていただく事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業の特色を理解するために、このような機会をより一層持てるようにする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、地域の産業である梅農家の仕事について、実体験することにより理解を深めた。 ・子どもたちに地域の良さを大切にしようとする態度を養うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学習の一環として実施しているこの取り組みに、地域の方々やJA職員の方が協力してくれていることを理解し、協力してくれた方々に対して、感謝の気持ちをもてるようにする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産品を知ることで、郷土を愛し地域社会の一員としての自覚を持たた。 ・公民館を訪れ、公民館に慣れ親しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この活動を通して学んだことを、これからの実生活において活かしていく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を発揮できる機会と場所を提供できた。 ・地域で子どもを育てていくという気運を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より充実した取り組みをするため、組織的な支援の確立を目指す。 ・地域と学校が共に協力して、子どもを育てるという意識を、より一層広げる。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・早い段階から学校と公民館とで打合せができており、スムーズに事業を実施する事ができた。
- ・今後も事業を継続していくために学校と公民館とが協力していくことが必要である。
- ・地域の方々への周知を図るため、公民館報などの情報発信により力を入れる。
- ・子どもたちには、事前に中芳養地区の梅づくりについてより深く学習し、梅農家が抱えている課題や、作業の大変さを十分理解させておく必要がある。
- ・一年をどうして学校周辺の梅畑の様子を観察し、四季折々の農家の仕事の様子を理解することも大切だと感じた。
- ・地域住民の皆様の協力なしには実施できない事業なので、今後とも学校と地域のつながりを強くしより一層良好な関係を築きたい。

学社融合活動実施報告

学校名		上秋津小学校	公民館名		上秋津公民館	
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>当地域は農村地域であるが、最近、宅地造成が進み農業以外に従事する人も増えつつある。そこで、地場産業である「農業」とりわけ、梅、みかん、野菜について1年間を通して体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、農業に携わって額に汗して一生懸命働いている人々の苦労や工夫、抱えている問題点に気づいたり、地域の人々の願いや食文化、地域の特色や良さを理解し、地域を考え、ともに歩む子どもを育てることを目標に学社融合を推進する。</p> <p>地域としては、子どもたちの体験学習を通して、子どもたちはもとより保護者の方々にも地場産業である農業について知ってもらう。また、ボランティアとして参加していくことにより、「人づくり」ひいては「地域づくり」に結び付けていくことを目指す。</p>						
活動名			学年・教科・領域等			
農業体験学習			6年・総合的な学習の時間			
目標	学校	<p>・「知・徳・体の調和がとれ、心身ともにたくましく生きぬく児童の育成(本校教育方針)」を目指し、地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、自然や生命の大切さに触れさせながら、生き方指導につなげていくことを目標とする。</p>				
	公民館	<p>・地場産業である農業(みかん、梅、野菜)を題材とすることにより、子どもたちに上秋津の農業について知ってもらう。</p> <p>・地域住民が農業を通じて、子どもたちの育成に関わり、「人づくり」ひいては「地域づくり」につなげていく。</p>				
<p>支援者及び支援組織</p> <p>農業体験学習支援委員会(JA紀南青年部上秋津支部、JA紀南生産販売委員、JA紀南、上秋津公民館、老人会)</p>						
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>○年度初めに支援委員会を開催し、学校と公民館、その他協力機関との共通理解を図る。</p> <p>1～4年生は上秋津老人会、5、6年生はJA紀南青年部上秋津支部の支援により実施した。</p> <p>○趣旨にのっとり、子どもが自ら調べたり考えたりして答えを見つけていけるような場面を設定する。また子どもが主体的に活動できるように工夫する。</p>						
月	1年さつまいも	2年 野菜	3年 冬野菜	4年スイカ	5年みかん	6年 梅
4	学級園	学級園	学習園	学習園	接ぎ木 試食会	
5	種まき 苗 植え	夏野菜 種まき		苗 植え		
6						収穫 加工体験(ジュース エキス・梅干し作り)
7	収穫 試食会	収穫		収穫 試食会	摘果	
9			種まき 苗 植え			
10						
11	さつまいも の収穫 試食会	冬野菜 種まき			収穫	
12		収穫	収穫ときてら(地域 直売所)への出荷			
1		収穫	大根収穫 漬物作り		梅の剪定	
2			試食会		着花率調査	

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の仕事ぶりを目にしたり、自分で体験したりすることにより、農業に携わっている人々の苦労や工夫を学ぶことができた。 ・多くの地域住民とのかかわり合いを通してコミュニケーション能力が高まり、学校外でのお互いの挨拶や声かけや交流も自主的に行われ、優しさや豊かな心が育まれた。 ・地域に対する愛情と誇りが徐々に育ってきた。 ・挨拶や礼儀正しい態度行動のよさを以前以上に褒められるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての活動であるので、観察が間延びしてしまう感がある。 ・体験学習が受身にならないように、できるだけ子ども自らが考えて、活動する学習にしていこう。 ・子ども達が学んだことをもとに、地域に対して少しでも役立つ活動に取り組んでいく。 ・保護者の協力をもう少し多くしていく。 ・上秋津中学校も農事体験を行っているので、活動のつながりなど、連携を図っていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが梅作りやみかん作りに関わることで農作物を大切にすることが強くなった。 ・掃除、委員会活動や係り活動などを進んで行うようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に対する感謝の気持ちなどを持っているのだが、挨拶などの実践に移すことが難しい子どももいる。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業・食文化について理解することができた。また、これまで長い間、地域で生きてきたお年寄りや今、地域の農業を支えている若者と交流し、その生き方・考え方に触れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことを各家庭においても、保護者との話題にしたり、農業以外の、地域の歴史や伝統文化等にも興味を広げて、郷土愛を育ててほしい。 ・農業体験学習で得た持続力や忍耐力を他の活動や学習に活かしてほしい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者である地域の若者や高齢者の方々に、子どもたちや学校の取り組みを理解してもらう良い機会となった。 ・早い段階からの農業体験は、将来、地域の農業を担うかもしれない子どもたちにとって、大変有意義な効果をもたらすものと思う。 ・当地域では地区外からの新規住民が増えており、子どもたちを通じて、保護者の皆さんの農業や地域理解にも繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10年以上続いているこの体験学習を今後も継続していくために、保護者や地域住民へ呼びかけ、新たな協力者の発掘をしていきたい。また、学校、支援者と連携をとりながら、子どもたちにとって、より魅力ある学習内容を考えてみたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・梅畑の所有者やJA紀南(青年部を中心に)の方々の指導を受け、梅の観察・収穫・エキス作り・梅ジュース作りなどができている。学校としては、児童のコミュニケーション能力、優しさや豊かな心などが育まれ、「人格形成」に大きな成果をもたらすとともに地域作りに貢献できている。

・地域で梅作り、みかん作りに携わっている方々との自然な形での交流により、地域の方々に対する敬愛の念や感謝の気持ちをもつとともに働くことの厳しさを感じ取るなど「生き方」を考えることにつながっている。

・梅やみかんの体験学習は、総合的な学習の時間の中で行って来た。本年度より総合的な学習の時間の一部を外国語活動の時間に割り振った。これまでの取り組みの質を落とさず、より意義深いものにするために他の学習活動を合わせ、総合的な学習の時間の内容や配分に検討を加えていかなければならない。

他の活動について

・児童が栽培した野菜と一緒に料理している家庭もあり、自然に「食育」が実践されるようになってきている。

・今後は、現在の取り組みを継続するとともに、旧校舎を利用し地域で取り組んでいる「秋津野ガルテン」(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの「地産地消」を進めている)との連携を進めていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名	秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>・学校、地域、社会教育関係者が一体となり、地域や家庭の教育力を向上させ、子どもの健全育成のため連携を進めている。</p> <p>・学校は、地域の人々と交流を深めることによって地域の文化を知り、子どもたちの学ぶ意欲やコミュニケーション能力の向上にもつながってきている。</p> <p>・地域の方々は、行事を通して子どもたちと関わることを楽しみにしており、参加にも協力的である。</p>			
活動名	地域の高齢者との交流	学年・教科・領域等	全学年(生活科・総合的な学習)
目標	学校	「秋津川に生きる豊かな子」を目標に、地域の高齢者の方々(春秋会)と交流し、秋津川の先人の知恵と知識を受け継ぐとともに、高齢者に対する尊敬の心を育てる。	
	公民館	世代間交流の取り組みを通して、次世代へ地域の伝統や文化を伝承し、郷土愛を育む。高齢者の方々に、地域の行事や子どもたちの健全育成に積極的に関わっていただき、地域の活性化を図る。	
支援者及び支援組織			
秋津川小中学校育友会・秋津川公民館・秋津川町内会・秋津川振興会 JA紀南上秋津支所秋津川店・JA女性会・秋津川婦人会・秋津川保育所			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
◎平成22年度協力委員会(8月31日) 秋津川公民館会議室			
◇議題 ①敬老会行事について ②町民運動会について ③ふるさと祭りについて ④その他			
※地域の高齢者(春秋会)との交流行事			
・秋津川公民館長と地域の方による「おるり音頭」の指導(9月7日・10日)を受け、敬老行事で発表(9月12日)			
・秋津川町民運動会(9月19日)・・・秋津川町内会・秋津川小学校・秋津川中学校・秋津川公民館共催。玉入れで春秋会の方々と小学生が対戦し、盛り上がった。			
・地域清掃作業(10月5日)・・・小学校高学年と中学生、春秋会の方々が共にゴミ拾い等を行い、秋津川の町をきれいにした。			
・秋小祭り(11月9日)			
午前中は、高学年と学級保護者を中心に地域の方に道具を借りて、高学年が収穫した餅米で餅つき・餅にぎりを行った。他学年も一部餅つきを体験した。保護者の方は昼食にカレーを作り、親睦を深めた。米作りでは、地域の方が消毒してくれたり、餅つきでは毎年手水をとってくれる地域のおばあさん、足りない餅米を提供してくれる地域の方の協力を得た。			
午後は、児童会主催で、高齢者(春秋会)の方々を招待して、昔遊びを教えていただいたり、一緒に歌を歌ったりして高齢者・保護者・児童の3世代の交流を深めた。お土産として、ついた餅を贈った。			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者(春秋会)との交流行事を通して、秋津川の文化を体験し、秋津川の人々の知恵を知ることができた。 ・秋小祭りでは、昔ながらのうすと杵で餅つきを体験して、日本の食文化の継承をはかることができた。毎年恒例で秋津川の方々も楽しみに参加してくれている。地域の方々に子どもの様子を知ってもらう良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数減少にともない、活動の企画や運営が難しくなっている。同時に家庭数も減少しているため、協力していただける方も減り、今後も活動が継続できるか不安が残る。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々から教わったり、共に活動したりすることで、秋津川の文化を知ることができた。昔遊びを通して、集団で遊ぶ楽しさを体験し、遊びの中での会話を通してコミュニケーションをはかることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年を中心に活動しているため、児童数減少の中、一人ひとりへの負担が大きくなってきた。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者から地域に伝わる伝統の踊りや遊び・文化の一端を教えていただき、ふるさと「秋津川」の長い歴史を感じることができた。また、地域の先輩の生き方や考え方に触れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の行事や活動に積極的に関わり、また、多くの住民と交流し、社会性を高めていただくとともに故郷を愛する心を持ち続けてほしい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・異世代の交流が地域の活性化と愛郷心かん養の場になった。 ・「世代間交流の推進」と「歴史・伝統文化の伝承」、そして「学社融合の推進」という、秋津川地域生涯学習計画重点プランの成果の一つとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域は少子高齢、過疎化が進んでいるが、今後もこのような交流活動が継続して開催していけるよう、学校・住民とも連携をしながら取り組んでいきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・おるり音頭の継承
参加される高齢者はとても楽しみにしており、子どもにとっても秋津川の民謡を学ぶ良い機会であるので、継続していきたい。
 - ・秋津川町民運動会
地域が一体となって取り組む活気ある運動会である。今後も継続していきたい。
 - ・地域清掃作業
環境について考える機会となるが、児童数減少のため、昨年度は6年生だけの参加であったが、本年度からは5・6年生の参加で実施。
 - ・秋小祭り
参加していただいた方からのアンケートに「秋小祭りの子どもたちとの触れ合いを毎年楽しみにしています」という意見があった。児童数減少、協力者の減少にともない、今後の参加へのあり方も工夫・改善しながら継続していきたい。
- どれも学校教育と地域の行事を一体化させた取り組みであるので、さらに教育効果を高めるための取り組みを考えていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名		三栖小学校	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>地域は、学校への関心も高くとても協力的である。「運動会」や「三栖を美しくする運動」などの取組には、保護者、老人会、婦人会など各種団体と連携を図りながら行っている。また、児童は地域の様々な方との交流を通じて、地域への理解が深まってきている。</p>				
活動名		地域と歴史	学年・教科・領域等	6年・総合的な学習
目標	学校	<p>地域を実際に歩き、そこにある史跡を見たり、そこにまつわる説明を聞いたりし、三栖地域の歴史についての理解を深める。 地域の方に直接お話を伺ったり、質問をさせていただいたりする中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。</p>		
	公民館	<p>学校と連携を図ることにより、地域で子どもたちを育てようとする気持ちを高める。 学校との組織的な支援体制の確立を目指す。</p>		
支援者及び支援組織				
公民館文化委員				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>○三栖の史跡巡り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 11月5日 8時10分～13時30分 ・ねらい <p>地域を実際に歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりし、三栖地域の歴史への理解を深める。 地域の方に直接お話を伺ったり、質問をさせていただいたりする中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。</p> <p>活動内容</p> <p>地域文化委員の方と一緒に、説明を聞きながら地域の史跡(三栖廃寺、五郎地蔵寺、善光寺、三栖王子、八上王子)を歩く。</p>				
<p>○戦争体験を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 11月19日 10時30分～11時45分 ・ねらい <p>戦争当時の地域や生活の様子、体験談を直接聞き、当時の人の気持ちや平和について考える。</p> <p>活動内容</p> <p>戦争当時を知る3名の文化委員さんを招き、先生との対話形式で、そのころの様子を聞いたり、質問したりする。</p>				

	成 果	課 題
学 校	自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、地域の方々と交流することができた。	児童が理解できる範囲の言葉や授業のねらいを十分打ち合わせる必要がある。
* 子どもにとって	地域の方々と交流することができ、世界遺産である熊野古道が自分たちの住む地域を通っていることを知り誇りに感じた。	6年生以外の学年についても学社融合の取組を計画的に考えていきたい。
* 子どもにとって	地域を知り、普段接する機会の少ない方と交流する機会ができた。	より多くの方と触れあう機会を持ち、社会性を身につける。
地 域 (公民館)	地域の人材を学校教育の場で生かすことができ、世代を超えての交流ができた。	今後も公民館と学校が連携を密にしながら活動していくことが大切である。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本年度は、「三栖を美しくする運動」や「ふれあいグランドゴルフ」など色々な行事にも地域の方に参加していただいたり、地域の行事である三栖神社の奉納相撲大会や敬老会での児童の作文発表など地域の方との交流もできた。

また総合的な学習では、3年生が梅干し作り体験を、6年生は史跡巡りを協力いただきました。5年生は社会科で梅農家の方のお話を聞いたり、2年生は生活科で地域の方と一緒に芋掘り体験をしたりしました。行事だけでなく教科学習についても少しずつ地域の方に学習支援者として、お話を伺ったり、体験活動の協力していただく機会があった。直接、地域の方からお話を伺ったり、体験させていただくことで、学びに深まりが出るということはとても良かったと思われる。ただ地域の参加していただける方に対して、授業のねらいについて事前に十分に打ち合わせをしておく必要があると感じた。また参加できる方の年齢に偏りがみられるので、より広い世代の方との交流できるようにしていきたい。

次年度に向けての取組の方向としては、今まで行ってきた学校行事はもちろんであるが、さらに教科学習の中へ学習支援者として入っていただく計画を立てて、子どもたちの学びに生かしていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名	長野小学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>長野地区は、学校と地域が協力し合って行事を行っている。秋の区民運動会には長野地区の各種団体が実行委員会を組織し運営したり、育友会や子どもクラブとも協力し、長野区のホタルまつりや秋の八幡神社祭典に参加している。また、長野公民館主催の長野文化展は長野小学校を会場にして地域の方が多く出品し地域と公民館が結びついた行事となっている。</p> <p>このように学校は地域・公民館と結びつきが強く、互いに協力し合い活動を行っている。今後も協力を深め、活動を進めていきたい。</p>			
活動名	○手作りの遊び道具を作ろう ○梅を使った料理体験	学年・教科・領域等	生活科・総合的な学習
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体との連絡を密にする中で、学校と地域の教育力を育てる。 ・地域の方との交流でコミュニケーション能力を深め、地域を大切にする気持ちを育てる。 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や公民館が学校の行事を支援し、地域と学校との関係を密にして児童の健全育成を図る。 	
支援者及び支援組織 長野公民館 長野区老人会 JA紀南女性会長野支部 長野小学校育友会			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>本年度の学社融合の取組として、地域の方を講師に招き児童と保護者を対象とした参観日を設定した。10月に参観日を2回に分けて、1回目は低・中学年の「手作りの遊び道具作り」、2回目は高学年の「梅を使った料理」を実施した。低・中学年では、竹トンボとお手玉の講師を西田公民館長さんにお世話いただき地域の方5名に指導していただいた。当日は、参観日で保護者と一緒に学ぶことが出来た。子どもだけでなく、保護者も初めての方が多く興味を持って取り組めた。又、お手玉歌も披露していただき大変良い学習が出来た。高学年の梅の料理では、地域のJA紀南農協婦人部の4名の方が指導して下さいました。梅を使った巻きずしと梅ドレッシングを親子で作って試食した。地域の方に指導していただく機会を設けて、児童だけでなく保護者の方にも好評であった。</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○手作りの遊び道具をつくろう(低・中学年)</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作りの良さを知り、楽しく作業ができる。 <p>【活動内容】</p> <p>10月4日 西田長野公民館長との打合せ</p> <p>10月14日 低・中学年参観日「手作りの遊び道具を作ろう」 場所:長野小体育館</p> </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○梅を使った料理(高学年)</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産物である梅を使つての料理を体験することにより、梅に関心を持つとともに梅作りに携わっている人々の願いや思いを知る。 ・地域の特産物の梅を使った料理を作り、梅の良さや地域の良さを知る。 <p>【活動内】</p> <p>10月14日 指導して下さいる那須恭子さんとの打ち合わせ</p> <p>10月21日 高学年参観日「梅を使った料理体験」・場所 JA長野キッチン</p> </div>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と接する機会が少ない児童にとって良い交流の場となった。 ・地域の特産物である梅を活用した地域おこしの活動をしていることを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、参観日に保護者を交えて実施したが、普段の授業や活動にも地域の方を交えた取組を展開していきたい。 ・今後も取組を継続していくため、公民館や地域の団体と連携し年度当初計画を立案していく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や保護者といっしょに作業することで、親子や地域の人たちとのコミュニケーション能力の向上につながった。 ・梅を使った料理を通して梅の良さやおいしさに気づくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の希望も取り入れて地域との交流を深めたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・作業を続ける中で、話題がひろがり交流の場となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達と地域の方との交流の場を増やすような取り組みを企画したい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館が講師を紹介したり、学習の内容をいっしょに計画することで学校との協力関係が密になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師として交流していただける人を確保し学校と公民館が連携した取り組みを行いたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【評価】

・今回は10月の参観を「もの作り体験」と設定し、親子で活動を行った。子どもだけでなく親の世代でも地域のかかわりが希薄になり、地域の方にゆっくり教えてもらう機会が少なくなってきた。学校がこういう場を設定することは、子ども達が地域を大切にすることを育つとともに、若い保護者の世代にも地域の良さが伝わるのではないかと考える。

【次年度に向けての取り組みの方向】

・学校が発信して、公民館や地域を巻き込んだ文化的な行事を企画していきたい。
 ・総合的な学習や生活科で地域の様子を知り、ふるさとのよさや地域の人々の願いや希望を知る学習を進めていく。



竹トンボ作り



お手玉遊び



梅料理【巻きずし、梅ドレッシング】



学社融合活動実施報告

学校名		伏菟野小学校	公民館名	長野公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は、極小規模校で保護者数も少なく、地域の方が育友会準会員という形で会費の面でも援助をいただき、児童の見学や遠足等の活動費の面で助けられている。 ・地域の人々は学校からの呼びかけには協力的で、整備作業・クリーン作戦等は伏菟野区と学校の共催という形で実施し、保護者以外の参加者も多い。 ・運動会は、伏菟野区との共催で実行委員会を組織し、秋津川保育所の全園児・長野中学校の全校生徒がともに参加してくれ盛り上がっている。 ・普段の学校授業への参加は、個別に学校から声を掛ければ快く協力してもらえる。児童の祖父母世代を巻き込んでいく形がもっとも協力を得やすい環境にある。 				
活動名		ホタル学習	学年・教科・領域等	生活科・総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・伏菟野地区のシンボルであるホタルに親しみをもつと共に、その生態や飼育方法を学習し、ホタルを守り育てる意義を理解する。また、これらの学習を通して地域の自然への関心を高め、自然を大切にしようとする心を育む。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・伏菟野地区でホタルを飼育することで自然のすばらしさを子どもたちに伝える。 ・ホタルを飛ばせることによりホタル祭を成功させ地域の活性化につなげる。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>みやご会 和歌山県シニアマイスター 谷口 昌氏</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>5月10日 今年度のホタル学習についての学習計画 (谷口さんと学校で本年度のねらい・学習計画を立てる。)</p> <p>5月27日 ホタル学習1 ホタルの種類と生態を学ぶ (DVDを見ながら、ホタルのすむ環境や生態について学習する。) (「ホタル学習記録プリント」を各児童に持たせ幼虫観察や学習記録、感想等を毎回を書かせる。)</p> <p>6月15日 採卵装置の道具を谷口さんが持ってきてくれ、授業の準備をする。</p> <p>6月18日 ホタル学習2 ほたるの飼育方法の学習と採卵装置設置 (ホタルの採卵装置を作り、校舎内に設置し、飼育方法を学ぶ)</p> <p>飼育観察(7月21日、屋外の飼育箱に移すまで、水の量を児童が当番で観察し、状況に応じて川から水を汲み補充していく。)</p> <p>6月25日 ホタル学習3 カワニナのえさ作りとえさやり (各自がもってきたおにぎりのみそをこね合わせて団子にし、カワニナのえさをつくり、観察園に入れる。カワニナが集まる様子を観察する。)</p> <p>7月9日 ホタル学習4 ふ化直後の幼虫観察幼虫飼育箱の設置 (ふ化直後の小さな幼虫を顕微鏡で観察し、今後の飼育方法について学習する。)</p> <p>飼育(飼育箱の水管理 えさやり) (児童・職員で川から水を汲み、カワニナを取ってきて飼育箱に入れる。エアーが強く出続けるよう気をつける。)</p> <p>12月9日 ホタル学習5 ホタルの幼虫放流 (大きく育った幼虫を観察し、その後観察園に放流する。)</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化のために活動を続けているみやご会の方から、ホタルについて学ぶ時間を設定することで、学校と地域がより密接な関係を築くことができた。 ・地域の自然に目を向け、そのすばらしさを実感することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外での飼育(7月～12月)をする中で、常に良い状態を維持することに労力がある。その部分での児童の活躍の場を作るよう工夫すること。 ・この活動を通して、児童が地域の人と直接的なかわりを作ったり、地域に貢献しようとする意識を高めていくこと。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルについて理解を深め、地域のシンボルとして大切にしていこうとする意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの飼育に児童が積極的に取り組むよう活動体制を作っていくこと。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の講義を礼儀正しく聞くことができた。 ・夏の管理が難しいので、今年は孵化していないかもしれないと聞いていた。無事に孵化していたので、喜びも大きかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続していくことが大切だと考える。 ・全国にもホタルの飼育を行っている学校があるので、調べることで、情報などの共有をすることができ、全国的なつながりに繋げることができるのではないかと。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かした事業は、他の地域でも同じようにできるものではない。教育的観点から、また、経済的な要請からも、全国でその地域らしさの特色を出すことに力を入れている時代なので、そういう点からみても、素晴らしい素材を扱っている事業である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業としての展開を出来る限り、支援していきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・講師の方に来ていただいて5回の授業を設定したことは適当であった。それに加え次年度は、この活動を通して小学生として地域に貢献できることを考えさせ、活動させる時間を設定していく。また、それを総合的な学習の時間に位置づけていく。
- ・数ヶ月にわたっての飼育に児童がもっと積極的に参加できるように、学校としての体制を作る。

採卵箱の状態をチェック 6





育てたホタルの幼虫 12月



ホタルの幼虫放流 12月



学社融合活動実施報告

学校名		咲楽小学校	公民館名	龍神公民館 福井分館・甲斐ノ川分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>地域の教育に対する関心は高く、学校教育充実のための協力を得やすい地域である。特に、咲楽小学校地域連携推進会議を中心に学校と学区民が連携を図り、地域全体で子どもの健やかな成長を担う環境づくりに寄与することを目的に様々な活動に取り組んでいる。</p>				
活動名		「万歳音頭」復活活動		学年・教科・領域等
		全校児童・特別活動・学校行事他		
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、学校・家庭・地域が一体となって児童を育てる雰囲気づくりに取り組む。 ・児童が、ふるさとを大切にする心情や地域の一員としての自覚がもてるように育む。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子どもたちが心豊かに育まれるよう、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流等に取り組む。 		
支援者及び支援組織				
公民館福井・甲斐ノ川分館、公民館サークル「うれしの会」、「龍神小唄の会」、咲楽小学校PTA				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
昨年度				
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員の岡本氏より学校に、75年前にこの地域で歌い踊っていた「万歳音頭」を復活させるため、楽譜におこせないかという依頼。 ・職員の知人をお願いし、楽譜が完成。 ・「龍神小唄の会」により、三味線や尺八、太鼓の演奏が完成。 ・「うれしの会」により、踊りの振り付けが完成。 				
本年度				
7月 公民館福井分館長より、福井バイパス完成式で子どもたちも一緒に踊ってほしいという依頼。				
7～8月 PTAの協力もあり、夜の練習会へ参加。				
8月22日 登校日に練習。				
8月28日 バイパス開通式で披露。				
9月17日 運動会へむけ、「りゅうりゅう音頭」とともに練習。				
9月26日 運動会で披露。				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化を学習することができた。 ・「万歳音頭」を復活させる活動に協力できた。 ・地域からの依頼に応えることができ、地域との距離がさらに近く感じられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって、総合的な学習の時間に時代背景など、関連した事項の調べ学習への発展も考えられた。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化を学び、ふるさとを大切に作る心が育った。 ・地域の方々と交流することで、コミュニケーション能力の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や活動への積極的な参加と、世話をしてくださる方々へ感謝の心をもつ。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、地域の伝統や文化への関心を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが参加しやすい活動を考え、交流する機会をつくる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・「万歳音頭」を復活させることができた。 ・福井バイパス開通式や運動会で踊ることができ、地域の方々にも懐かしんでもらえた。 ・踊りを通して、地域の一体感を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開通式の日程等が決まらず、早めに計画を立てられなかった。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

評価

・小さな取り組みではあったが、これまでの学校・家庭・地域が連携したものではなく、学社融合の取り組みができた。



・「万歳音頭」を復活させ、福井バイパス開通式で披露するまでの全体の高まりをみんなが体験できたことは大きな意義がある。

次年度に向けて

・今後も今回のような単発な活動にも、お互いできる範囲で連携・協力していく必要がある。

・来年度以降授業時数にゆとりがなくなるため、できるだけ早めに計画を立てるとともに中身の充実した活動にする必要がある。

学社融合活動実施報告

学校名		中山路小学校	公民館名	龍神公民館 中山路分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>学校としては、その専門性を生かして地域住民との交流、地域人材・施設の活用、地域の活動への参加等を図ることで教育目標の達成に努めている。</p> <p>地域住民による、学校に対する協力・支援体制も広がりを見せてきた。また、様々な活動を展開する地域住民に学校として活動の場を提供することで、住民の生き甲斐づくりにつながっていると考える。</p>				
活動名		地域サークルとのふれあい	学年・教科・領域等	音楽・国語
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係諸団体と交流を深めながら、確かな学力の定着に努める。 ・地域住民に活動の場を提供することで、住民の生き甲斐づくり・地域の教育力の維持向上に学校として貢献する。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に積極的に協力するために、各種団体の活動情報を学校に提供する。 ・地域住民のつながりを深めていく活動や生き甲斐づくりを支援する。 		
支援者及び支援組織				
龍神公民館中山路分館・読み聞かせサークル・龍神小唄保存会・高齢者学級・日高川漁業協同組合				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>☆7月5日(月)・1月25日(火)読み聞かせ</p> <p>(対象) 全校児童及び保護者</p> <p>(ねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな分野の書籍への興味付けを図るとともに、本校の課題である「聞く力」を育成する。 ・家庭における読書習慣の定着に取り組む。 <p>(活動内容)</p> <p>読み聞かせサークル「わたぼうしの会」による読み聞かせやペープサート。</p> <p>保護者への書籍の紹介と活動目的等の説明。</p> <p>☆1月28日(金)和楽器体験学習</p> <p>(対象)3・4・5・6年生</p> <p>(ねらい)</p> <p>新学習指導要領に位置づけられた「我が国の音楽の充実」に対応し、伝統音楽への理解を図る。</p> <p>(活動内容)</p> <p>伝統音楽保存サークル「龍神小唄保存会」による和楽器演奏や和楽器の特徴の説明。</p>				
				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動するサークルの支援を受けて、本校の教育目標である豊かな心の育成、基礎基本の確実な定着、本校の課題である「聞く力の育成」に取り組むことができた。 ・地域住民に学校の専門性を生かして活動の場を提供することで、地域住民の生き甲斐づくりに貢献できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力の維持・向上をめざして、学校の果たす役割や責任について、今後も職員の研修に努める必要がある。 ・家庭・地域との連携を大切にし、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざすという視点のもとに、今後とも事前事後の指導、学習環境の整備等を図っていく必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな分野の書籍との出会いにつながった。 ・書籍を通した家庭での語らいの場を設けることができた。 ・伝統的な音楽や楽器に触れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動に従事する人々の生き方や考え方について発達段階に応じて理解を深める機会を設ける必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域住民の様々な活動に触れることができた。 ・自分たちが地域の人々に支えられていることを感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との交流を通して、地域において自らができる役割や責任について発達段階に応じて考えを深めていく必要がある。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に対して、地域住民の取り組んでいる活動などを紹介することで、学校と住民の「互いの顔が見える活動」を支援できた。 ・地域住民の活動の場を広げることを支援することで住民の生き甲斐づくりにつながっていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係諸団体が互いの責任や役割を認識しながら活動することが地域の教育力の維持向上につながる。したがって、学校での活動を保護者だけでなく、地域にも機会をとらえて積極的に公表していく必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向



・昨年度から、新学習指導要領に位置づけられた「我が国の音楽の充実」に対応し、地域で伝統音楽の保存活動に従事するサークル「龍神小唄保存会」の支援を受けてきた。また、読書習慣の定着や「聞く力」の育成に向けて、地域の読み聞かせサークル「わたぼうしの会」の協力をいただいた。

「龍神小唄保存会」には、昨年度は全学年を対象に授業を行っていただいたが、今年度は中学年と高学年の2回に分けての授業をしていただけたことで、伝統や文化へのより深い理解につながるものとする。また、「わたぼうしの会」も、昨年度は1回の来校であったが、今年度は回数を2回に増やして実施した。

特に、1月25日の読み聞かせの取り組みでは、保護者も子どもとともに参観していただけたことで、書籍を通した家庭でのより豊かな会話につながるのではないかと考える。保護者に地域住民のサークル活動(生き方)を具体的に紹介することは、保護者自身が地域における自らの役割や責任について考える機会となっていくのではないかと考える。

知・徳・体のバランスのとれた子どもの育成につながるものとして、今後とも学校や公民館が地域

学社融合活動実施報告

学校名		上山路小学校	公民館名	龍神公民館 殿原分館・東西分館・宮代分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校は統合して2年目を向かえる。地域住民は学校に大変協力的で、統合前の3校はそれぞれ区や公民館、高齢者学級を中心として地域に強く支えられた学校であった。そういった3校が統合しての新校は、強い地域との絆をどう継承していくのが課題であった。1年目は旧3校の実践を引き継いだ取組を展開し、本年度はそれらを整理し、上山路小学校としての学社融合となれるよう取り組んできた。</p>				
活動名		マイタウンクリーン大作戦	学年・教科・領域等	全学年・特別活動等
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通して、地域を良くしよう、地域のために働こうという心情を養う。 ・お互いに協力して学習する大切さを知る。 ・地域の人々とのふれあいを大切にしながら、地域を愛する心情を養う。 ・地域の学校として意識してもらえようにする。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と交流することにより、地域として学校教育を支えていく。 ・地域の環境保全の意識を高める。 ・子ども達との活動を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。 		
<p>支援者及び支援組織 高齢者(殿原ピンコロ会・殿原老人クラブ・あけぼの学級・せいじゅ学級・宮代学級・下宮代老人クラブ・宮代ふれあいクラブ) 龍神公民館(丹生ノ川殿原分館・東西分館・宮代分館) 区(殿原区, 東区, 西区, 宮代区)</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 委員会活動(環境部) <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画立案 (役割分担, 準備物, 進行等) (2) 活動 (ポスター作成→地域貼り出し 地域団体への協力依頼の手紙書き→配布) (3) 準備 (ゴミ袋, 火ばし等準備物の確認 全校への伝達) マイタウンクリーン大作戦当日(6/13雨天延期→6/16) <ol style="list-style-type: none"> (1) 開会式 (2) 縦割り班でのゴミ拾い活動 (3) ゴミの分別・計量 (4) 閉会式 委員会活動(環境部) <ul style="list-style-type: none"> ・礼状書き(協力依頼した地域団体へ)→配布 				
				



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・自主性を尊重した児童会活動の充実を図ることができた。 ・教職員の地域理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一委員会の活動が全校行事となった本取組であるため、全体的な自主性の育成につながる工夫が必要である。 ・人数的、距離的に訪れることのできない地域へも何らかの取組が必要である。 ・地域に支援コーディネーターが存在しないため、教職員にかかる連絡調整作業が大変である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が考え企画運営することで、自主性が養われ、充実感を味わわせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、礼儀といった目上の方に対する態度の育成。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は自分の通学路の清掃活動であったが、本年度は縦割り班で活動することにより、自分の住む地域を離れ、広くなった校区を知り、人々と交流を広げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区に住み、学校を支えてくれる方々との交流。 ・地域のために尽くそうというボランティア精神の育成。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育への協力。 ・地域の環境美化保全。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に計画されている清掃活動とあわせることができれば、より融合を進めることができる。 ・協力して頂ける方が限られ、高齢化してきている。 ・それぞれ違った3地区を総括できるような地域支援コーディネーターをつくる事は難しい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今年度、本校は自主的に活動できる子どもを育成するために、児童会活動を充実させてきた。そこで、昨年度は学校行事として学校が企画運営した「マイタウンクリーン大作戦」を児童会環境委員会に任せることにした。中心となって取り組めることを知った委員会の子ども達は、張り切って準備物や進め方について熱心に意欲的に話し合った。また、昨年は担当職員が14もの地域の団体に協力依頼に訪問したが、今年は子ども達が手紙を書くことを計画しそれぞれが考えた文章を手書きでしたため、手渡した。その効果、反響は大きく、計画した当日が悪天候で延期を決定したが、学校への問い合わせが多く、また、延期した当日も地域地域で大勢の方が待っていてくれるという状況であった。委員にとって大きな自信となり、「環境部に入ってよかった。」と充実感を持つこともできた。

地域と連携、融合してのボランティア活動は今後も続けていくつもりであるが、地域の行事を重ねるなど、より深く、より続けていける融合のために工夫が必要であると考えます。

学社融合活動実施報告

学校名		龍神小学校	公民館名	龍神公民館 龍神分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>子どもたちの自然体験・社会体験・生活体験の不足を補い、子どもたちの人間性や社会性を育むために、学校が保護者や地域と連携して、地域の豊かな自然・文化やすぐれた人材を活用し、生きた教育活動の展開に努めている。また学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことにより、子どもの様子や教育課程の実施状況について知ってもらえるように努めている。</p> <p>運動会、学習発表会などの行事を通して、学校・児童と地域の方との交流を深め、思いやりや地域・人への感謝の気持ちの育成を図っている。</p>				
活動名		敬老の日のお手紙	学年・教科・領域等	全学年・生活・総合・特別活動
目標	学校	子どもたちは、日ごろ交流の少ない高齢者の方の家を1軒ずつ訪問し、手紙を手渡すことで、高齢者の方やそこで住んでいる人とのふれあいを深める。		
	公民館	高齢者の方の願いや思い、苦勞を知り、昔の人の知恵や地域に伝わる文化を学び、高齢者に対する思いやりや感謝の気持ちを育むために、多くの高齢者の方と子どもたちとのふれあいの場を大切にする。		
支援者及び支援組織				
公民館、各地区の高齢者学級				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>校区内の70歳以上の高齢者(180戸約240名)に手紙を書き、近所の高齢者の方に手紙を手渡した。</p> <p>9月 6日(月) 各学級(3クラス)で高齢者の方へのお手紙を書く。 (学級全体でA4ないしB4用紙1枚にまとめる) 封筒の宛名書きも学級で分担して書く。 (一つの封筒に3学級分の手紙を入れる)</p> <p>~14日(火) 手紙の締め切り</p> <p>9月15日(水) 手紙の仕分け (地区ごとに分かれて、児童それぞれの配達する家を決める)</p> <p>9月15日(水) 児童が近所の高齢者の方の家を訪問し、手紙を手渡した。 ~19日(日) (児童が遠くて渡すことのできない方には、職員が手分けして配達した。)</p> <p>大勢の方から感謝のお言葉をいただくとともに、4名の方からは感謝のお手紙をいただき、朝礼や児童集会等で紹介した。</p>				
				
		家を地図で確認		
				
		手紙の仕分け		

	成 果	課 題
学 校	<p>お手紙を直接渡すことにより、近所に住んでいる方の名前を知ることができ、互いに顔見知りとなり、普段の生活の中でもあいさつを交わすきっかけになっている。高齢者の方へ目を向ける機会が増え、身近に高齢者のことを考えることができる。</p>	<p>地域の限られた人とのふれあいで終わってしまう。高学年では、人権的な視点で高齢者問題を考える糸口としたい。職員も積極的に地域に出て、高齢者の方との語りも必要である。</p>
* 子どもにとって	<p>近所の高齢者の方のを知ることができ、あいさつや話を気軽にできるようになる。高齢者の方に喜んでもらうことが活動の励みとなり、その他の活動にも波及し、何ごとにも意欲的に取り組もうとする原動力となる。</p>	<p>高齢者の方の思いを知り、高齢者の方のことに ついて考え、学級の中で感想を話し合い、活動の意義を深めたい。</p>
* 子どもにとって	<p>高齢者の方と親しくなるとともに、高齢者の方から昔の人の知恵や地域の伝統文化などを学ぶ機会に恵まれる。</p>	<p>ひとの取組で終わるのではなく、いろんなことを高齢者の方から教わる場の設定が必要である。</p>
地 域 (公民館)	<p>子どもから優しいいたわりの言葉を受けると高齢者の方は大きな喜びを感じている。何気ない手紙ではあるが、地域の子どもたちに親しみがわいてくる。いつも運動会には、多くの高齢者の方が参加してくださっている。</p>	<p>高齢者の方の豊かな知識や能力をボランティアなどを通して、地域や学校の中で活躍できる場を作り、高齢者の生きがいにつながる活動を行うことも大切であると考えます。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

「敬老の日のお手紙」は、高齢者の方々に好評で、学校とのつながりを深めることができたと考えている。運動会へのお誘いの文も含まれているので、運動会へ高齢者の方が大勢参加して下さった。運動会では、お年寄りとの交流を目的とした「玉入れ」や「龍神温泉ばやし」(踊り)を行った。児童が高齢者の方を競技へ誘ったり、手をつないで競技を楽しむ微笑ましい場面も見られた。

子どもたちだけでは、配ることのできない遠くの地域については、職員が手分けして配布した。職員も地域の方に名前と顔を知ってもらえるきっかけにもなった。

今後も継続して取り組んでいきたい。校区内300戸のうち70歳以上の高齢者の方が暮らしている世帯が180戸ほどある。また多くの児童が祖父母と暮らしている。日ごろの生活の中でも高齢者とのかかわりが大きい。高齢者を理解し、思いやりや感謝の気持ちを育むために、高齢者の方とのふれあいを大切にしたい。また「敬老の日のお手紙」を契機に道徳等で高齢者について学習することも大切なことと考えている。

学社融合活動実施報告

学校名	栗栖川小学校	公民館名	中辺路公民館 栗栖川上分館・栗栖川下分館
-----	--------	------	----------------------

学社融合における学校・地域の様子

- ・地域や保護者に守られ支えられながら、子どもたちは明るくのびのびと学校生活を送っている。
- ・開かれた学校を心がけ、様々な行事を通して地域の方々に学校を訪れていただき、子どもたちが頑張っている姿を見ていただけるよう努めている。
- ・下芝老人会及びシルバー人材の方々为学校へ協力の申し出があり、子どもたちと交流をするための計画を立ててくれている。
- ・中辺路公民館を始め、社会福祉協議会や関係諸機関も大変協力的である

活動名	わたしたちの中辺路(三味線の授業)	学年・教科・領域等	4・5・6年(総合的な学習の時間)
-----	-------------------	-----------	-------------------

目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が地域の行事についての理解を深めるため、地域の祭りの三味線の曲を教えていただく ・児童が学習の成果を活かし地域の一員として、地域の祭りに参加し三味線の演奏をする ・地域の方々に協力参加していただくことにより、学校と地域の関係を密にしていく ・地域の伝統行事に触れ、地域の文化を継承する
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが地域の伝統芸能に触れ、楽しく学べる環境作りを学校と共に取り組んでいく。

支援者及び支援組織
三味線指導者 三番叟保存会

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)
 ・4月から月に1回ずつ、5年生と6年生に三味線の授業をしていただく。本来は、杵荒神社の祭りで奉納する『寿式子ども三番叟』で演奏する三味線の曲を練習するためだが、技能を高めることを目的として他の童謡も練習している。11月の授業からは、4・5年生が練習を開始している。三味線の扱いや、手入れの仕方等を4年生に教えてくださるので、大変活発な児童たちも真剣に三味線の授業に取り組んでいる。

- ・授業で練習している曲は、
 - ◇ 『三番叟前振り』
 - ◇ 『ひのまる』
 - ◇ 『茶摘み』
 - ◇ 『さくらさくら』
 - ◇ 『越天楽』
- を、2年間で練習している。



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、演奏に取り組み、日本の伝統文化でもあり栗栖川の伝統芸能でもある三味線の練習をすることで、祭りや故郷について考える機会を持つことができた。 ・地域の伝統的な行事に児童たちが参加するための素地づくりをすることで、地域に協力をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生を捜すことができない。継続するためには複数の態勢での指導ができるようにしたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・三味線を演奏することで、日本の伝統や栗栖川の祭り行事に触れることができた。 ・和楽器に親しむことで、西洋楽器とは違う難しさや楽しさを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調弦や準備で休憩時間は忙しくなる。音の高さを合わすことは難しいが、新鮮な感覚で取り組んでいる。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・三番叟保存会との交流を通して、地域の伝統芸能の素晴らしさ及び保存継承する気持ちになってくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化を守り育てていけるよう、取り組んでいきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに地域の伝統芸能をつたえられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統芸能保存・継承に地域として、指導者の発掘に取り組んでいく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の伝統芸能に触れることで、地域の文化を継承していくきっかけとなった。
- ・三味線の授業を活かし、祭りで演奏することにより、地域の方々に喜んでいただけた。
- ・和楽器の演奏は洋楽器とは違った楽しさや難しさがあり、新鮮な気持ちで取り組めた。
- ・今後の取り組みの方向として、できるだけ長く継続維持できるようにし、学校や児童たちが地域の力になれるようにしたい。

学社融合活動実施報告

学校名	二川小学校	公民館名	中辺路公民館 二川分館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>核家族の増加や情報社会の浸透など社会の急激な変化の中で、生活のゆとりや、人と人との心のつながりが希薄になってきている。私たちの地域でも、過疎化、高齢化、少子化が進んでいる。そうした中でも、学校の運動会や文化祭は地域ぐるみの取組みとして、地域の各団体の協力を得て毎年行っている。</p> <p>本校では、本年度運動場の芝生化の取組を行い、地域各団体に呼びかけ、地域ネットワークを構築した。</p>			
活動名	運動場芝生化、運動会、文化祭	学年・教科・領域等	全校・特別活動
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・芝生化された運動場で競技や演技を行う。また、運動会、文化祭を通じて技能を高めていく。 ・芝生づくりの作業を地域の方々と一緒に行ったり、協力して運動会や文化祭を作り上げて行く中で、地域の人や友だちのよさに気づき、お互いに認め合う態度を養う。 ・地域の方と一緒に作業したり、交流する中で、地域の伝統や文化について学ぶ。 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの人々との作業やふれあいを通して相互理解を深める。 ・子どもたちとの交流を通じて、地域の子どもを育む素地をつくる。 	
<p>支援者及び支援組織 二川小学校教育後援会、二川地区老人会、二川女性会、川合町内会、大川区、福定区、内井川区、小松原町内会、温川区、高原町内会、二川子どもクラブ、公民館二川分館</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>【運動場芝生化】 「二川っ子広場育成会」結成 5月7日 二川地区老人会、二川地区町内会・区会、二川小教育後援会、二川小学校、二川小育友会、公民館二川分館、二川女性会、二川子どもクラブ</p> <p>※ポット苗作り 5月16日(日) 近野小学校から頂いた芝を小さくちぎり、ポットに植えて芝生のポット苗を約20,000個作成。児童、職員、保護者と共に二川っ子広場育成会等地域の方約100名に協力いただいた。</p> <p>※苗の定植 6月20日(日) ほぼ1ヶ月後の6月20日、今度はポットに植えた苗を運動場に定植した。雨の降る中での作業だったが定植にも約100名の方に参加いただき子どもたちとともに、ほぼ2時間ほどでグラウンド一面に芝を植え終わった。</p> <p>【運動会】 9月19日(日) 7月22日(木) 二川地区運動会実行委員会 運動会の日程、内容、分担などについて協議 (二川小学校、育友会、公民館分館、公民館協力委員、二川女性会、二川地区町内会・各区・老人会) 9月19日 運動会 芝生化された運動場での実施。</p> <p>【文化祭】 11月7日(日) 10月1日(金) 文化祭実行委員会 文化祭の日程、内容などについて協議 (二川小学校、育友会、公民館分館、公民館協力委員、二川女性会、二川地区町内会・各区・老人会) 11月7日(日) 文化祭 開会式 女性会リサイクルバザー 餅つき(児童が餅つき体験) 児童のコーナー 地域の方の作品を展示 学習発表(児童による地域の民話読み聞かせ、劇、歌やダンス) 育友会によるビンゴゲーム、閉会式・餅まき</p>			

	成 果	課 題
学 校	<p>児童数が少ない中で、運動会や文化祭は地域の協力を得て実行委員会形式で行っている(運動会は地区運動会として実施)。</p> <p>文化祭では、地域の方々の作品出品や女性会によるリサイクルバザーも開催できた。児童のコーナーで、木工作品づくりやゲームなどを子どもたちが自主的に計画、運営できた。</p> <p>本年度は、運動会や文化祭だけでなく、地域の各団体に呼びかけ、「二川っ子広場育成会」を結成し、各団体や地域と連携して運動場の芝生化を行った。地域ネットワークを構築することができた。</p>	<p>子どもたちの活動を進めていくための、時間確保(時数確保)や準備などの工夫が必要。</p> <p>地域の方々の高齢化が進み、文化祭での「野菜の朝市」や「作品展」については、開催が難しくなっている。</p> <p>地域ネットワークを活用した取組みを継続させていくことが、今後の課題である。</p>
* 子どもにとって	<p>子どもたちは、芝生の上で裸足になったり転んだり、草の感触を味わいながらのびのび活動している。運動会・文化祭ともに、普段の練習の成果を十分に発揮できた。また、地域の方と一緒に活動したり、交流することによって、地域の方々とのつながりをさらに深めることができた。</p>	<p>子どもたちの自主的な活動や地域と結びついた学習活動をもっと進められるよう工夫していくこと。また、ゲストティーチャーの利用等、地域を活用した学習を考えていくこと。</p>
* 子どもにとって	<p>子どもたちが地域の方々と一緒に作業をしたり、ふれあい、交流を持つことで、地域と子どもの関係を深め、地域の中の子どものたちを見守る目を増やすことができた。</p>	<p>子どもたちが、地域の方とのふれあいや交流をさらにすすめるための場について、コーディネートすることも考えたい。</p>
地 域 (公民館)	<p>二川小の運動会や文化祭は、地域の中の行事として根付いている。公民館分館だけでなく各区、町内会、女性会、老人会などで協力して行う行事であるため、地域の連帯感を感じることができた。また、普段出会わない方々の交流の場としても、意義深い。</p> <p>本年度は、地域の団体に呼びかけ、連携して運動場の芝生化に取り組むなど、地域ネットワークを構築できたのが、大きな成果である。</p>	<p>高齢化が進み、地域ぐるみの参加が難しくなっている中で、地域ネットワークを活用した取組みを今後も進めていくことが必要である。</p>
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>運動会や文化祭は、地域ぐるみの行事として定着してきている。本年度も、公民館分館をはじめ、地域の様々な団体の連携で、開催できた。</p> <p>こうした取組みを進めてきたことで、学校が地域の中の学校として位置づけられている。また、文化祭は、地域の方々も参加して、作品展やリサイクルバザー、発表など様々な文化的活動を行うことができ、大変有意義でもある。</p> <p>運動会や文化祭が学校と地域、あるいは子どもたちと地域をつなぐ行事であるとともに、地域の方々の交流の場としても大きな意義を持っている。</p> <p>各団体とは、従来から連携していたのだが、本年度は「運動場の芝生化」により、ひとつに結びついた地域ネットワークを構築することができた。</p> <p>児童数の減少や地域の方々の高齢化が進む中で、運動会や文化祭は従来どおりの形での開催が難しくなっている。内容を工夫し精選していくとともに、地域ネットワークの活用をさらに進め、学社融合の取組を深めたい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校名	近野小学校	公民館名	中辺路公民館 近野分館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>学校教育と社会教育がそれぞれの役割分担を前提とした上で、相互にその教育力を活用し、地域内の教育力を高めることにより、青少年の健全育成にも繋がっています。そのためには、学校・地域・公民館との連携を充実させ、教育資源を積極的に活用することによって、地域の方が参加したり等活動の場が広がってきている。</p>			
活動名	郷土や人々とのふれあい学習	学年・教科・領域等	全学年・生活科・総合的な学習等・児童会・学校行事
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人々とのふれあいを深める。 ・身近な自然や郷土の文化・伝統にふれ、ふるさとを思う心を育てる。 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子どもたちが心豊かに育まれると同時に、子どもを通して地域住民同士の交流を深めることにより、コミュニティ活動の活性化を図る。 	
支援者及び支援組織 保育所、中学校、PTA、敬老会、女性会、地域住民			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>学校と地域の連携……地域の教育力の活用</p> <p>①学校行事における敬老会との関係 児童会が主体的に計画・運営をし、敬老の方を招待し集会を開催。 七夕集会(7月)、クリスマス集会(12月)、節分集会(2月予定)</p> <p>②近野区民体育祭 近野区民体育祭実行委員会の結成(7月)、9月に実施。 保育所、小中学校、保護者、8地区の住民、女性会の参加。</p> <p>③郷土文化に親しむ 全児童が「野中の獅子舞」の笛・太鼓の練習開始。(講師・・・近野獅子舞団の方々)</p> <p>④近野フェスティバル 第13回近野フェスティバル 11月28日(日)実施 実行委員会を立ち上げ小中学校が主体的に取り組み、地域住民の協力・支援の関係 学校開放月間に位置づけ、保護者・地域住民が集う学校づくり 文化祭会場への地域住民からの作品展示・掲示 午前の部・・・小中学校の音楽・学習発表・太極拳サークルの皆さん 昼食・・・「パパ・ママランチのお店」、女性会の野菜即売会 午後の部・・・小中学校のゲームランド</p> <p>⑤ふるさと学習(各学年) 生活科・総合的な学習に体系化されたふるさと学習の推進</p> <p>⑥第38回熊野古道近野山間マラソン大会 社会体育活動の一環として、実行委員会主催による地域ぐるみで取り組むマラソン大会</p>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の文化、野中の獅子舞に親しみ、獅子舞を支えている笛に取り組むことができた。 ・敬老会で大勢の地域住民の方とふれあうことができた。 ・近野フェスティバルを学校開放月間と位置付けることによって学校と地域住民との交流が深まった。また、コミュニケーション力を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・獅子舞の横笛を鳴らすことは、子どもたちにとっては大変難しいことであるが、楽しく継続させることが課題。 ・近野フェスティバルについては、地域住民の協力はあがるが、地区の人々が参画し、計画的に運営していく実行委員会が必要である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表や音楽発表は、場の経験となり学習意欲が高まった。 ・県指定無形文化財「野中の獅子舞」の笛が吹けるようになった中高学年。少し鳴るようになった低学年も喜んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や音楽の練習の継続。 ・もっと時間を多く取り、笛に親しむことができ、そして上級生から下級生に伝えられるようになることが課題。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と触れ合うことで、そこに住む人や地域の素晴らしさを感じることができた。 ・郷土の文化や知恵を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの大人と出会う機会を作り、より社会性等を高める。 ・郷土文化に親しむことの継続、小中系統的に取り組んでいくことが課題。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のみの世帯が増える中、子どもとの触れ合い、知識や経験と技術を伝えることにより、地域の活性化が図れた。 ・郷土の伝統文化にふれてもらうことができ、今後の伝統文化の保存継承に有意義であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域が抱える課題への関心を高め、それを解決するための学習や活動を喚起する。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・体験学習として「七夕・クリスマス・節分集会」では、お年寄りの方とふれあい、楽しく交流ができた。
- ・近野区民体育祭は、地域上げての大運動会として大いに盛り上がった。
- ・野中の獅子舞の笛や太鼓を通して、郷土の伝統文化にふれることができたので、今後も伝統文化の継承に取り組んでいく。
- ・第13回近野フェスティバルにおいて「豊かな心を持ち、たくましく生きる子ども」をめざす本校の教育活動の一環として位置づけ、生活科・総合的な学習で学んだことを地域に発信することができた。また、中学校と共催することで、小中連携をより深めることができた。今後ともフェスティバルの開催を通して、より一層公民館・学校・PTAや地域・各種団体との連携を図っていく。
- ・話し合いに基づいて計画的に実行していく実質的な委員会の組織を強化していく。
- ・ふるさと学習でお世話になった地域の方々を講師バンクに登録し、毎年活躍してもらえるようにしておく。

学社融合活動実施報告

学校名		鮎川小学校	公民館名	大塔公民館 鮎川分館
学社融合における学校・地域の様子 ・地域の人材を生かした選択交流学习では、地域の方々にご指導いただき、子どもたちにとって良い経験ができた。 ・地域の方に大塔の文化や歴史についてお話いただき、価値のある学習をすることができた。				
地域(公民館) ・鮎川ふれあいスクールの実施にあたり、地域の方々や団体にボランティアやアイデアの提供等様々な面で参加・ご協力をいただいている。また、取り組みを通して地域における支援の輪が広がってきている。				
活動名			子どもと地域のふれあい	学年・教科・領域等 全学年の希望者
目標	学校	・学校・家庭・地域が一体となった大きな輪の中で児童の健やかな成長を育む。 ・保護者や地域の方々と触れ合うことによって、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・地域の教育資源を最大限に生かし、児童の生きる力の育成を図る。		
	公民館	・児童と地域住民のふれあいを通して、「地域の子どもは地域で育てる。」という意識を高める。 ・様々な取り組みを行うことで、子どもにとって様々な体験・交流・学習活動の機会とする。 ・地域融合を積極的に推進することで地域力を高める。		
支援者及び支援組織 ・鮎川ふれあいスクール実行委員会(学校・公民館・子どもクラブ・小学校PTA・中学校・大塔老人会・大塔女性会・田辺市社会福祉協議会大塔地区事務所・大塔村商工会) ・鮎川ふれあいスクール講師及びボランティア(保護者・地域の方々・大塔老人会・大塔女性会・大塔地区食生活改善推進協議会 等)				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
4月22日	第1回鮎川ふれあいスクール実行委員会会議	平成22年度の活動計画等(12名出席)		
5月12日	工作教室(対象3~6年生)	ブラバンキーホルダー作り(35名参加)		
5月19日	上を目指そう! チャレンジランキング(対象1・2年生)	チャレンジランキングの実施(31名参加)		
5月26日	昆虫採集をしよう!(対象2~6年生)	昆虫採集の実施(30名参加)		
6月2日	茶道教室(対象3~6年生)	茶道の実施(30名参加)		
6月16日	押し花を習おう!(対象1~3年生)	押し花ハガキ作り(39名参加)		
6月23日	囲碁を体験しよう!(対象全学年)	囲碁の実施(36名参加)		
7月7日	昔遊びをしよう!(対象全学年)	カルタ等の実施(49名参加)		
7月14日	ファミリーバドミントン体験しよう!(対象4~6年生)	ファミリーバドミントンの実施(14名参加)		
8月4日	紙をつかってモビールをつくろう!(対象1~3年生)	モビール作り(38名参加)		
8月11日	ビーズで手作りストラップをつくろう!(対象全学年)	ストラップ作り(76名参加)		
8月18日	デイサービスを訪問しよう!(対象2~4年生)	利用者・老人クラブと交流(21名参加)		
8月25日	願いを込めてミサンガをつくろう!(対象4~6年生)	ミサンガ作り(29名参加)		
9月8日	茶道教室(対象3~6年生)	茶道の実施(29名参加)		
9月15日	お手玉を習おう!(対象1・2年生)	お手玉の実施(25名参加)		
9月22日	「せっけんねんど」工作をしよう!(対象全学年)	せっけんねんどで作品作り(59名参加)		
10月13日	春巻きの皮でお菓子をつくろう!(対象1~3年生)	ミニアップルパイ作り(48名参加)		
10月20日	和菓子をつくろう!(対象4~6年生)	イチゴ大福作り(27名参加)		
11月17日	手づくりシュシュをつくろう!(対象4~6年生)	シュシュ作り(22名参加)		
11月23日	グラウンドゴルフ大会に参加しよう!(対象全学年)	グラウンドゴルフ大会への参加(19名参加)		
12月1日	押し花をならおう!(対象4~6年生)	押し花ハガキ作り(18名参加)		
12月8日	クリスマスカードをつくろう!(対象2・3年生)	飛び出すカード作り(36名参加)		
12月15日	料理教室(対象1・4・6年生)	ケーキのかざりつけ体験(40名参加)		
12月22日	料理教室(対象2・3・5年生)	ケーキのかざりつけ体験(39名参加)		
1月12日	保育園児と仲良くなろう!(対象1年生)	感染性胃腸炎の流行が心配され中止		
1月19日	茶道教室(対象3~6年生)	茶道(19名参加)		
留意事項 ・活動時の児童の安全に配慮する。 ・児童の下校時の安全に十分配慮する。 ・児童の出席状況を把握し、スムーズな運営に努める。 ・講師との連携を密にする。				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの興味・関心の広がりが見える。 ・子どもたちが安心して活動できる貴重な場となっている。 ・教員だけの時よりも内容や指導方法の幅が広がり、多様な学習ニーズに応えることができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合を視点にした授業を行う場合の評価の在り方について検討する必要がある。 ・地域の教育力を学校に取り入れるだけでなく学校の教育力を地域に還元する方法を探る必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に接し、新鮮な気持ちで生き生きと学ぶ子どもたちの姿が見られた。 ・地域の方の分かりやすい助言に親近感を覚え、気持ちよく活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施場所が小学校以外の場合、そこまで移動する際に児童を安全に移動させるのが難しい。 ・低学年、中学年、高学年及び男女によって関心のあるメニューが違うため、今後偏らないよう努める。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方々を先生と呼ぶようになり、話をよく聞くようになった。 ・学年を混合して教室を開催しても皆仲良く、楽しく参加していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に係る教室について、団体で行うものが苦手な面があり、実施が難しい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みにご協力をいただける地域の住民・団体が増加している。 ・大塔女性会や大塔老人会等、地域の団体も巻き込んで実施することで、世代間交流等も含めて実施できたとともに、取り組みについて地域住民に認知されるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご協力いただける方々が固定化されている傾向にある。このため、教室実施に当たっては負担を軽減できるよう実施内容・実施日について分散化するように配慮するとともに、地域にむけては活動へ興味を持ってもらえるようPRをおこなう。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

より広く地域住民を巻き込んだ活動をおこなうとともに、「子どもは地域で育てる」という意識を高めるためPR面に力を入れる。具体的には、「鮎川ふれあいスクールだより」「大塔公民館だより」「取り組みポスターの張り出し」「展示会等での取り組みの紹介」等を有効活用する。

また、ボランティアの負担軽減を図るため、実施月内において実施内容・実施日が分散化するよう配慮をおこなう。教員が、地域の人や関係機関と連絡調整を日常的に行うために、企画力、交渉能力、コーディネイト能力など、これから必要とされるであろう教員の資質の向上に努める。

学社融合活動実施報告

学校名	三川小学校	公民館名	大塔公民館 三川分館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校は、伝統的に地域の協力を得ながら学校行事等を行っている。また、地域には、知的障害者更正施設のアスナロ会や高齢者の福祉施設や児童養護施設「くすのき」がある。この施設との交流も視野に入れて学社融合を行っている。広義の学社融合であるが、「百間溪谷若葉祭り」への参加、「三川地域運動会」「三川地域お楽しみ会」「人権作文発表会」「匠の森プロジェクト」等を行っている。また授業にも地域の方にも関わってもらい「ふるさと学習」を進めている。</p> <p>こういった学社融合の取組を通して、学校と地域がよい関係で行事を行い、良い互恵関係ができています。</p>			
活動名	あすなろ楽団との合同演奏・あすなろ会との交流	学年・教科・領域等	全学年、生活科、総合的な学習、音楽、道徳、特別活動
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・あすなろ楽団・あすなろ会との交流を通して、障害者理解を図る。 ・あすなろ楽団との合同演奏を通して、音楽に楽しみ、地域や社会に貢献する。 ・この活動を通して、児童に地域・社会への感謝や貢献する気持ちを育て、自己有用感を培う。 ・保護者・学校・地域と連携し、児童にふるさとを愛する豊かな心を育てていく。 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・三川小学校との合同演奏を通して、地域・社会に貢献する。 ・この行事に参加・参画することで、障害者理解やお互いの交流を深める。 ・児童との交流を通して、地域の児童を育む環境を考える。 ・地域のコミュニティ活動の活性化を図る。 	
支援者及び支援組織			
三川小学校、三川小学校PTA、大塔公民館、三川分館、三川地域振興推進会、道路委員会、区長会 交通安全協会、老人会、ボランティア協会、あすなろ会、あすなろ楽団、郵便局、JA紀南、生涯学習推進委員 他			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>あすなろ楽団は、知的障害者更正施設「あすなろ会」の園生と職員で結成されている。本校とあすなろ楽団との合同演奏やあすなろ会との交流は、もう十数年になる。あすなろ楽団との合同演奏は地域のお祭りや行事、知的障害者の和歌山大会、近畿大会等で行い好評を得ている。</p> <p>あすなろ会は地域の行事に積極的に参加し、地域に大きく貢献している。このことは地域の方々によく知っており、地域や学校の様々な行事で、あすなろ会との交流やあすなろ楽団との合同演奏に積極的に参加・協力してくれている。</p> <p>以下は本年度の取組である。</p>			
<p>◎あすなろ楽団との合同演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4月29日…百間溪谷若葉祭り（三川地域のお祭り）にて、あすなろ楽団と一緒に舞台発表を行う。 ・ 5～ 6月… 9月29日に和歌山市で行われる「第48回全国知的障害福祉関係職員研究大会和歌山大会」のウエルカムアトラクションで三川小学校とあすなろ楽団との合同演奏を行うことについて、大会冊子の原稿、今後の合同演奏の曲目等の決定について打ち合わせを行う。 ・ 7月13日…第1回 あすなろ楽団との合同練習 ・ 9月 7日…第2回 あすなろ楽団との合同練習 ・ 9月24日…第3回 あすなろ楽団との合同練習 ● 9月29日…「第48回全国知的障害福祉関係職員研究大会和歌山大会」のウエルカムアトラクションであすなろ楽団との合同演奏を行う。 ●11月21日…「第5回 三川地域お楽しみ会」で、あすなろ楽団との合同演奏を行う。 			
<p>◎あすなろ会との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月 7日…プール清掃 ・ 6月25日…あすなろ会への訪問・福祉交流学習 ・ 7月 1日…給食試食会・救命講習会・着衣水泳 ・ 9月19日…三川地域運動会 			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に対する理解が進んだ。 ・演奏を見てもらったり、一緒に作業等を行うことで地域の方々との交流を深めることができた。 ・様々な人から好評をいただき、児童の自己有用感を育む一助となっている。 ・学校が地域の文化交流の連帯の場となってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度からは、新教育課程が始まる。こういった活動と教科の授業時数の確保や総合的な学習の時間の活用を教科領域との関係を考え計画的に行う必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの発表を地域の方々等に見ていただき、評価してもらうことで自信や充実感を持つことができた。 ・地域の方々への感謝の気持ちや地域の方々へ素晴らしい活動を見せたいという意欲が育まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数が減少しており、練習や準備において、一人一人の負担が大きくなっている。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者との交流を通して、自然な関係と一緒に演奏したりなどいい交流ができ、障害者理解が進んできた。 ・地域の方々との交流を通して、ふるさとの良さや地域の方々への感謝の気持ちが育っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事での交流や地域の方々を呼んでの交流にとどまらず、より日常的な交流に繋げていく必要がある。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・あすなろ会との交流を通して、障害者理解のいい機会となっている。 ・三川小学校とあすなろ楽団の合同演奏や交流を通して、元気をもらっている。 ・地域の方々が集まり、お互いの交流を深めることができています。 ・学校やあすなろ会の様子がわかり、協力しやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の参加が必要となってきた。 ・地域が広く高齢化が進んでいるため、交通手段がないと学校に集まり交流することが難しくなってきた。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の行事に積極的に参加し、地域の方々喜んでもらえた。
- ・あすなろ楽団との合同練習を通して、障害者理解や音楽の楽しさにふれることができた。
- ・あすなろ楽団との合同演奏で、今まで2つに分かれていた演奏していた形を、さらに一体化する形に変えることでこの合同演奏さらに良くなってきた。
- ・本年度は、特に和歌山市で行われた「第48回全国知的障害福祉関係職員研究大会和歌山大会」のウエルカムアトラクションであすなろ楽団との合同演奏を行い、あすなろ楽団・三川小学校にとって大変いい経験ができた。またこの大会の参加者からいい好評を得ることができたので、児童にとって有意義な活動となった。また、この演奏を「第5回三川地域お楽しみ会」で披露することができ、児童にとって大変有意義であった。
- ・今後もあすなろ会との交流を深め、取り組みを進めていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名		富里小学校	公民館名	大塔公民館 富里分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>地域の自然や文化に触れさせるため、諸施設に積極的に協力を求めたり地域の方を講師として招聘したりするとともに、地域の行事などに積極的に参加していくなど、社会教育との連携を深めるように努力している。公民館、保育園と運動会などの行事等を共催したり、後援をいただいたりしている。地域の方も協力的で、様々な活動を支援してくれている。</p>				
活動名		ふるさと学習	学年・教科・領域等	全校児童・ 体育・特別活動(ふるさと)等
目標	学校	縦わり班活動を利用して学年を越えた協力や助け合い、役割分担を身につけさせるとともに、自主的に活動できる子どもを育てる。また、教材として地域の人材や環境を取り入れることで、ふるさと教育を推進していく。		
	公民館	地域の方々にご協力をいただいて、学習を通じた児童との交流をすすめることで、子どもの社会性を育むとともに地域と子どもの結びつきを高める。		
支援者及び支援組織				
大塔拠点公民館・大塔公民館富里分館・各地区長・富里小学校教育友会・とみさと保育園・とみさと保育園保護者会・とみさと民舞サークル・富久寿会(敬老会)・あすなる平瀬の郷・ふる里富里会等				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
6月	学習発表会の全校合唱にむけての練習開始 地域出身者を俳句作りの講師として招いての俳句教室 大塔に伝わる食文化について学ぶふるさと料理教室(JA女性会)			
8月	秋季運動会実行委員会開催(種目決定・当日参加協力体制の構築)			
9月	民舞サークルの方々による秋季運動会にむけての大塔音頭(地域に伝わる踊り)の講習会 児童会役員による運動会招待状の製作 秋季運動会開催(公民館による地域住民の一般種目参加の呼びかけと出場)			
10月	学習発表会にむけての取り組み(学年演目・全校合唱、合奏の練習) ふる里富里まつりにむけての出品作品製作と同実行委員会への出席・準備協力 地域出身者を俳句作りの講師として招いての俳句教室			
11月	ふる里富里まつりへの参加(職員の役員参加と児童の獅子舞・運動会・地区別模擬店への参加) 全校児童による地域の高齢者むけ学習発表会招待状の製作 学習発表会の開催(学年演目・全校劇・各種団体の演目・地域サークルによる炊き出しサービス・花苗プレゼント・参加者と児童との交流)			
2月	大塔に伝わる食文化について学ぶふるさと料理教室(JA女性会)			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や地域の協力を得られ、多様な交流ができるようになった。 ・地域出身のゲストティーチャーを招いての俳句教室を、夏と秋の2回に分けて行うことができた。地域の行事などを支えてくれている方々と顔を合わす機会が増え、 ・地域の行事(流れ施餓鬼)を見学する機会があり、地域をより身近に感じることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流にあたり、児童の発達段階に合わせた適切な敬語やマナーを習得させるようにする。 ・単なる交流ではなく、交流後の児童の気づきや次への課題を大切にす。 ・公民館や地域任せにならないよう、常に学校がリードしながら連絡をとっていくようにする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事やボランティア活動にたいする地域の方々の積極的な参加と協力で、各団体の様々な活動に触れることができ、児童の地域理解がさらに進んだ。 ・地域の伝統・行事・自然に触れることで、ふるさと富里を愛する気持ちが育ちつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を大切にする気持ちは育ってきたが、主体的に関わっていこうとする子はまだ少ない。伝統や行事に進んで関わり、10年後20年後の富里を支えていく担い手を育てていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して、児童と地域住民の交流が図れたとともに、児童の地域への関心・理解が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、より多くの地域住民が学校教育に絡み、児童とふれあうことで、児童の社会性を育んでいくとともに、地域への関心・理解をさらに高めていく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が学校教育へ関わることで、住民の学校への理解が深まるとともに、関心が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館として、地域の人財・団体の把握に努めることで、児童と地域が幅広く交流できるよう環境の充実に努める。 ・児童が地域を知るとともに、交流を通して社会性が育まれるよう、小学校・地域・公民館の結びつきを強める。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

- ①特別活動年間計画の整理と見直しをし、新たな活動が計画に加わった。
- ②地域住民とふれあう機会の多い本校の運動会・学習発表会やふる里富里まつりなどで、児童は地域をより身近に知ることができている。
- ③学校職員と公民館や地域の各団体の方々との距離が近くなった。
- ④ふる里富里祭りなどに参加したり作品を出品したりすることで、ふるさとを支える一員としての自覚が育ってきている。

(次年度に向けての取り組みの方向)

- ①公民館をはじめ各団体の協力を得ながら児童と地域のふれあいの場を設けていく。
- ②児童へのふるさと教育の継続
- ③大塔公民館富里分館との連携のさらなる強化(交流会議などの実施)

学校名		本宮小学校	公民館名	本宮公民館 本宮分館・請川分館・四村川分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>子どもたちは、学校だけでなく家庭や地域社会の中で育てていくとの考えから、学校と家庭・地域が密接な連携を図りながら、学社融合を推進し、学校・家庭・地域が一体となって児童の健全育成を図るとともに故郷の良さや地域の実態を知り、将来、地域社会の一員として貢献することのできる児童の育成ができるように開かれた学校づくりを進めている。また、家庭や地域の方々は、学校教育に大きな関心を寄せており、授業参観や学級懇談に限らず、各種行事への出席率も高い。また、ゲストティーチャー・学習アシスタントとして積極的に授業支援にも関わってくれている。奉仕作業等への参加数も多く、学校に対する期待の大きさとともに、地域ぐるみで子どもを育てようとする姿勢がうかがわれる。</p>				
活動名		「ありがとう」はとてもすてき		学年・教科・領域等 2年生・生活科
目標	学校	児童は、多くの生活体験をしながら家庭や地域の人々に支えられて成長している。そこで、本活動では、児童がお世話になった地域の人々のことを振り返り、「音無紙」という伝統的な和紙で葉書を漉くことを通して、地域にある貴重な和紙の存在を知り、地域の方々にお礼の気持ちを伝えることができるようにする。		
	公民館	地域の持つ教育力、及びそれぞれの活動を学校の教育活動に生かすとともに、地域ぐるみで子育てをする意識や、本宮の歴史・文化・自然に対する思いを深める。		
支援者及び支援組織				
本宮公民館・音無工房・本宮行政局・保護者・地域コーディネーター				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>8月16日 コーディネーターに12月3日の学習パートナーの依頼をお願いする。 8月16日 コーディネーターが学習パートナーに依頼をする。学習パートナーの承諾を得る。 8月30日 低学年部会で指導案を検討する。 9月 6日 コーディネーターと授業の打ち合わせを行う。 10月18日 学習パートナーに指導者が「音無紙」について聴く。 10月19日 学習パートナーに「音無紙」の漉き方を習う。 10月20日 学習パートナーと指導者が漉いた「音無紙」を板にはる。 10月25日 学習パートナーと指導者が完成した「音無紙」を板からはがす。 11月 8日 低学年部会で指導案を検討する。 11月15日 学習パートナーと授業の打ち合わせを行う。 11月22日 学習パートナーと葉書の試作品づくりをする。 11月24日 学習パートナーと授業の打ち合わせを行う。 11月26日 学習パートナーと授業の打ち合わせを行う。 12月 3日 紙すき体験をおこなう。(学習支援者4人) 12月 6日 学習パートナーが紙を板からはがし、葉書を作る。 12月 7日 お礼の葉書絵を書き、届ける。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者や地域の多くの方々に支援していただくことによって、子どもたちの様子を見ていただくことができた。そうすることによって、子どもたちや学校がかかえている課題を学校・保護者・地域で共有することができるようになってきた。 ●職員では指導することができない専門的な技術指導ができ、子どもたちが「ほんまもん」の体験をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●打ち合わせ等、時間の調整・確保が大変であった。 ●今回は地域の方々の御好意で材料費などを含め無償で行っていただいたが、活動に係る費用の確保に課題が残った。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の手で紙をすく体験を通して、故郷本宮の歴史・自然・文化・人に触れることができた。故郷本宮に対する思いが深まった。 ●自分たちの成長が多くの人々に支えられていることを知り、感謝の気持ちを持つようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●故郷に対する思いをさらに深められるような体験の機会を作りたい。 ●児童が自主的に活動できるように、児童に目的意識を持たせ計画段階から主体的に参加させるようにしたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の方々との距離が近くなり、あいさつなどができるようになった。 ●もっと故郷のことを知りたいという気持ちが深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の行事などにさらに多くの子どもが参加してもらえるように、広報・告知活動をさらに充実させたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の課題、地域の課題を共有する機会となった。 ●本宮の良さを発信する場となった。 ●学校と地域がともに故郷本宮について考える機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校、保護者、地域が一体となった子育てをさらに推進していきたい。 ●地域での取組や行事を児童、保護者、学校にさらに知ってもらえるようにしたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

[評価]

- 学校、保護者、地域が一体となって子どもを育てていこうという意識が高まった。
- 地域の方々が学校に来る機会が増えた。
- 児童が多くの大人と関わることによって、規範意識やコミュニケーション能力の向上が図られた。
- 児童の故郷本宮についての思いが深まった。





[次年度に向けての取組]

- 3年間の『学校支援地域本部事業』が終わるので、学校・公民館が中心となって学社融合を進めていくことを基本にして、組織作りを含め次年度からの取組のあり方を話し合っている。



学社融合活動実施報告

学校名		三里小学校	公民館名	本宮公民館 三里分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>毎朝通学路に立って子どもたちの安全を見守ってくださっている方が3名おられるなど、本校区の住民・保護者の方々は学校教育に対して非常に協力的である。学校も、支援ハウスや老人ホーム等への貢献活動などを継続して行っている。</p> <p>そのような良好な教育環境下で、各教科や総合的な学習の時間においては、公民館の活用による体験的学習の実施や地域人材をゲストティーチャーとして学校に迎えての授業など、学校教育と社会教育が一体となった学習を展開し、子どもたちが自ら考え、主体的に判断し、行動するなど「生きる力」の育成を図っている。</p>				
活動名		運動場の芝生化		学年・教科・領域等
		全校児童・学校行事		
目標	学校	少子化や生活習慣の変化に伴い、子どもの体力・運動能力が低下している実態を改善し、かつ学校と保護者・地域住民の連携を強化し、本校の教育活動の一層の推進に向けた教育条件の整備を行う。		
	公民館	運動場芝生化の協働作業を通して保護者・地域住民・学校の連携強化を図るとともに、社会体育の場・休日の憩いの場、また小学校と地域住民の交流の場として芝生化された運動場を活用する。		
支援者及び支援組織				
三里小学校育友会・三里地区住民・本宮公民館三里分館・三里中学校				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>4月…公民館分館長に運動場芝生化の概要を説明し、公民館としての協力を要請。 地元萩区長に取り組みを説明し協力を要請する。 地域の方三名に芝刈り・施肥作業の協力依頼。 自治会長に取り組みを説明し、地域住民の作業協力を依頼。 育友会役員に取り組みを説明し、協力を依頼。 育友会総会で芝生化に取り組むことを報告。</p> <p>5月…近野小学校より、芝生を分けていただく。 保護者・地域住民・小学校・中学校・行政関係者等、約130人の協力を得て、ポットに苗を植える。</p> <p>6月…保護者・地域住民・小学校・行政関係者等、約100人の協力を得て、ポット苗を運動場に移植する。 移植後、水遣り・施肥を繰り返す。</p> <p>7月…7月より、芝刈り・水遣り・施肥を繰り返す。</p> <p>9月…運動場全面に芝が拡がり、本格的に運動場の使用を開始する。</p> <p>10月…冬芝の種をまく。</p> <p>11月7日…「芝生ができたぞ記念集会」開催。①ミニコンサート②地元ボランティアグループ「るるる読み聞かせたい」による、読み聞かせ。③児童会主催のゲーム。</p>				
		<div data-bbox="300 1635 683 1713" data-label="Caption"> <p>「芝生ができたぞ記念集会」でのミニコンサートの様子</p> </div>		<div data-bbox="893 1635 1276 1713" data-label="Caption"> <p>「芝生ができたぞ記念集会」での読み聞かせの様子</p> </div>
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ○芝生化を通して、学校職員が多くの地域の方々と接し対話する機会に恵まれ、地域とのつながりが豊かになった。 ○多方面にわたって学校への協力が得られやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校職員と保護者・地域住民が役割を分担し、学校の負担を軽減するような体制を確立していきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ○休み時間等に外遊びをする子が増え、運動量が増えた。 ○運動場で側転や前転等の運動をしたり、一輪車で難しい技に挑戦するなど、遊びの内容や質が変わってきた。 ○擦り傷が減った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○芝生の育成については、子どもたちにも何らかの役割を持たせて、「自分たちの学校の自分たちの芝生」という意識を持たせていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方々が学校を訪れる回数が増え、子どもたちに対する関心が強くなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校と地域の方々が、ともに芝生を活用する。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者・地域住民がいっしょに作業することで、学校に関心を持ち、今まで以上に学校に足を運ぶようになってきた。 ○若者がやってきては、裸足で遊んでいる姿がよく見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館や自治会等の関係団体と連携し、地域の祭り・行事での活用を拡げていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

子どもたちのためならと、進んで協力して下さった保護者や地域住民とは、芝生が完成してからも良好な関係を維持し、新たな交流も広がっている。地域のみなさんからは、ソフトボール大会等に芝生のグラウンドを使わせてもらいたいなどの声が出てきている。また、これまであまり外遊びを好まなかった児童が積極的にウォーキングに出るようになるなど、芝生の運動場は子どもたちの体力向上に効果的であると実感している。今後は、継続可能なゲーム等の研究や体育の授業研究等を進めていきたいと考えている。


5月。芝生を15000個のポットに植えました。

6月。ポット苗を運動場に移植しました。

9月1日。ついに芝生が完成。寝転がる子どもたち。

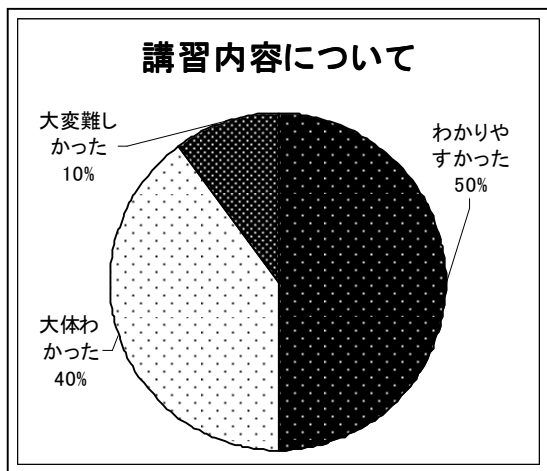


学社融合活動実施報告

学校名	東陽中学校	公民館名	東部・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>東陽中学校の改築と併せて、中学校内に公民館施設が併設され、平成21年から利用可能となった。その利点を最大限にいかした学社融合活動を推進していくために、新たに中学校の研究部会に「地域連携部」をつくり組織的に学校、地域との連携を推進した。今年度の学社融合の取り組みには、「初級パソコン教室」、「公民館だよりを情報伝達手段として活用」、「地域のゲストティーチャーの活用」などがある。地域の教育力、学校の教育力を相互に活用し合うという方針のもと、学校と公民館との連携・融合を進めた。</p>			
活動名	高齢者対象 初級パソコン教室	学年・教科・領域等	地域貢献活動
目標	学校	地域に開かれた学校教育推進のため、「高齢者対象のパソコン教室」を開設する。この教室を通して学校と地域が交流し、地域の教育力向上に貢献する。	
	公民館	地域から要望のあった「高齢者対象のパソコン教室」を開講する。中学校職員がメイン講師でコンピュータ部員がアシスタントを務め、併設する学校施設内のコンピュータ教室を活用するなど、学校の教育力を活用する。	
支援者及び支援組織			
東部公民館			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>(1) 受講者の募集</p> <p>東部公民館と連携しパソコン教室が地域でどれほどの需要があるかを考慮し、募集人員や中学校のクラブ活動の時間に合わせた開設時間や大まかな講習内容等を検討した。これらの活動内容を広く地域に広報するため、募集案内を東部公民館報10月号紙面に掲載した。</p>			
<p>(2) 講習内容の検討と実践</p> <p>今回開設する講座の受講者は高齢者、且つ初心者と限定しているため、講座内容は「電源の入・切」「パソコンの各部名称」「マウスの使い方」等、初歩的な所から始め最終的には簡単なレイアウトの年賀状を作成する事を目標とした。また、本校のコンピュータ部の生徒にそれぞれの受講者の操作補助を担当してもらい、生徒と地域の方々との交流を図った。</p>			
◎1日目<11/1(月)>			
「電源の入・切」「各部名称」「マウスの使い方」「ソフトの起動」「基本文字入力」			
受講者の多くが、全くパソコンに触れた事が無い方であったため、まずは電源の入れ方から始めた。			
◎2日目<11/2(火)>			
「文字入力の復習」「文字のコピーと貼り付け」「インターネットを利用した検索」			
受講者自ら電源を入れ、前日の文字入力の復習を行った。予め後に使用する地名等の検索キーワードをタイピング練習する単語の中に入れておき、文字入力復習後、実際にインターネットで検索して頂いた。検索内容は「今の京都の紅葉状況」、「紀伊田辺駅から京都駅までの時刻表」、「京都のお土産」等で、受講者には興味を持って検索したようである。			
◎3日目<11/4(木)>			
「文字入力の復習」「年賀状の作成」			
ワープロソフトWordの機能を利用し、年賀状を作成した。自宅の住所や新年の挨拶等を自ら文字入力し、コンピュータ教室のプリンターで印字し、実際に受講者自身が出来映えを確認した。			

	成 果	課 題
学 校	受講者のアンケートには、「パソコンをやってみたい気持ちになりました。」「学生さんにマンツーマンで教えて頂いたので分かりやすかったです。」などの感想もあり、パソコンに対する関心も高まり、「学校と地域との交流」、「地域への貢献」といった当初の目標を達成する事が出来たと考える。	講習内容は初心者向けとして当初十分検討していたものの、受講者アンケートの中には「専門用語が分かりにくかった」という意見が一部見られた。今後こういった取り組みを続けるのであれば、高齢者にとって更に分かり易い講習内容を準備すべきである。また継続的に取り組みを進めていくとすると、受講者間で知識やスキルに差が発生してくる為、取り組みに工夫が必要となる。
* 子どもにとって	コンピュータ部員が講座のアシスタントを務めたが、初めて地域の方に教えるという貴重な体験をすることができ、地域へ貢献する意識の向上につなげることができた。	人に教えることができる十分なコンピュータスキルとコミュニケーション力を高めていく。
* 子どもにとって	生徒の感想には、「今回のパソコン教室で、お年寄りに使い方を教えて、お年寄りの輪に入れた気がします。」とあった。生徒と地域の方とのつながりを深めることができた。	活動を通して、より多くの地域の方と触れ合うことで、社会性を高めていく。
地 域 (公民館)	公民館にはコンピュータ室がなく、「パソコン教室」を開設して欲しいという地域のニーズになかなか答えられなかったが、併設する中学校のコンピュータ室を活用することで実施することができた。また、「学校の教育力」を地域へいかすことができた。	「学校の教育力」を地域へいかす取り組みは、学校・公民館双方に一定の成果を得ることができた。今後は、「地域の教育力」を学校へいかす取り組みも深めていきたいと考えているが、地域の人材や支援体制が組織的に確立されていない為、現在のところ、コーディネーターが「個(公民館主事)」対「組織(地域連携部)」となっている。公民館としても組織化を図ることで、学校と公民館が組織的に共通の目標・活動方針をもって学社融合を進めていければと感じる。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向





講座最終日に、受講者の方々にアンケートに記入して頂いた。アンケートでは、「今後こういった講習会があった場合、また参加したいか？」との間に、全ての受講者が「参加したい」を選択した。受講者に「良かった講習内容」を複数回答して頂いたところ、多くの受講者が「文字入力」及び「年賀状作成」を挙げていた。また意見・感想欄には次のような感想があった。

- ・最終日の年賀状、私にも出来るんだと感動しました。
- ・色々教えて頂いて楽しかった。インターネットを見るのが楽しみです。
- ・不得意分野で出来ないと思っていましたが、親切に教えて頂き本当に有り難うございました。続けたいと思います。
- ・情報が出てくるので楽しいですが、家では出来るか心配です。

とあるように大変いい評価を頂けたと思っている。

次年度に向けては、受講者のレベル差が大きいという課題があったので、更に分かり易い講習内容を準備して、継続して行いたい。

学社融合活動実施報告

学校名		明洋中学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>4年前から、芳養公民館と連携を図り、地域の方々をゲストティーチャーに迎え、「ひじきごはん」や「さんま寿司」などの郷土料理づくりを継続して実施しており、地域の方々とのふれあいのある授業づくりを展開している。また、昨年度は茶道教室、今年度は生け花教室を実施し、授業やクラブ活動を通して地域の方々と顔見知りになり、気軽にあいさつを交わしたり、世間話をする子どもが増えてきている。</p> <p>今年度からの新たな取り組みとして、地域(公民館)との繋がりをより一層強化して学社融合を推進するために、明洋中学校と校区内にある3公民館(芳養・西部・中部公民館)の担当者として、『明洋中学校区 学社融合推進会議(略称:明融会)』を組織し、定期的に交流を図りながらさまざまな協議を行っている。また、明洋中学校の職員会議に各公民館長・主事が参加し、館長の地域づくりに対する思いや、各公民館の活動の様子などを全職員に伝えていくという取り組みも始めている。</p>				
活動名		ゆかた着つけ講座	学年・教科・領域等	全学年(女子)・特別活動
目 標	学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー招聘の企画を通して、地域の人々との交流を深める。 ・体験的な学習により、活動の活性化を図る。 		
	公 民 館	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが心豊かに育まれるよう、文化活動や地域住民との交流に取り組む。 ・地域人材の知識や経験、学習成果を生かせる機会の充実を図り、活躍できる場を提供する。 		
支援者及び支援組織				
芳養地域人材バンク登録者および地域の方々				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
◆年度当初		今年度の学社融合についての打合せ		
◆6月10日		ゆかた着つけ講座についての打合せ ※日時・要項・講師等について		
◆6月11日		講師依頼 ※芳養地域人材バンク登録者		
◆7月 5日		中学校を通じて募集プリント配布		
◆7月16日		募集締切 ※締切後、講師との連絡調整		
◆7月23日		ゆかた着つけ講座当日		
ゆかた着つけ講座				
<p>【時 間】 10時00分～12時00分 【場 所】 明洋中学校 会議室 【講 師】 米澤 百子 氏 【協力者】 岩本 悦子 氏・坂口 弘子 氏 【参加者】 12名(生徒および保護者)</p>				
				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・和服を身につけるという体験は、なかなか日常生活の中では機会が少ない。その中で、地域の方々をゲストティーチャーに迎え、本格的な着つけを体験し、習得することができた。 ・公民館と学校が連携を図ることで、地域とのつながりも一層綿密になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆかた着つけ講座も今年度で4年目となるが、参加者は家庭科クラブのメンバーが中心で、なかなか広がりが見られない。今後は、保護者やクラブを引退した3年生などにも積極的に呼び掛けていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺まつりの直前にゆかた着つけ講座を行うことで、子どもたちが地域の行事にゆかたを着て参加する大変良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーに指導していただくという受身的な体験だけではなく、今後は、子どもたちが主体的に活動に取り組めるような工夫が必要である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と顔見知りになることができ、学校以外の場で出会っても、あいさつを交わしたり、気軽に世間話ができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本活動を通して生まれた地域とのつながりを、今後は、積極的に地域行事や公民館活動へも参加するなど、日常的な地域との交流へとつなげていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・芳養地域人材バンク登録者を積極的に活用し、活躍できる場の拡大を図ることができた。 ・自分が身につけた知識や経験を、子どもたちに教えることにより、生涯学習活動の成果を生かすことができた。 ・女子生徒だけではなく、女性の保護者にも参加を呼び掛けたことで、親子でゆかたの着つけを楽しむ姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーとしての参加だけではなく、子どもたちと一緒にゆかたの着つけを学び、楽しんでいただけるような地域の方々の参加者も増やしていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・今年度で4年目を迎えた『ゆかた着つけ講座』であるが、今後は小紋付け下げなど本格的な着物を自分たちで着ることができるよう、継続的な着つけ教室を展開していけたらと思う。
- ・今年度は初めて保護者2名に参加いただき、「参加して、大変よかったです。」との評価をいただいた。この活動は親子の交流にもなり、大変意義深い取り組みであると思うので、今後も積極的に親子での参加を呼び掛けていきたい。
- ・現在は対象が女子生徒だけとなっているので、今後は男子にも和服の良さを伝えることができる活動にしていければと思う。
- ・今後、明融会での定期的な協議の中で、各公民館との学社融合の具体策を作り上げていきたい。
- ・1月末に実施した「第1回 公民館長から学ぶ」を、次年度も継続して取り組んでいく。

学社融合活動実施報告

学校名		高雄中学校	公民館名	中部・稲成・万呂・秋津 ひがし・南部各公民館
学社融合における学校・地域の様子 ◎校内体制として ・全体の地域担当主任を配置し、各校区協議会・各公民館毎に担当者を配置して、公民館主事等の連携を図るための組織を構築している。 ◎今後の課題として ・生徒の地域行事への参加を促すとともに地域での生徒の生活の様子等の把握 ・小学校での生活や学習の様子が見えにくい面がある。 ・学校の実践が保護者や地域に理解されているかを検証する必要がある。				
活動名			学年・教科・領域等 地域との連携を深めるための取り組み 総合的な学習の時間、特別活動（委員会活動）、部活動	
目標	学校	一人ひとりが地域の一員としての意義や自覚を深め、地域社会に貢献する意欲や態度を高める。		
	公民館	学校の取組みを地域に積極的に発信し、活動を広く知ってもらおう。		
支援者及び支援組織 育友会、町内会、公民館、地域団体				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
公民館との連携会議				
活動内容 公民館主事と本校公民館担当者が公民館活動の様子等についての研修会を行った。				
ねらい 公民館活動について理解を深め、学社融合を進めていくための共通理解を図る。				
9月30日 秋津公民館主事を招聘しての連携会議				
10月18日 中部公民館主事を招聘しての連携会議				
10月18日 ひがし公民館主事を招聘しての連携会議				
10月21日 稲成公民館主事を招聘しての連携会議				
10月21日 万呂公民館を訪問しての連携会議				
				
公民館主催の作品展				
活動内容 公民館等において、本校生徒の作品展を行った。				
ねらい 本校生徒の作品展を通して、地域の方々に生徒の作品を見ていただく。				
出品作品 教科(美術・技術家庭) 部活(文化部・技術科学部) 生産学級生徒作品				
11月 4日～ 8日 万呂公民館ロビー展				
11月13日・14日 中部公民館「地域作品展」				
11月13日・14日 ひがし公民館「文化作品展」				
12月 4日・ 5日 稲成ふるさと祭り				
2月 5日・ 6日 秋津文化祭				
				
   				
   				
その他 「花植えボランティア」「あんどんまつり」「弁慶祭り」「環境を考える市民の集い」等に参加した。				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々に学校の様子や活動を知ってもらうことができた。 ・地域をテーマとした学習を行うことで、地域に対する意識付けを深めることができた。 ・生徒たちへ地域の一員としての自覚をもたせるとともに、学校が地域へ果たす役割も明確になってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動を行うことによって、学校内での美化・清掃活動をより積極的に行う。 ・育友会活動と連携し、家庭と地域の連携を考慮して行く必要がある。 ・環境に対するアピールを積極的に行う。
*子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へ貢献することの喜びや達成感を得ることができた。 ・集団で行うことにより、協力や支え合いの意義が高まった。 ・地域の喜びが生徒達の発奮につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性をさらに高める必要がある。 ・ボランティアとして、個人としての参加意欲を一層高めたい。
*子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの地域の皆さんに生徒の学習成果に触れていただくことにより、生徒たちの学習に対する喜び・意欲向上へと繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も活動を継続していくにあたり、生徒の学習意欲向上がより効果的に図られるよう、発表や展示方法等に仕掛けや工夫を考えていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や公民館活動への生徒の参加を通じて、学校と公民館の連携や、学習活動の様子的一端を地域の方々にも知ってもらうことができ、学校と地域との距離感をより一層縮める良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・公民館での連携した取り組みの中に、いかに地域住民を巻き込み、地域がより主体的に学校と関わりあっていけるよう、取り組みを進める必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向


評価

- ・学社融合研修会等への複数担当者の参加。
- ・教育計画等へ位置づけと取り組み状況についての評価と課題等を明確にしている。
- ・可能な取り組み（委員会・部活動・総合など）から始め、積極的に地域に出て活動を推進するようになった。
- ・作品展示を通じて、学校での生徒の様子を地域に紹介することが出来た。

次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の行事や取り組みに積極的に参加させ、地域の一員としての自覚と健全育成を目指す。
- ・民生委員等、地域の協力を得ながら、出来る限り家庭状況の変化について情報を収集し、学校全体で支援体制を構築する。
- ・月に一回は、校区小学校の校長等に来校して頂き、授業公開や、情報収集、個々の生徒の変化の様子について交流する。
- ・外部アンケート評価や学校評議員からの意見を積極的に活用するとともに、日頃から寄せられる個人的な意見や要望についても真摯に受け止めて学校経営に生かしていく。
- ・自校の公民館担当者や公民館主事等の連携会議を開催し学社融合を推進していく。
- ・地域や保護者の声を真摯に受け止めていく姿勢の構築について、職員研修等で自校職員に指導していく。
- ・地域の中の学校であることを全職員で確認すると共に、授業や部活動の面でも地域の人的な資源・施設等の活用について進めていく。
- ・生徒会や委員会が主となり生徒自らが自分の地域の奉仕活動やボランティアに参加できる方策を考える。
- ・生徒自らが地域に貢献できる事柄を考え、工夫する意識を高める手立てを行う。

学社融合活動実施報告

学校名	新庄中学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校地域の様子			
<p>新庄町は、前回の南海地震による津波で甚大な被害を受けた地域で、住民の危機意識が非常に強い。そこで、学校でも、地域の実情に合わせて防災力を高めようと、平成13年度から、地域の協力を得ながら防災学習「新庄地震学」に取り組んできた。この学校の取り組みには地域の温かい協力・支援があり、愛郷会や関係団体からも大きなバックアップを得ている。学校(生徒)は学習の成果を地域に発信するとともに行動力をつけることで、地域ぐるみの防災意識をよりいっそう高めていこうとしている。</p>			
活動名		学年・教科・領域等	
3年選択教科「新庄地震学」		3年選択地震学・総合的な学習の時間	
目標	学校	・各教科の視点から地震と津波にアプローチし、学習の成果を後輩や保護者、地域の方々に伝える。	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・災害について中学生が取り組むことで、より身近な課題としてもらえる。 ・震災の語り部の話を聞くことによって、記憶の風化を防ぐと同時に、津波の怖さを知り、危機意識を持つ。 ・地域の協力を得て、地域ぐるみの防災意識を高める。 	
支援者及び支援組織			
保護者、小学校、幼稚園、保育所、高校、新庄公民館、地域住民、新庄漁協、個人事業所、関係各機関			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>本年度開設の9教科15テーマから新規取り組み * 啓発横断幕作り * かまどベンチ製作 * 歌とダンスで防災教育 * 「震災の語り部」に学ぶ</p>			
《1学期》 5月～7月			
◆テーマごとに調べ学習、まとめ、作品作りを行なう。			
6月 地域の「震災の語り部」から、体験談を聞く。 7月 かまどベンチが完成し、避難所体験の一つとして使用			
《2学期》 9月～11月		◆地域に出かけて発信する。	
9月		防災啓発の横断幕が完成し、3階ベランダから地域に向けて掲示する。	
10月20日		NPO co・to・hanaおよび和歌山大学防災教育センターのワークショップの実施	
11月 3日		災害伝言ダイヤル「171」ダンス・安全避難ソング「おかしもち」の披露 (紀南文化会館、NHK収録)	
11月10日		新庄幼稚園を訪問し、ダンスと歌を園児に教える。	
◆発表会に向けてパワーポイント作成と発表の仕方の練習			
11月28日		新庄地震学発表会 各テーマに沿ってパワーポイントを使って発表する。 ダンスと歌は1年生も参加して舞台発表をする。 新庄漁業協同組合婦人部の方々による、「かまどベンチ」を使っの炊き出し協力を得る。	

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・震災経験者の話を聞いたり、小学校・幼稚園を訪れ、学んだことを伝えることができた。 ・避難所となる本校校庭に、かまどベンチが完成した。 ・防災メッセージや地震学の学習成果を発信することによって、学習内容および危機意識を共有することができた。 ・昨年まで以上に、校内のみならず地域に広く防災意識を発信できたのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度までの取り組みを進めるとともに新しいテーマを開拓していく必要がある。 ・地域との連携に係る諸経費の捻出。 ・生徒によりいっそう、計画的に自主的に動ける力を育てる必要がある。 ・来年度は生徒数が多いので、開設コースの数と教員の配置をどうするかが大きな課題である。 ・選択教科の時間がなくなっていく中で、どのようにして継続するか。
*子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に「地震学の新庄」を発信したり、製作したかまどを使って炊き出しをしてもらうことにより、自分たちの学びに誇りを持つことができたと感じる。 ・小学校・幼稚園を訪問することにより、異年齢の子供との交流、地域とのつながりを深めることができた。あわせて、表現力やリーダーシップを高める機会にもなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりいっそう計画的に自主的に動ける力をつけていく。
*子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・震災経験者の生の声やCo・to・hanaのワークショップにより、地域の思いを学習することができた。 ・地域の一員としての自覚や、地域の方々とともに防災対策を進めようとする意識が高まってきたと思われる。また、自分たちが住んでいる地域のことを普段とは違う視点で見ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに地域の一員としての自覚を強め、地域ぐるみの防災対策を進めていけるようにする。 ・企画立案の段階から共同で作業ができることさらに良いのではないだろうか。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の災害の歴史に触れられる機会となっていると同時に、防災活動の担い手育成の一端となっているのではないだろうか。 ・希薄になっていくであろう記憶や意識が、若い世代に語り継がれることで、新庄地区の宿命的課題の継承になるのではと期待したい。 ・地震学発表会当日に公民館のバックアップのもと、新庄漁協婦人部の支援・協力を得られ、かまどベンチを利用した調理をはじめ「炊き出し」を行い、一般参加者にも好評を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と交流できる指導者(ゲストティーチャー)の確保と共に、コーディネータの育成と活用方法を模索しなくてはならない。 ・地域・学校(職員・生徒)がさらに地域に根ざした交流・活動をしていく必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

〈評価〉

本校では地震に関する知識や理解を深め、防災意識を高めるために3年生の選択教科で「新庄地震学」を行っている。なお、取り組んだ成果を地域にわかりやすく発信することに重点をおいて、近隣の幼稚園・小学校・公民館(地域)の協力を得ながら取り組みを進めてきており、地域に一定の貢献ができています。

特に本年度は生徒が製作したかまどベンチを使って、新庄漁協婦人部の方々により「炊き出し」活動が実施され、昨年にも増して連携を深めることができたと思う。今後もテーマや内容を改善しながら、公民館を窓口にしなが地域と連携・協力し、地域防災の観点を大切にした取り組みを進め広げていければと思っている。

〈次年度に向けての取り組みの方向〉





・公民館などと実施の時期や内容について細かく打ち合わせを行い、緊急時に役立つ学習にしていく。

・今後発生すると予想される大地震に対しての防災意識を高め、地域全体に発信する取り組みにしていく。

・調べ学習や実験・製作、発表会において、さらに、保護者・地域・関係機関と連携した取り組みにしていく。



学社融合活動実施報告

学校名	上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校は田辺市の中心地より約10km離れたところに位置し、芳養川の上流を校区とする山間地の学校である。平成8年に僻地指定基準の見直しにより「特地」指定され、平成9年4月より上芳養の西山区の高台に新校舎を設けて移転、翌年4月には新体育館も完成し充実した施設を整え、周囲は緑に包まれ、梅・みかん等の果樹栽培を主とした農村地帯である。学社融合における地域の様子は、地域唯一の中学校のため、地域の学校教育に対する関心が高く、育友会活動や公民館活動への参加は大変積極的である。</p> <p>また、学校行事には、保護者だけに限らず地域の方や敬老会の方、卒業生が集い、大きな盛り上がりを見せ、地域の方の意識の中に「地域で支える学校」「地域で育てる子供」という学社融合の目指すものが十分育まれている。</p>			
活動名	陶芸教室・敬老会・手作り作品展・地域体育的行事等		学年・教科・領域等 全学年
目標	学校	「開かれた学校づくり」を目標に、学校教育の状況を広く地域、保護者、学校関係者の方に公表・説明し、学校教育の一層の理解と協力を得ること。また、教職員や生徒の公民館行事への積極的な参加を推進するとともに生徒会を中心に地区清掃活動等のボランティア活動を充実させることによって、学校と地域の交流を深め、学校、家庭、地域住民等の連携、協力の意識を醸成させる。	
	公民館	学校・家庭・地域各種団体と協力し、様々な行事に積極的に取り組み、住民同士の親睦・交流を推進する。	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>・上芳養公民館 ・JA上芳養支所 ・上芳養校区協議会</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上芳養校区協議会(5月27日) ・第1回学校評議員会(6月15日) ・外部講師を招いてのマナー学習(7月6日) ・地区懇談会(7月23日) ・生徒会地区清掃活動(7月30日) ・2年生職場体験活動(8月2日～8月6日) ・学校、公民館合同会議(8月25日) ・生徒会、1年生が敬老会へ参加(9月12日) ・1年生福祉体験学習「第二のぞみ園」(9月15日) ・陶芸教室打ち合わせ(10月20日) ・1年生陶芸教室(10月21日) ・小中地域連携担当者、公民館、地域コーディネーター合同会議(11月4日) ・第2回学校評議員会(11月8日) ・公民館卓球大会への参加(11月18日) ・「生涯学習フェスティバル」(11月20日、21日) ・公民館ファミリーバドミントン大会への参加(1月14日) ・公民館ソフトバレー大会への参加(3月予定) 			
			<敬老会>
			<陶芸教室>
			<ファミリーバドミントン大会>

	成 果	課 題
学 校	夏季休業中に公民館主事の職員会議への参加を依頼し、年間計画や取り組みの状況の説明を受けた。その後、公民館と連携し、1年生で陶芸教室を実施した。また、様々な地域の行事に職員が生徒と一緒に参加し、学校、家庭、地域の連携と協力を促進させることができた。	公民館との、これまでの連携を踏襲しつつ新たな連携を模索し、社会体験を充実させ、地域の産業や文化に直接触れるような体験学習を積極的に取り入れ、地域に根付いた年間計画を立てる必要がある。
* 子どもにとって	生徒会や1年生の敬老会への参加も定着し、地域の各行事に積極的に参加する生徒も増えてきた。特に陶芸教室は、初めての体験であり、目を輝かせて意欲的に取り組み、完成した作品を文化発表会や公民館の「手作り作品展」に出品でき、成就感や達成感を味わうことができた。	地域の行事に参加するだけに留まらず、自分たちの安全・安心な生活は地域の人たちによって守られているということを実感し、地域の人への感謝の気持ちを育成させるとともに、地域の人への積極的な挨拶の奨励や交通ルールやマナーを向上させる必要がある。
* 子どもにとって	各種地域行事への参加を通じ、他人とのコミュニケーションを円滑に図ることや、生まれ育った郷土への愛着心を学び育めた。	行事の場だけでなく、日常的に地域でコミュニケーションが図られるよう働きかけていく。
地 域 (公民館)	地域の知識や技能を、子どもに伝える場を設けたことにより、地域の子どもは地域で育てるという意識の向上につながった。 児童が加わった事業を展開することで、地域内の世代間交流が活性化された。	学校との連携をさらに密にし、参加者目線に立った事業の取り組みを心がける。 地域の方の理解と協力をさらに得られるよう、行事の予定や報告等、情報の発信を徹底する。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

福祉体験学習、職場体験学習等地域の施設や事業所の協力を得て充実した活動を実施することができた。特に職場体験学習は、例年10km以上離れた市街地に出での実施であったが、本年度は上芳養地域の事業所が積極的な受け入れを頂き、上芳養地域の産業に接することができた。次年度もできるだけ上芳養地域での実施を計画したい。

体育大会、文化発表会、マラソン大会等の行事の際には地域全戸に配布される「公民館報」に案内の掲載を依頼し、参加を呼びかけた。また、雨天等での延期については地域のJA上芳養支所の地区放送を利用して頂いた。次年度も公民館、JA上芳養支所様の協力を仰ぎ地域行事として定着させたい。

学校の教育活動を広く地域に公表し説明責任を適切に果たすため、公民館の地域配布資料に「学校便り」を加えて頂き、毎月の行事の案内や成果を積極的に公表することで学校教育に理解と協力を得るよう努力した。次年度においても公民館の協力を得て、継続したい。 <学校>

参加者が行事に飽きないよう、参加者の目線にたった行事の見直しや点検を心がけ、毎回新しい発見ができるような工夫を施す。また、地域の方に更に関心を持っていただき、協力してもらえよう、行事の予定や報告などの、情報の発信にも力を入れて取り組む。 <公民館>

学社融合活動実施報告

学校名	中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>中芳養中学校は、平成18年から20年に田辺市教育委員会の研究指定を受け、「学校・家庭・地域が一体となって取り組む豊かな心の育成」をテーマに研究実践に取り組んだ。その研究活動の中で、地域の教育力を学校教育に生かす多くの実践が行われた。研究指定が終わってからも、地域と連携した多くの活動が継続して行われている。特に、地域に開いた学校文化祭である「中芳養祭」や「体育祭」には、保護者だけでなく地域の老若男女が多数集う行事となっている。</p>			
活動名	中芳養Human-Chain ～先達に学ぶ～	学年・教科・領域等	第2学年 総合的な学習の時間
目標	学校	・校区在住の先達から貴重な体験談や匠の技・文化・伝統等について聞き、生き方学習や進路指導の指標とする。	
	公民館	・地域各種団体と積極的な連携をとり、新旧住民、世代間ならびに地域間交流を促進する。 ・次代を担う子ども達は地域で育てるという意識を高め、郷土の伝統・文化・歴史に親しみを持たせることにより、郷土への愛着心を育む。	
支援者及び支援組織			
芳寿会(中芳養老人会) 中芳養公民館			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
6月～7月 <学>第2学年学年会で計画立案(職員会議に提案)			
7月 <学・社>芳寿会に下記のような趣旨を連絡し協力を求める。			
<p>人に歴史あり、人生にドラマあり。人生の年輪を重ねてこられた方には、貴重な体験や心に秘めた思いがあるものです。そこで、本校では『先達に学ぶ』をテーマに、校区に在住されている皆さんから、かけがえのない様々なお話を聞かせていただくことで、心を耕し、心を練り、豊かな心を育てていく大切な教材とさせていただきます。</p>			
7月 <学・社> 公民館と日程調整			
7月 <社>芳寿会の会員に会長より趣旨を説明し参加を要請			
8月 <学>事前学習 班の編制。質問事項を考え整理する。マナー学習。聞き取りの分担を決める			
8月 <学・社>芳寿会に、聞きたい内容や質問事項等を伝える。			
<p>【お話の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 仕事や生活の中で身に付けた人生訓 * 苦難を越えてきた体験談 * 自分に大きな影響を与えた出来事 * 大切にしているものにまつわる話 (写真・手紙・道具・その他) * 子育ての中で感じてきたこと * 今も心に残る心温まる話 * 地域に伝えたい風習や、残していきたい文化・伝統 			
8月23日 <学・社>中芳養公民館で2年生全生徒が芳寿会会員のお話を聞き、質疑応答をする 2年生37名を6班に分け、芳寿会会員が各班2名程度入って聞き取り活動を行う。			
9月～11月 <学>事後学習 感想文を書く。担任は感想文を学級通信等で紹介する。 中芳養祭(文化祭)に向けて学習の経過や感想等をまとめる。			
11月21日 <学・社>地域の住民が多数参加した中芳養祭(文化祭)で、学習の経過や感想を発表する。			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内や教師との関わりの中では体験できない話や触れ合いを体験させることが出来た。 ・人間の生き様に触れ、生徒自身の生き方を考えさせる機会をつくることが出来た。 ・教職員も地域の先輩とつながりを持つことが出来た。 ・戦時中の体験が多く語られ、生きた平和教育の教材になった 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方を考える進路学習につなげていきたい。 ・学年会中心の計画実践になったが、計画段階で学社融合担当者や公民館主事を含めて話し合いを持つのもよい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の先輩の話をじっくりと聞くことが出来た。 ・聞き取り活動のプロセスを体験し、目的に沿った調査研究の手法を身に付けた。 ・目上の人と接するマナーや心がけを体験する機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の学校行事等でも、芳寿会や地域の方との交流を充実させたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の先輩が身近な存在になった。 ・地域の先輩と触れ合い歴史や文化を知って、地域の一員としての自覚が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会などの地域の行事にも積極的に参加して芳寿会との交流を深めたい。 ・日常的に高齢者や地域の方と気軽に話ができるようにしたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者が中学生と直接ふれあう機会が出来た。 ・中学生との交流に喜びを持って取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との関わりを深め、より幅広い生徒と住民の交流の場としていきたい。 ・地域行事に対して、幅広い年代の方が関心を持っていただけるよう、公民館報等の情報の発信に力を入れる。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・生徒は芳寿会のメンバーの話を真剣に聞き、きちんと受けとめていた。特に、今では想像も出来ないような戦時中の生活や苦労については感銘を受けたようである。話を聞くことで、自分自身の今後の生き方を考えることも出来た。また経済やエネルギー利用の発達の有り難さと共に、平和の大切さも考える機会になった。
- ・芳寿会のメンバーも、中学生に語ることに前向きに取り組み、自分の体験が子どもたちに吸収されることに喜びを持ってくれた。他の地域の老人会活動の経験もあるが、こんな経験は初めてで嬉しいという感想も出ていた。
- ・学校の学社融合担当者や公民館のコーディネーター機能を活用しさらにスムーズな活動を行いたい。
- ・芳寿会等の高齢者との交流だけではなく、地域の子どもと大人が交流する取り組みを幅広く実施できるとよい。

学社融合活動実施報告

学校名		上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>農業を、地域の基礎となる産業の一つ、生活を支える身近な職業の一つとしてとらえ理解すると共に、農作業を実際に体験することで働くことの厳しさや喜びを知り、地産地消のシステムを学ぶ機会とする。</p> <p>この学習で得られたことを家族の結びつきや、2年生で行う職場体験学習などの進路学習や他の学習につなげていく。</p>				
活動名		農事体験学習	学年・教科・領域等	1年生（総合的な学習の時間）
目標	学校	○地域を支える職業である農業について知る。 ○地産地消のシステムを実体験を通して学ぶ。 ○勤労の厳しさ、喜びを知り、働くことについて考え、2年生で行う職場体験学習につなげていく。		
	公民館	○地域の農業について、単なる知識だけでなく、実体験を通してより深く理解してもらおうとともに、農家の方々の考え、生き方に触れてもらう。 ○地域全体に、子どもたちの教育や健全育成に積極的に関わっていきこうという気風を広げていく。		
支援者及び支援組織 農事体験学習運営委員会（上秋津公民館・JA生産販売委員・「きてら」代表・PTA会長）				
取り組みの経過（日時・ねらい・活動内容等） 4月22日 企画委員会（農事体験学習に向けての取組、年間計画作成） 10月1日 受け入れ先依頼文配布 10月8日 受け入れ先依頼文回収 10月22日 農事体験学習運営委員会（農村センターにて） ゲストティーチャー・受け入れ先農家の補充 11月1日 受け入れ先に依頼文・参加生徒名簿配布 11月8日 事前学習① 農作業について 野村勉 氏 ねらい：農事体験学習に対する意識の向上と農業への予備知識 内容：上秋津の農業についての説明 事前学習② 農事体験を行う事の意義・諸注意 グループリーダー会 ねらい：リーダー決め・意識の向上・注意事項の共通理解 内容：班ごとに集合・作業場所・準備物・諸注意の確認 11月9日 農事体験学習 ねらい：体験を通して地域の産業を知る、勤労体験 内容：地域での農事体験（みかんの袋がけ・収穫、芋掘り、剪定枝の片付け） 11月19日 感想文・お礼状配布 ねらい：周りの人々の支えを確認し、感謝の気持ちを育てる 内容：お世話になった農家へのお礼状の作成 2月 加工品の学習① ねらい：地域での収穫物がどのように加工・販売されているか学ぶ 内容：地域の加工所での見学 加工品の学習② ねらい：地域での収穫物がどのように加工されているか実際に体験する 内容：学校での地域の収穫物を利用しジャム、クッキー作り 3月 総括・反省				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ○地域・公民館・中学校の連携が深まった。 ○農作業未体験の生徒が増える中、実際に現場で農作業が体験できた。 ○地域を知り、郷土愛を育む一つの機会になった。 ○地域の主たる産業についての理解・親しみが深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業所への行き帰りや農作業中の安全面の確保。 ○農家の保護者が減少している中、保護者の受け入れ先の割合が減ってきている。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ○ミカン取りは、見た目は簡単そうだけれども、やってみると大変なんだなあと思いました。でも、その大変なミカン取りも、仲間と協力してがんばれば、長時間かかったミカン取りも短時間で終わると思います。やっぱり仲間との協力は大事ななあと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前後の学習で、農事体験学習に対する意識をしっかりと持たせられるようにしたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ○今日は農事体験学習がありました。昨日事前学習でゲストティーチャーの話聞いていたので、いもをほるのに役立ちました。親芋から子芋をはなして土をおとしました。子芋と親芋も食べられるそうです。今日は勉強になってよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後もこのような体験学習のほか、地域の行事等にも積極的に参加し、人々との触れ合いを通じて、社会性を高めていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の農家の方々子どもたちとの交流の場となった。 ○子どもたちに地域の農業や農家の方々の生き方に目を向けてもらう良い機会となった。 ○地域住民にゲストティーチャーや指導係を体験してもらうなど、「人づくり」につながった。また、今の子どもたちの様子について関心を持ってもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者以外の農家の方々にもこの事業に関わっていただくよう、より広報活動を充実させていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

委員会を作って数年がたち、農事体験の受け入れ先や、ゲストティーチャーの依頼についてもスムーズに行えるようになってきている。また、こまめに学校と公民館と話す機会を持ち、昨年度の反省をふまえ、今年度の学習の進め方について、方向性を決める委員会を4月に立ち上げ、計画的に農事体験を行うことができた。今年度はさらに進んだ農事体験にするため、3学期に収穫物が販売されるまで、どのような工程で店頭と並ぶかを加工所を見学し学習する。また、学校にゲストティーチャーを招き地域の収穫物の加工方法などを学ぶことを計画している。

依然として、受け入れ先の農家の減少という最大の課題に関しては解決せず、今後も委員会で最大限サポートしていくという話し合いになった。子ども達にとって、地域の現場を体験する貴重な場となっているため、有意義な活動になるようにしていきたい。今までの流れを継承しながら地域の方々の協力・理解を第一として学習を今後も進めていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名		秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接して廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間でも教職員間でも交流が行われ、小中学校として一体感のある教育現場となっている。ほとんどの生徒は、保育所から小、中学校と一緒に生活しているため、家族のように親密な人間関係が形成され、保護者も長い年月と一緒に活動しているため、子ども達を見守り育てていこうとする連帯意識が強い。地域は、少子高齢化が課題であるが、学校に通う児童生徒のいない方々も「秋津川の子どもは、秋津川の大人が守る」の合言葉のもと、しっかりと子ども達を見守ってくださっている。</p> <p>学社融合の取り組みによって、子ども達が地域の方々と触れ合うことで、視野を自分のみから地域へと広げて考えられるようになるとともに、備長炭等の優れた地域の文化を学ぶことで、地域に誇りをもつようになっている。また、地域の方々も学校行事や子ども達との活動を仲介として、地域内の交流が活発に行われることで、コミュニティーとしてのまとまりが保持され、各種お祭り行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。</p>				
活動名		秋津川ふるさとまつり		学年・教科・領域等 全学年 (国語・社会・数学・理科・英語・音楽・総合)
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとのふれあいを深め、地域を知るとともに地域の良さを発見し、地域を愛し、たいせつにする心を育てる。 ・炭琴合奏を全員で行うことで、生徒各々が責任を自覚し、人前で発表する力量を高める。 ・授業を公開することで、秋津川中学校の教育の一端を地域の方々に知ってもらおう。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と人、子どもたちを繋ぐ場を設け、郷土を愛する心を培い、連帯感を高める。 ・地域と学校が連携・協力して行事を創り、秋津川地域の活性化に資する。 ・地域住民に子どもたちの活動に目を向けてもらい、より健全育成に関心を持っていただく。 		
支援者及び支援組織				
秋津川小中学校育友会、秋津川公民館、秋津川町内会、秋津川振興会、JA紀南上秋津支所秋津川店 JA女性会、秋津川婦人会				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>○ 5月19日(水) 平成22年度第1回公民館協力委員会 平成22年度秋津川公民館事業計画の提案・承認、役員の選出 ふるさとまつり 11月21日(日)開催 決定 責任担当者として 西平廣雄氏、梅木義徳氏 選出</p> <p>○ 8月31日(火) 平成22年度第3回公民館協力委員会 ふるさとまつり 開催日時の確認(11月21日(日)) 農林産物品評会へ出展の呼びかけ・お願い</p> <p>○10月29日(金) 平成22年度第4回公民館協力委員会 ふるさとまつり 運営について協議 準備・片付けの分担や、当日の役割、当日のイベント日程等を決定</p> <p>○11月19日(金) 生徒の作品等の飾りつけ、炭琴演奏等の準備 ○11月20日(土) 地域の方々による会場設営並びに農林産物品評会等 ○11月21日(日) ふるさとまつり当日 1、2限は公開授業(地域の方々に自由に授業を参観してもらう) 3、4限はふるさとまつりに参加。炭琴演奏を披露 演奏曲目「また君に恋してる」「宇宙戦艦ヤマト」 5限も公開授業(特に保護者を対象とした授業参観) 6限は学年懇談会 ※昼食は、婦人会の方々が作ってくださった「おにぎり」と「五目寿司」をいただきました。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの方々が来校し、秋津川小・中学校を身近に感じ、児童生徒の様子を知ってもらうよい機会となった。さらに、炭琴演奏を披露することで、秋津川中学校の地域に根ざした教育活動の一端を知ってもらうよい機会であった。 ・授業参観をしてくださった方は少なかったが、本校が実施している少人数を活かした丁寧な授業の良さを認識していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく多くの来校者がいたにもかかわらず、そのほとんどは催し物会場の運動場や体育館へ行ってしまい、授業を参観して下さる方が少なかった。もう少し、当日の広報に力を入れる必要があるようだ。 ・11月には本校の文化祭も開催される。この文化祭での発表を、一部でもよいからふるさとまつりでも実施できないものかと思う。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学校生活は少人数で過ごしているため、大勢の人を前に発表するという、貴重な体験を積む機会であった。 ・地域の催しへ参加することで、地域の一員としての連帯感や自覚を促すきっかけとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ないということもあって、地域からは大切にされ過ぎるところがあり、自立心の芽生えが遅れがちになりやすい。それぞれに役割分担をし、責任感を高めるようにしたい。 ・地域に対して、自分たちは何ができ、何をすべきかを考える主体的な態度を育てたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・文化作品展や炭琴演奏など、日頃の自分たちの取り組みの成果を多くの来場者に披露することができた。またこの行事の一翼を担っているという実感が得られた。 ・地域住民が協力して開催しているこの行事を見て、故郷の良さを再確認する場となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もこのような地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方々と交流し、社会性を高めていただきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・26回目となるこの行事も、学校や地域の各種団体の協力で盛況に開催することができ、地域内外の方々に秋津川の良さを知っていただけたと思われる。 ・多くの来場者が集い、語り、また、学校・子どもたちの取り組みに触れていただく良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢、過疎化の進む地域にとっては、このような人々が集い、交流の場となる行事が益々重要になってくると思われる。今後も継続して開催していけるような運営体制作りや、より多くの方々が参加できるよう、学校ほか各種団体とも連携しながら日程、内容等を考えていきたい。 ・行事の企画段階から子どもたちの声を取り入れたり、運営会議に参加していただけないものか検討してみたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・ふるさとまつりへは多くの来訪者があったにもかかわらず、授業参観をして下さる方が少なかったのは残念だった。授業参観をしてくださった方からは「少人数の授業がとても良かったです。」「先生とのやり取りが活発でした。」等、少人数故、一人ひとりに目の行き届いた授業の良さをほめていただいた。

・7月から練習をつんできた炭琴の合奏は、「また君に恋してる」「宇宙戦艦ヤマト」ともたいへんよいできばえで、地域の方々や炭琴サークルの方々からおほめの言葉をいただいた。そのことは、生徒達にとって自分を肯定的に見る材料となり、自信につながったものと思われる。また、合奏は、一人ひとりが責任をもってよい演奏をしなければ全体としてまとまらないものであるため、各自の責任感を高める役割も果たしていると思われる。

・大勢の人前で発表できる数少ない機会であり、普段、少人数の仲間内だけでしか生活していない生徒達にとっては、たいへん貴重な体験の場となった。今後も小規模校の本校においては、大勢の場で発表する機会は大切にする必要がある。

・このまつりを企画・運営する大人の組織はしっかりと機能しているように思われるので、子ども達の生徒会組織も一緒に活動できる機会がもてないものかと思う。ただし、新学習指導要領では学校のカリキュラムも詰まってくるので、活動時間をどうするかなどのバランスは十分に考える必要があるだろう。

・生徒達は、今は、地域の方々から与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒達から主体的にこのまつりを盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒達に秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながるように思う。

学社融合活動実施報告

学校名		衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校では、学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴えることにより、課題を共有化し、学校と地域が共に子育てに関わっていきこうとする地盤が確立されている。さらに取組を深化させるために、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている。地域の人たちとのふれあいや体験活動を通して、生徒には好ましい人間関係のあり方を学び、人をおもいやる豊かな人間性が身に付きつつある。</p>				
活動名		①公民館での作品展示 ②地域人材の活用	学年・教科・領域等	総合的な学習の時間・美術科・数学科
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や地域の人々とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふる里に貢献する態度を育成する。 ・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、豊かな心を育て、生き方を学ばせる。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に子ども達の学びがどうひろがっていくのかを館報で地域に知らせる。 ・学社融合を推進するための基盤となる人的資源を育成する。 		
支援者及び支援組織				
三栖公民館・万呂公民館・JA三栖・三栖町内会				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>1. 中学校生徒作品展示会(美術科)</p> <p>(1) 日時:7月27日(火)～8月1日(日) 午前9時～午後5時 8月3日(火)～9日(月)</p> <p>(2) 場所:万呂コミュニティセンター 1階ロビー 三栖コミュニティセンター</p> <p>(3) 内容: 作品の展示 *「梅・地域の良さアピールポスター」*「田辺のスペシャル工芸品」～梅枝、梅種炭を使って～</p> <p>(4) 取組のねらい 梅をはじめとする郷土の特産品をテーマにした作品づくりを通して、生徒のふる里への思いを深めながら取り組んだ作品の良さを地域の人にも味わってもらおう。</p> <p>2. 公民館からの積極的な外部講師の紹介を通じた取り組み</p> <p>(1) 公民館行事の紹介プロジェクト 日時9月1日(水) 公民館主事による学校職員に対する取組のプレゼンテーション・交流会</p> <p>(2) クラフトテープを使ってのかばんや籠などの身近な作品づくり 対象:保健室登校生徒に対する取組 講師:地域住民</p> <p>(3) クラシックバレエ公演</p> <p>1) 日時:11月10日(水) 午後1時30分～午後2時</p> <p>2) 場所:衣笠中学校体育館舞台等</p> <p>3) 内容:身近な地域に住むプロによるクラシックバレエミニコンサート及び生徒も参加しての公演会</p> <p>(4) 放課後補充学習のサポーターの紹介 期間:2学期より週1回の数学の補充学習の為の学習指導</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を通して、地域との関わりを体感することによって、文化発表会等の地域・住民の参加者が増え、自分たちがこの地域で生きているということを実感できた。 ・教職員が地域や社会に対する認識が深まり、今後さらに地域との連携・つながりを深めていこうという意識が高くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を一層深めることにより、生徒の規範意識を高める取組にさらに関わってもらえるような工夫をしていきたい。 ・今後とも積極的に外部講師とのつながりを深め、より一層子どもや・学校のことに関心をもってくれる人を増やし、また、学校としても地域に対して様々な角度で関わる機会を増やしていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの大人との関わりを持つことによって、子ども達の成長に大きなプラスとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師主導ではなく、今後生徒が主体的となって企画・運営できるような取組をふやしていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・外部から見られるということは、学校の生徒ではなく、社会の構成員の一人として見られることでもある。子ども達は、少しずつであっても、外の視線を感じる経験を重ねることが成長につながるはずである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が課題としている生徒が主体的となるような取り組みについて、協力したいと考える。そのためには、子ども達の要求など、学校の持つ情報を共有したい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は、地域と学校の双方から積極的な動きがあり、公民館もそれに合わせて、うまくコーディネートすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達への支援を地域でより知ってもらえるようにし、地域の方が学校に何か手助けすることを見慣れた風景にしていくことを目標にし、多くの理解と協力を得られるようにすること。また、地域の担当者会議の設置などの体制作りが必要と考える。幼・小・中との定期的な話し合いを持ち、わかりやすい目標設定をしていくことが大切であると考えます。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【評価】



本校では、「生まれ育った地域について学び、地域への愛着の気持ちや、地域に貢献したいという気持ちを育てる」という目標を掲げ、様々な取組を進めている。昨年度まで、「公民館とのさらなる交流を深め、真の学社融合をすすめる」という課題を解決すべく、今年度は一歩進んだ取組がなされたように思われる。

【次年度に向けての取組の方向】

○学社融合活動の必要性を全職員が感じ、今後も公民館との協議・検討する時間を増やし、取り組みを継続していきたい。

○今後は、保護者・地域住民にも積極的に学社融合活動への関わりを強めてもらい、子ども達の礼儀・作法・マナー等の規範意識向上につなげていける場にしていきたい。

○子ども達にとって有効な活動に発展させるよう公民館と連携を深め企画・運営にあたりたい。

学校名	長野中学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>・地域の方々や保護者の皆さんは学校に対してとても深い愛情を持ち、「地域の学校」という思いが強い。故に、学校に対しては何かにつけても協力的である。本校は様々な体験活動を取り入れているが、地域との交流やふるさと学習に関する内容が多い。そしてその都度公民館と協力しながら行い、地域の人々の参加協力がとても多く、また、地域の人たちは長野中学校の活動を楽しみにしてくれている。</p> <p>・その様な地域の雰囲気の中で生徒たちはのびのびと活動し、地域の一員として挨拶はきちんとでき、地域のためにボランティア活動等の行事も積極的に行っている。</p>			
活動名	茶摘み体験	学年・教科・領域等	総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中国から伝わったお茶が飲み物としてどのように作られ、人々が大切にしてきたかを知る。 ・お茶を大切に栽培してきた歴史を知るとともに我々の祖先の苦勞を忍び、体験する機会にする。 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の学びがどう広がっているか、また、学校への支援について、地域に広報し知ってもらおう。 ・長年、体験授業を続ける地域の方の活動を支援する。 	
支援者及び支援組織			
長野公民館長、長野公民館主事、地域の方(竹内誠一様、竹内園子様)			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>5月11日 お茶摘み体験学習 5月10日 田植え体験学習(実施できず) 10月13日 稲刈り体験学習 10月26日 わら草履作り</p> <p>5月11日の茶摘み体験学習の実施要領</p> <p>1 当日の日程</p> <p>14:10 茶摘みの要領の説明(竹内 誠一様) 14:20 茶摘み実習 15:45 終了・方付け・挨拶(生徒代表) 16:30 学校着</p> <p>2 ねらい</p> <p>地域の方々との交流を深める 中国から伝わり、日本古来からの伝統的な産業だったお茶について認識を深める。 地域の産業を体験することにより、地域に対する愛情を深める</p>			
			

	成 果	課 題
学 校	<p>普段何気なく飲んでいるお茶を自分たちで手作りし、それを実際にいただいて飲むことができるということは、まさしく「豊かな体験」である。地域に昔からお茶の木があり、人々は自分の家のお茶は自分の家で作っていた歴史を知り、あらためて地域に対する愛着を深めていく。また、地域のおじいさんおばあさん夫婦に手取り、足取り教えていただけることは仲むつまじい夫婦の姿に触れられるし、自分の体を使ってモノを作り上げる喜びにもつながる。</p>	<p>近年は田舎でもお茶の木が減り、店頭販売されているお茶を買っての無事が主流になってきていて、昔ながらの自家製のお茶作りは貴重になっている。また、授業時数の確保等により貴重な体験であるが、移動時間があったくないなどの課題がある。他の行事等との関係も深め、是非とも存続する方向で検討していきたい。</p>
* 子どもにとって	<p>生徒の感想 「今回で3回目のお茶摘みでした。1年生の時に比べ摘む量も増えたとし、どこを摘めばよいかも分かってきました。茶摘みをして本当に良い経験をさせてもらっていると思います。あたりまえに飲んでいるお茶のありがたさが分かりました。」</p>	<p>本当は茶畑の管理から始め、すべての行程を行いたいところであるが、時間や、安全その他の要因で一部の体験のみに終わるのが残念。これはどの体験学習にもいえることであるが・・・</p>
* 子どもにとって	<p>長年続く授業で、支援者は日頃、積極的に学校行事にも参加されているため、子ども達はリラックスした様子で支援者との距離もうまく取れており、野外での実習を楽しんでいた。</p>	<p>「お茶」といえば、ペットボトルで買うものと思う世代である。お茶摘み体験を発展させて、「食育」「食の安心・安全」など、手作り食品は社会の関心事であることに気がついてほしいと考える。</p>
地 域 (公民館)	<p>支援者は、子ども達にたいしても、普通に接していた。学校の生徒ではなく、地域の住民の一人として、扱い、自然に交流ができるのだろう。子ども達もまた、学校の中の生徒という位置づけ以外の自分の存在に気がつく場の一つになればよいと考える。</p>	<p>この体験は、当時、中学校に勤務していた支援者の身内の依頼から始まったそうである。赴任地で教員が地元の支援者を見つけるのはなかなか難しい。この例のように、学社融合の目標を良く知る地域在住の教師であれば、学校と地域を繋ぐ素晴らしいコーディネーターになりえるのではないだろうか。公民館とともにこのようなネットワークづくりを検討できないかと考える。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の方々と協力(お世話になって)して地域の方々とふれあいながら何かを行うということは、中学生に、地域への帰属感をいだかせるうえで大変有意義な取り組みであるとともに地域の文化を継承し、心豊かな人間の育成にも大変有意義である。また、地域の方々にとっても、まず、学校がどのような活動をしているかということに目がいくようになるし、普段から学校に対する見る目が変わってくる。また、若い中学生と触れあう機会はみな、一応に喜んでくれる。
- ・本校が行っている体験学習は大変バラエティーに富んでいて生徒たちの「豊かな心」を育む上で非常に有効であるし、新学習指導要領にも「生きる力」を育む「豊かな体験」が唄われているところである。よって授業時数確保と「豊かな体験」の確保との狭間でジレンマを抱えることとなるが、幸い、年間授業時数が増えることが体験活動の確保に少し希望が見いだせるように思う。今後も有意義な「体験活動」を学社融合の柱に据え、効果的な実施に向け方法等を公民館との協力の下進めていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名		龍神中学校	公民館名	龍神公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の清掃活動やリサイクル活動により、地域と学校との関係を密にするとともに、環境美化・保全に対する意識を高める。 ・清掃活動などの共同作業をすることにより地域の方との交流を深め、地域を知り、地域を愛する心情を養う。 ・学校と地域住民との関係を大切にするため、生徒112名と教職員が、校報「夢抱き」を毎月千七百世帯に手渡し配布し、交流を深める。 				
活動名		清掃美化・リサイクル活動	学年・教科・領域等 全学年、総合、学校行事	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に入り、地域の方々とともに活動することで本校が地域の学校としてよりに意識してもらえようとし、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。 ・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域を愛する心情を養う。 ・清掃活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子どもたちが心豊かに育まれるよう、清掃活動やリサイクル活動などを通して地域住民との交流に取り組む。 		
支援者及び支援組織				
龍神地域各区、龍神公民館、龍神中学校PTA				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>5/17 リサイクル活動の原案作成(18名)</p> <p>6/11 第1回リサイクル活動打ち合わせ(内容確認、役割分担)(112名)</p> <p>6/13 第1回リサイクル活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施) (175名)</p> <p>6/14 第1回リサイクル活動反省会(次回に向けての課題確認) (112名)</p> <p>7/18 地域清掃ボランティア活動の全体計画(日程・内容など)についての打ち合わせ(112名)</p> <p>7/22 地区別清掃作業計画(中学生) (112名)</p> <p>8/22 地域清掃ボランティア活動 (112名)</p> <p>11/29 第2回リサイクル活動打ち合わせ(内容確認、役割分担) (112名)</p> <p>11/31 第2回リサイクル活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施) (165名)</p> <p>12/1 第2回リサイクル活動反省会(課題確認) (112名)</p> <p>12/22 虎ヶ峰清掃作業打ち合わせ(101名)</p> <p>12/24 虎ヶ峰清掃作業 (101名)</p> <p>2/25 第3回リサイクル活動打ち合わせ(内容確認、役割分担) (112名)</p> <p>2/27 第3回リサイクル活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施) (170名)</p> <p>4月～3月 校報「夢抱き」の手渡し配布活動(112名)</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。 ・地域の中で活動する中学生の姿を見てもらうことで、地域の学校としての意識をより高めることができた。 ・教職員の地域理解がより深まった。 ・日常では観られなかった生徒の別の一面を垣間見ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの持つ力を十分に生かした活動となるように事前の計画を十分に行うこと。 ・中学生に自主活動としての意識を高めて行くためのオリエンテーション、諸計画などの事前活動のための時間確保。 ・天気状況の判断がつきにくい時の連絡放送が地域の一部の方に行き届かない時があった。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・大勢の方の協力により活動ができたことで、より大きな達成感を味わい、環境美化・保全への意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動やリサイクル活動が中学生の自主活動となるようにすること。 ・計画段階から参加の機会を持ち、中学生の考えが活動に自然に反映されていくようにすること。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との協働や交流を通して、地域に生きる自分に気づくとともに、そこに住む人の思いや生活を感じることができた。 ・地域の方と声を交わすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の場だけでなく日常生活の中でも地域に中学生の姿が見え、地域の一員としての活動が自然にできるようにしていくこと。 ・元気なあいさつと感謝の気持ちを積極的に表すこと。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と中学生が一体となった活動を行うことで、環境美化・保全の意識を高めることができた。 ・学校が地域を知り、地域が学校の活動を知ることで、地域の教育力を高め、学校教育に生かしていく一つの良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生や青年層など、さらに活動を多世代に広げ、地域住民の意識を高めていくこと。 ・それぞれの組織が自主活動としての意識を高めていくための組織作りを行うこと。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

評価

- ・前年に引き続き地域の方や保護者共に、リサイクル活動には大変協力的で、たくさんの古紙、古着などを集めることができた。
- ・清掃活動(日高川)では、地域の方々からいろいろ教えていただきながら作業をするなど、異世代の方との交流を深めることができた。
- ・虎ヶ峰清掃作業の活動を通して学校が地域にとってより身近なものになった。
- ・校報「夢抱き」の手渡し配布で、学校を身近に感じてもらうことができた。

取り組みの方向

- ・学校と公民館が中心となって各関係団体による組織作りを行う。
- ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくための広報活動の工夫をしていく。
- ・年3回のリサイクル活動を継続していくことで、普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。
- ・中学生が主体的に活動を進めていけるように、環境教育を充実させ意識を高めるとともに、中学生の考えを活動の中に生かしていく。
- ・校報配布の際に、積極的に地域の方とあいさつや自然な会話ができるようにしていく。

学社融合活動実施報告

学校名	中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館 栗栖川上分館・栗栖川下分館・二川分館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>中辺路中学校では、数年来、地域の女性会や老人会、乳幼児サークルなど地域との交流の機会を多く持ち、その幅が広がってきている。また、総合的な学習の時間の「地域調べ」や2年生の「職場体験学習」では、公民館と連携し、地域とのかかわりが深まってきている。生徒についても地域に出での活動が多くなり、地域と積極的にかかわろうとする態度が育ってきている。</p> <p>本年度より生徒会が中心となり、生徒が分担して種子より育てた花苗を地域に配布する「中辺路花いっぱい運動」も、地域の方々より好評を得て、地域に貢献する活動も進んできている。</p>			
活動名	地域で作る文化発表会	学年・教科・領域等	総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の学習内容を発表をし、地域の方々にも自分たちの学習の成果を見てもらう。 ・地域で活動しているサークルの合唱披露を聞き、芸術に触れるとともに、サークル活動による生涯学習の意欲を喚起しつつ、地域とのかかわりを深める。 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動しているサークルを生徒に観てもらうことにより、公民館活動の活性に繋がっていく。 	
支援者及び支援組織			
公民館・地域で活動している各サークル			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>■中辺路中学校文化発表会</p> <p>1、日時 11月7日(日)</p> <p>2、内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取り組み・発表内容 <ul style="list-style-type: none"> 1年生 — 中辺路町調べ(1学期～2学期) 2年生 — 職場体験学習を終えて 3年生 — 修学旅行 全校 — 意見発表、合唱コンクール、英語発表 ・地域のサークルの舞台発表 <ul style="list-style-type: none"> 童謡サークルによる歌の披露 <p>3、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月上旬 第1回打ち合わせ会議(公民館) 中学校の文化発表会に参加してくれる地域のサークル募集について 10月中旬 第2回打ち合わせ会議(公民館) 参加サークル決定とその依頼について 10月下旬 第3回打ち合わせ会議(公民館とサークル代表) 文化発表会の内容と確認 <p>■中辺路町文化祭</p> <p>1、日時 11月20日(土)・21日(日)</p> <p>2、内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の展示物の出品 <ul style="list-style-type: none"> 家庭科 — ぬいぐるみ 美術家 — 美術の作品 絵 生徒会「中辺路花いっぱい運動」の取り組み紹介 ・学習の成果の発表(21日10:00～10:20) <ul style="list-style-type: none"> 3年生 — 修学旅行 <p>3、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前打ち合わせ 展示品について、発表内容について(公民館) 事前打ち合わせ 会場での発表の練習 事前打ち合わせ 会場での発表の練習・内容最終確認 			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に、学校の活動や生徒の様子を知ってもらう事が出来た。 ・各学年の取り組みが、地域の現状と課題の発見につながり、生徒が地域を見つめなおす良い機会とすることができた。 ・学校が地域へ、地域が学校へと相互の関わりで、地域一体となった活動を作れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとの交流ではなく、長期的な活動の中で地域の方々と交流できる方法を考える。 ・公民館との連携を密にし、そこからその他の機関にと、連携の枝を広げられるようにしたい。 ・中学校の文化発表会と中辺路町の文化祭が同じ時期に開催され、内容なども似ている点があり、整理・工夫する必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々への学習成果の発表では、生徒自身が自信と社会性を育むことができる良い機会となった。 ・地域の方々の合唱披露やさまざまな作品が、芸術に触れる良い機会とともに、地域の方々との関係を深めることにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが企画・立案するなど、生徒主体の地域との関わりの機会を持てるよう指導してきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等で活動しているサークルの方々との交流が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と一緒に取り組める活動を考えていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動しているサークルの楽しさ等を生徒達に知ってもらうことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館では、色々なサークルの活動が行われており、その活動をもっと知って貰う工夫が必要。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

文化発表会という形で生徒の取り組みを地域の方々にも見てもらうことができ、大変有意義な機会となっていると思う。また、地域の方々にも参加していただき、生徒たちにサークル活動で行っていることや地域の文化を披露してもらえることは大変ありがたい。今年は童謡サークルの方々に参加していただいたが、これまで「詩吟」「大正琴」などの地域のサークルに参加していただいている。さまざまな地域のサークルの活動をを知り、生涯を通じて学び続ける姿から、生涯学習の価値を生徒たちも見出すことができたと思う。



生徒の取り組みについては、1年生は「地域調べ」として公民館と連携し、インタビュー形式で調査活動を実施した。2年生では、「職場体験学習」として地域の職場での体験学習のまとめを発表するなど、取り組みの中でも地域とのかかわりを深めながら活動をすることができた。

しかし、地域の方々には学校での取り組みを見てもらう機会は少なく、このような地域の人々とのかかわりをもっと広げていく必要がある。また、行事ごとのかかわりとなっていることが多く、長期的なかかわりの中で学校と地域が連携し合い、生徒にとっても地域の人々にとっても有意義な活動ができるような取り組みを考えていく必要がある。

(次年度に向けての取り組み)

地域とのかかわりの幅を広げたい。生徒の取り組みについてもそうであるが、文化発表会への地域の人々の参加を拡大させるため、公民館との連携をさらに密なものとし、より多くの地域の人々に中学校とのかかわりを深めていただけるような方法を考えていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名		近野中学校	公民館名	中辺路公民館 近野分館
学社融合における学校・地域の様子				
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的に学校と地域との連携が密であり、協力的である。 ・地域ぐるみで取り組む行事として、近野区民体育祭、近野まるかじり体験、近野フェスティバル、近野山間マラソンなどがある。 ・NPO法人、老人会、JA女性会、近野獅子舞団、育友会その他地域の方々との交流が活発である。 				
活動名		米作り勤労体験学習	学年・教科・領域等	全学年・総合
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動を通して地域を知る ・生産の喜びや勤労の尊さを学ぶ ・共同作業をすることにより助け合いや協調性を養う ・汗を流して働くことにより、努力することや耐えることの大切さを学ぶ ・人とのふれあいや栽培を通して思いやりの心を育てる ・地域イベントに参加し、楽しい思い出をつくる 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と地域の人達との交流を深めることにより、子ども達が地域への理解をより深める。 ・学校・地域の連携を密にして子ども達の健全育成を図る。 		
支援者及び支援組織				
地域のまちづくり団体(NPO法人「古道の里に花と愛」、JA女性会、育友会など)				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>4月23日(金) 箱苗作り NPOの方々の指導の下に、箱苗を作った。 28日(水) もみまき 先日作った箱にもみをまいた。 5月12日(水) 田おこし・しろかき 耕耘機を使って田おこした後、しろかきした。 28日(金) 田植え 学年別に、もち米とうるち米を植えた。 8月 9日(金) 全校登校日 草刈り・観察 あぜ道の雑草を草刈りした。 9月17日(金) 稲刈り(うるち米) 27日(月) 稲刈り(もち米) うるち米脱穀 脱穀機を使い脱穀した。 10月1日(金) 精米(業者)109Kgのうるち米収穫。 7日(木) もち米脱穀 脱穀機を使い脱穀した。 8日(金) 精米(業者)82Kgのもち米収穫。 26日(火) 収穫祭 JA女性会の指導の下に餅つき体験した。 11月3日(水) 『近露まるかじり体験』へ参加 餅つきを実演しながら販売した。 28日(日) 『近野フェスティバル』において1年生がこの取り組みを発表した。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業を通して、働くことの大切さを学ばせることができた。 ・米作りを通して、生産の喜びを体験させることができた。 ・数多く共同作業を行うことで、協力しあうことの大切さを学ばせることができた。 ・地域イベントに参加することで、地域の一員として自覚する意識を高めさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みに対する時間数の確保が困難だった。 ・米作りの経験や専門的な知識が必要なので、特定の指導者に頼りすぎたこと。 ・生徒が計画し、主体的に活動できる場をふやす。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを一通り体験することができた。 ・収穫した米を家に持ち帰って食べたり、餅つきをしたりして、ものを作る楽しさを味わうことができた。 ・地域のたくさんの方々に指導していただき、お互いに交流を深めることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習と調べ学習との時間を適切に配分すること ・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりをもってできるようにしたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱える問題に気づくとともに、活性化のために自分たちも関わっていくことで学ぶことが出来た。 ・地域のイベントに参加することで、地域との一体感を感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動にさらに積極的に関わってほしい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年も中学校独自で休耕田を借り上げ、米作りを体験してもらった。 ・子ども達と農作業を通して交流することが出来た。 ・地域のイベントに参加してもらい、餅つきを実演販売することで、地域活動に協力してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が地域と連携しながら体験学習をおこなっているが、公民館として今後どのように関わっていけるのかが課題である。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りを学ぶ。初めに箱苗作り、もみまき、田おこし、しろかき、田植え、草取り、草刈り、稲刈り、脱穀まで一通り体験し、収穫した米を家庭に持ち帰って食べたり、餅つき体験をすることで、労働の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことが出来た。 ・地域のイベントに出店し、餅つきの実演販売をおこなったことで、地域に対する帰属意識が高まったと思われる。 ・多くの方々と交流することができたので、地域の方々とより親密になった。 ・来年度も継続する方向で計画していきたい。 		

学社融合活動実施報告

学校名	大塔中学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>ATOM学習の中で、「ふるさとを愛し、心豊かに、たくましく生きる児童生徒の育成」に努めている。毎年、大塔拠点公民館と共催し、保護者や地域の老人クラブ等にも協力を求め、『大塔リフレッシュ大作戦』と銘打って、全校生徒が校区の3小学校の児童と共に清掃活動を展開している。</p> <p>また、小学校5・6年生と中学校1年生が行う選択交流学习では、地域の方をゲストティチャーに招いて、活動している。今年度新たに「茶道」のコースも設け、「生け花」「囲碁」「郷土の食」「昔の遊び」「大塔探訪」の6コースにおいて交流を深めた。</p> <p>さらに今年度は、2年生が地域のシルバー人材センターの方々との交流会も実施した。</p>			
活動名	ふれあい交流会	学年・教科・領域等	2年生 総合的な学習の時間
目標	学校	中学生が、シルバー人材センターの地域での活動を知ることにより、地域やふるさとに対する思いに目を向けさせる。また、シルバー人材センターの方々と交流することにより、日常生活の中でも、家族や地域の高齢者の方々とのふれあいの大切さを意識させる。	
	公民館	中学生にとって地域でおこなわれている活動について学び、地域のことを知る機会にするとともに、交流を通して地域との結びつきの大切さを認識する機会とする。	
支援者及び支援組織			
公民館・大塔シルバー人材センター			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
日時			
平成22年10月5日(火曜日)			
ねらい			
<p>「地域のシルバー人材センターの方々の活動を知り、交流を深める。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を知ることにより、地域に貢献しているシルバー人材センターの存在を意識することが出来る。 ・共に活動することにより、日常生活においても、高齢者の方を身近に感じることが出来る。 			
活動内容			
「ふれあい交流会」(ツツジの植樹作業・グランドゴルフ大会)			
1 ツツジの植樹作業			
<ul style="list-style-type: none"> ○シルバー人材センターの活動内容や植樹の意義・行程についての説明の後、「水辺の楽校」の公園にツツジの苗木を植樹した。 ○グループに分かれ、シルバー人材センターの方と共に、土と肥料を混ぜて植える場所の設定から始めた。 ○協力して作業をすることや、植樹をすることで環境の大切さを知ることにもなった。 			
2 グランドゴルフ大会			
<ul style="list-style-type: none"> ○中学生はほとんどが初めての体験であったが、シルバー人材センターの方に教えてもらいながら、楽しく活動出来た。 ○シルバー人材センターの方が、上手に生き生きとグランドゴルフをする姿を見て、中学生のほうのパワーをもらった面もあった。 ○日ごろふれあうことの機会が少ない地域の方との交流によって、今まで知らなかった方を身近に感じることが出来た。 			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・今まであまり知らなかったシルバー人材センターの活動を中学生が知り、地域にこのような取り組みがあることを意識することが出来て、よかった。 ・シルバー人材センターの方々のふるさとの思いやりなどを感じた生徒が、その気持ちを受け継いでいく基盤に多少つながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域やふるさとを大切にするという思いは、このような取り組みだけでなく、その他の行事や授業などに関連させ、意識づけをしていく必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・祖父母と同居する生徒が少ないので、シルバーの方たちとの交流は、新鮮さを感じ、自分の祖父母へのいたわりにもつながる面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、自分の祖父母だけでなく、地域のお年寄りの方々にもいたわりの気持ちが持てるようになるかどうか。 ・実際に地域やふるさとに対する思いを行動に出せるかどうか。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みを通じて、生徒が地域でおこなわれている活動を学ぶ良い機会となった。 ・高齢者の方々との共同作業や、グラウンドゴルフを通しての世代間交流をおこなうことで、地域との結びつきを認識するとともに社会性も育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回得た地域への関心を継続できるよう、今後も取り組みをおこなうことで、地域の方々との交流の場を広げるとともに、そこから地域との結びつきを認識し、併せて社会性も育みたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・共同作業やグラウンドゴルフによる世代間交流を通して、参加した高齢者が学校教育に関心を持ち、関わることの大切さを認識する良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域で活動している住民・団体とこのような交流ができるよう、中学校・地域・公民館の結びつきを強めるとともに、取り組みへとつなげていく。 ・公民館として、地域の人財・団体を把握し、協力体制の充実に努める。 ・活動を地域に向けて発信することでより多くの地域住民に取り組みへの関心を持ってもらえるよう努める。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向




◎評価

シルバー人材センターの方との交流により、その存在や活動、はたまた活動を通しての地域やふるさとに対する思いを知ることが出来た。さらに、自分の祖父母など身近な家族の存在に目を向け、いたわりの気持ちが必要だという意識づけにもなった。また、シルバー人材センターの方も、中学生と交流することにより、活動の活性化につながった面もある。

◎次年度に向けての取り組みの方向

今年度はシルバー人材センターからの呼びかけに応じた形であったが、来年度は年度初めにこのような取り組みを各学年毎に計画することも考えられる。また、公民館を通して、他の機関とも交流できるような行事を計画したい。

学社融合活動実施報告

学校名		三里中学校	公民館名	本宮公民館 三里分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>「学校教育活動の様々な面で地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校作り」という目標の下、各種学校行事に公民館と連携したり、総合的な学習の時間や特別活動を利用して、様々な活動を行っている。</p> <p>地域も学校教育に協力的で、公民館活動や様々な機会を通して子どもたちの健全な育成に積極的に関わってくれる。「地域で一体となって子どもを育て、見守っていく」という気風が長い歴史の中でこの地域にはあり、その良さが学社融合を違和感なくスムーズに推し進めている。</p>				
活動名		三里祭り	学年・教科・領域等	全学年・特別活動
目標	学校	地域に学び、地域を愛し、地域に誇りを持って生きる生徒を育てる。		
	公民館	学校行事に積極的に参加すると共に、育友会(共育会)や他団体と連携を密にして、子どもたちの健全な育成に寄与する。		
支援者及び支援組織 保護者・学校評議員・小学校・公民館・地域住民・地域の各種団体・関係各機関				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>公民館主催「三里祭り」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月23日(火)に、三里小学校を会場として行われた「三里祭り」に、生徒・職員が参加協力。 ・9月に公民館館長と地域連携担当者が、三里地区の伝統的行事である「三里祭り」について、運営や学校の参加体制の打ち合わせを実施。 ・9月の職員会議で「三里祭り」の参加協力やねらいについて確認。 ※ねらい「地域の伝統的行事に積極的に参加し、地域の一員であることを認識すると共に、地域住民とのつながりを深める。」 ・公民館の劇団に職員も参加。そのため、10月から勤務時間終了後、公民館で劇の練習を行う。 ・生徒は文化祭で発表した内容を、各学年発表するため、各学年で再度発表練習を行う。 ・当日は、小学生や中学生の発表に対して会場からは大きな拍手が送られ、好評であった。また、職員も参加して行われた劇は、市町村合併時よりしばらく行われていなかったこともあり、大好評であった。 ・当日の会場の後片付けも、職員や中学生の子どもたちが協力して行ったため、とてもスムーズに会場の片付けが出来た。 <p>◎今回の「三里祭り」の参加体制として、生徒の他に職員も公民館が行う劇団の一員として参加できたことは大きな意味があった。参加した職員(2名)は、勤務終了後の劇練習に連日参加し、公民館活動に積極的に協力してくれた。そのことが、「三里祭り」当日の劇出演だけでなく、公民館関係者、地域住民から絶大な支持と好評を得ることとなった。公民館と学校がいっしょになって「地域を盛り上げ、元気にしていこう」という具体的な活動となった。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	学校を拠点とし、公民館と連携を重ねながら地域の方々子どもたちが触れ合うことによって、地域の中で子どもを育てるといふ気運が高まり、地域の中での学校の存在価値がよりいっそう高くなった。	これまで以上に子どもや学校教育に関心を持ってもらい、「地域と学校がともに手を取り合い子どもを育てる」という環境をさらに推し進めるため、地域に対して様々な角度から積極的に働きかけていく。
* 子どもにとって	より多くの大人との関わりを持つことで、子どもの成長にプラスとなっている。また、子ども自身も同じ地域に生活している社会人という認識も高くなった。	子どもたちがこれまで以上に地域(社会)に目を向け、課題意識を持って自主的に考え、行動できる態度を学校の様々な教育活動を通して育てていく。
* 子どもにとって	地域で見守られながら生きる喜びの心が育っている。また、子どもたち自身が地域の人々に元気を与えているということを実感するようになってきた。	多くの大人との出会いの場の中で、社会性を高めながら、社会参画の意識を育てていく。
地 域 (公民館)	学校に関わりを持ち、子どもや教育への関心を高め、地域で一丸となって子どもを育てる意識を高めることができた。また、本年度は「三里祭り」について学校とも連携を強めた結果、中学生の発表や先生方の劇出演というこれまでになかった協力体制を作ることができた。	今年度は一段と進化したと思うので、今後も地域と学校がいっしょになって子どもを育てるといふ共通認識のもと、具体的な方策を継続的に進めていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向




今年度は、これまでの「ふるさと学習」での連携に加え、「三里祭り」で新たな学校と公民館の連携の道を見出すことができました。子どもたちには地域のすばらしさや特色を大切にしようとする心が育ち、地域には子どもをみんなで見守り育てようという意識や学校への関心が高まりました。

本校では、「地域を基盤とし、地域を愛し、地域に誇りを持って生きる生徒の育成」をめざして取り組みを続けています。なによりも、この三里地域の人々には昔も今も変わらぬ「子どもをみんなで育て、見守るあたたかい教育力」が存在します。これからも、この豊かな自然環境や歴史・文化、先人が築いてきた知恵や知識を学び、ここに住む者として、ふるさとを愛し、ふるさとの伝統を継承することは意義があると考えています。

今後も、学校教育で「地域に学び、地域に誇りを持ち、地域を愛する」取り組みを、公民館と連携しながら推し進めていきたいと思ひます。

特に、「三里祭り」を通しての連携による地域の盛り上がりや、学校と地域の一体感を大切にしていふ学校と公民館の連携のあり方を進めていきたいと思ひています。

学社融合活動実施報告

学校名		本宮中学校	公民館名	本宮公民館 本宮公民館・四村川分館・請川分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>平成20年度より全国各地でスタートした「学校支援地域本部事業」の指定を受け、事業テーマを「学び合い、支え合い、高め合う学校と地域社会」としました。子どもたちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化に貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指しています。具体的には地域コーディネーターをキーパーソンとし、学校と地域を結びつけながら、子どもたちを心豊かに育む取り組みを進めています。こうした取り組みにより、学校と地域との絆は深まり、「本宮地域共育コミュニティ」という教育基盤が育まれようとしています。尚、12月には3年間の活動をまとめた成果発表会を開催しました。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
郷土料理「めはり寿司」作り			2年生(総合的な学習の時間・家庭科)	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に伝わる特色ある食材に関心を持ち、地域の食文化に関する理解を深める。 ・郷土料理を学び、地域の方々と共に調理することを通じて、地域の人々の知恵や工夫に気づき、地元の食文化を大切にしようとする態度を育む。 		
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活かした活動を推進し、学校や生徒の様子を知り、交流を深めると共に、地域を愛する生徒を育む。 		
支援者及び支援組織				
地域コーディネーター・学校支援ボランティア(学習パートナー)				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<ul style="list-style-type: none"> ・8月9日 コーディネーターと授業の相談、高菜作りの学習パートナーを依頼する。 ・8月10日 コーディネーターが学習パートナーに依頼し、承諾を得る。 ・9月2日 学習パートナーに土作りと高菜の種まきの指導をしていただき、種をまく。 ・9月10日 コーディネーターと授業の打ち合わせ。 ・9月14日 授業当日の学習パートナーを募集する。 ・9月17日 コーディネーターと授業の打ち合わせ。 ・9月24日 学習パートナー指導のもと、高菜の間引き・移植をする。 ・10月28日 1回目の高菜を収穫し、漬ける。 ・11月1日 漬けものになった高菜を冷凍保存する。 ・11月9日 2回目の高菜を収穫し、漬ける。 ・11月11日 学習パートナーとの打ち合わせ。 ・12月3日 授業を行う。(成果発表会) 				
				
				
				
				

	成 果	課 題
学 校	・郷土料理である「めはり寿司」は熊野地方に古くから伝わる伝統的な食べ物である。それを畑作りから、収穫、漬けるといったことまで経験できたことは大きな財産になったし、ひいては地域を愛し地域に貢献する生徒の育成にもつながった。	・今後とも、学習パートナーを招いての郷土料理作りをしたいと考えているが、そのための打ち合わせをもっと綿密にかつスリムに行えるように工夫していきたい。
* 子どもにとって	・種まきから収穫、漬ける、にぎる、試食と一貫した取り組みを通して伝統的な郷土料理に関心を持ち理解を深めることができた。また、地域の学習パートナーから教わることは、子どもたちにとっては新鮮でよかった。	・学習パートナーとどう接したらいいかわからない生徒もいるので、様々な場面で挨拶や言葉遣い等を含めた指導が必要である。
* 子どもにとって	・地域の方々と一緒にあって、伝統料理である「めはり寿司」を作れたことは大きな経験になったし、地域の方とふれあえる機会にもなった。	・郷土料理に関心を持つことができたが、地域を愛し地域に貢献しようとする生徒が増えたというところまでは発展していないので、もっと積極的に地域に出て行き祭りや行事に参加する生徒を育成したい。
地 域 (公民館)	・生徒や職員と交流する機会が増えた。 ・地域が学校を知る機会が増えた。 ・学習パートナーから「楽しかった」「こういう機会があればまた来たい」といった前向きな感想ばかりだった。こういうことから地域の方々も地域の子どもを愛し、育てようという意識も高まっている。	・普段あまり子どもと接することのない人は「どう接したらいいかわ戸惑った」という感想もあったので、今後はもっと多くの場面で子どもたちと接する機会を持ちたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

評価

「めはり寿司」という郷土料理を作ることによって、地域のことや食文化に対する関心が高まった。地域の方々ともふれあう機会が持てたことがよかった。また、子どもたちが教師以外の大人と接する勉強にもなった。

地域にとっては普段あまり接することのない中学生ともふれあえる機会が持てたのがよかった。また、昔のよき風習である地域の子どもたちを地域で育てるといった意識が高まった。

方向

今後とも、郷土料理を学ぶ機会を持ちたいが、高菜を育てることにかかる時間の確保が課題である。パートナーとの打ち合わせの仕方を工夫し、指導者とパートナーが協力して地域に貢献する生徒を育成していきたい。



学校名	新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>自分の住む地域を愛する人になってほしい、自分も地域の一員であるということ子どもなりに感じてほしいという願いをもち、「ぎおんさんの夜見世」や「敬老会」に園児が参加したり、「大湊神社の祭礼の新庄北長地区・名喜里地区獅子舞」を見せて頂いたり、福嶋さんのミカン畑でミカン狩りをさせて頂くなどして、地域の方の優しさや文化や伝統行事、自然に触れ親しんでいます。</p> <p>また地域の方にも園の様子を知り、関心をもって頂きたいと考え、月1回未就園児を園に招いて、制作活動や絵本の読み聞かせなどを行ったり、11月には公民館のロビーを借りて園児作品展を催したりしています。</p>			
活動名	園児作品展(公民館のロビーを借りて)	学年・教科・領域等	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む人に出会い、自然物に触れるなどして地域に親しみをもつ。 ・身近な素材を使い遊びに必要な物を工夫して作ったり、経験したことを絵で表現したりすることの楽しさや、友達と気持ちや力を合わせることの大切さを味わう。 ・地域の方に作品展を通して子どもや園に関心をもってもらう。 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ロビー展では、公民館への来館者(公民館教室・サークル参加者や市役所連絡所用件者を含む)に幼稚園の活動そのものの一端を覗いていただくとともに、それら展示作品を通して地域の様子や行事などを知ってもらう。 	
支援者及び支援組織			
新庄公民館、福嶋さん、新庄北長地区・名喜里地区獅子舞保存会の方々			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>○10月18日～11月4日「お店屋さんごっこに興味をもち皆で話し合い必要な物を作るなどして遊びを進めることを楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お店屋さんごっこ」にむけてどのようなお店にするか、必要な品物は何か等を話し合い、共通のイメージや期待をもって活動に取り組む。またいろいろな材料を使い工夫したり、同じグループの友達と協力したりしながら作る。 <p>○10月26日 「地域(わらべの里)に出かけ友達と一緒に楽しく過ごす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わらべの里に出かけ友達と遊具で遊んだり、ドングリや木の葉の自然物を拾ったり、お弁当を食べたりして楽しむ。 <p>○10月29日 「大湊神社祭礼のことを知り、興味や親しみをもつ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大湊神社に出かけ、お祭り前の神社の様子を見たり、自分たちで出来ることとしてごみ拾いをしたりする。 <p>○11月2日 「大湊神社祭礼や獅子舞に興味や親しみをもつ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新庄北長地区・名喜里地区獅子舞保存会の方が来園。子どもたちは特徴ある獅子舞の舞を見たり、獅子舞の中に入れてもらい動きをまねたりして楽しむ。 <p>○11月4日 「自分の思いを絵で表現することを楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に獅子舞を見たり、獅子舞の中に入れてもらったりして楽しかったことを絵に描く。 <p>○11月5日 「皆でお店屋さんごっこをして楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観で「お店屋さんごっこ」を行う。焼き肉屋さん、ケーキ・ドーナツ屋さん、おすし屋さん、カード屋さん、グランドゴルフ屋さんに分かれ、時間交代制でお店の人になったり、保護者の方とお客さんになっていろいろな店をまわったりして楽しむ。その後保護者の方から品物を上手に作っていること、係りの仕事を頑張っていたことなどの感想を頂く。 <p>○11月11日 「地域(福嶋さんのミカン畑)に出かけ、ミカン狩りを楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福嶋さんからミカンの採り方を聞き、手伝って頂きながら自分でハサミを使ってミカンを探る。その後自分で採ったミカン 1個を喜んで食べる。翌日お土産に頂いたミカンを家族でおいしく食べたことなどの感想を保護者から頂く。 <p>○11月12日 「自分の思いを絵で表現することを楽しむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカン狩りをして楽しかったことや発見したこと等を話し、クレパスや絵の具でミカン狩りの絵を描く。 <p>○11月15日 「身近な素材を使って作る楽しさを味わう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発砲スチロールの容器に絵を描き1つは自分用に1つはプレゼント用にオリヅランの鉢を作る。 <p>○11月21日～12月24日 幼稚園の作品を公民館のロビーに飾らせて頂く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お店屋さんごっこ」の品物や子どもたちが描いた絵画を展示する。また「お店屋さんごっこ」の取り組みや様々な園行事の写真などで作成したパネルを展示し、園を紹介する。 ・園児の保護者の母親で構成される母親クラブの活動で作って下さった保育室のエアコンカバーも展示する。 			




	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展を公民館のロビーですること、地域の方々にも園での取り組みの様子を具体的に知ってもらったり、園児の絵画、制作物を実際に見て頂いたりする機会となりよかった。 ・地域の伝統的な獅子舞の見学や地域に出かけミカン狩りの体験などをさせて頂くことで、地域とのつながりがもてた。 ・子どもの参加を通して保護者も地域に対する関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作活動をする上で話し合い、遊びに必要な物を作っていくという過程が必要であるが、他の園行事もあるので、時間の確保や保育内容を工夫していきたい。 ・職員が3名に減ってからは、地域に出かける時や地域の行事に参加する時など、安全面での配慮が難しい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統的な行事や自然などを体験し絵で表現することで、地域に対する親しみが深まった。 ・友達と話し合い、身近な材料を使って工夫し遊びに必要な物を作る楽しさを味わいながら「お店屋さんごっこ」をすることができ、またその作品を公民館で展示することで多くの方に見て頂き声をかけられ、園児の喜びや自信につながったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外にでていく機会が少なくなったり、また新庄地区以外の子どものいるなかで、みんなが同じ体験(共通体験)していくことが難しい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展では幼稚園関係者だけではなく、多くの方々に作品を観てもらえることで励みになっているのではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の絵画や展示作品は幼稚園独自の発表だったので、今後は公民館事業とタイアップした作品制作を行い、その作品も展示できるようにしていったらよいのではないか。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館入場者が増えるとともに、ロビーでの人の滞留時間が長くなった。 ・園児作品だけではなく保護者作品も展示したことで、作品群を目の前にして話題が広がり会話が弾んでいたように思う。 ・街中で出会う方々からも、「ロビーに絵がたくさんあったなあ」「食べ物を手で作ってあったよ」など、地域の方々の反応は大変好評であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示に当たり作品そのものの出来上がり待ちになるので、公民館としての展示したい時期とのズレが生じる。 ・現状での作品展示規模はロビー展としてほぼ目一杯なので、展示スタイルの変更などに対応することが難しい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

保護者だけでなく地域の方にも幼稚園の取り組みや園児の様子を知ってもらい、より一層関心や親しみを持って頂きたいと考え、昨年より園児作品展を公民館のロビーで行っている。公民館で作品展を行うことで気軽に多くの人に見て頂くことが出来たと感じる。例えば選挙をした後や公民館サークル活動の時など直接園に関係ない方々にも見て頂いた。また発表会など園行事の後おじいちゃんやおばあちゃんも一緒に公民館に出向き、子どもたちの絵を見て下さったという声を聞いた。園紹介パネルでも地域と園のかかわりや地域の伝統行事などを知り、関心も高まったと感じる。

地域に出かけ公園の遊具で遊んだり、ミカン狩りをしたり、獅子舞を見たり触れたりなどすることで、園では出来ない貴重な経験をすることが出来た。また自分の描いた絵や作品を保護者や地域の方に見て頂き、それを評価してもらえることで喜びや自信につながったと思われる。

時間の確保や他の園行事との兼ね合いなども考慮し工夫しながら、今後も地域とのかかわりを大切にしていきたい。

学校名		三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本年では「心豊かにたくましく生きる子ども」の育成を目指し、日々の取り組みを行っています。しかし、3人の職員による教育力には限界があり、地域の方々、近隣の小中学校・専門機関などの協力や支援を頂きながら、教育活動の充実に努めているところです。</p> <p>毎年、公民館の高齢者学級との交流や近隣の方々のご好意による梅の収穫・ジュースづくり・地域の方による獅子舞・隣接する衣笠中学校との交流など職員の力だけではできないような体験をたくさんさせて頂き、子どもたちにとってもいろいろな人々や活動に触れる楽しく豊かな体験となっています。</p> <p>また、子どもたちの安全教育についても、地域と連携・協力しながら、実践を積み重ねていくことが大切だと考え進めているところです。</p>				
活動名		避難訓練(衣笠中学校・三栖幼稚園合同 避難訓練)		
		学年・教科・領域等		
目標	学校	・地震災害時の避難の仕方を知り、衣笠中学校生徒の人たちと一緒に訓練に参加し、指示に従い安全に行動できる。		
	公民館	・三栖幼稚園は、職員数が3名で、全園児への対応に十分とは言えない現状である。隣接する衣笠中学校の生徒が中学生として関われる活動を通して、支援するという訓練を実施することで、園児・生徒の保護者だけでなく、地域の方々にも災害時の幼稚園救助に関心を持ってもらうことができ、生徒にとっても扶助の心や道徳心を養う良い機会となる。		
支援者及び支援組織 衣笠中学校生徒・職員 衣笠中学校合同避難訓練組織				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>毎月1度、職員と園児たちで行う避難訓練に加え、</p> <p>9月8日(水)衣笠中学校・三栖幼稚園合同避難訓練(地震)</p> <p>10月28日(木)田辺市青少年補導センター・三栖駐在所 不審者対策避難訓練</p> <p>2月21日(月)煙体験・119ちゃん 火事想定避難訓練 未就園児参加 など</p> <p>専門機関や地域の方との合同避難訓練も行っている。</p>				
<p>平成22年9月8日(水) 衣笠中学校・三栖幼稚園合同避難訓練</p> <p>午後1時30分 訓練開始</p> <p>①緊急放送 「訓練、訓練。只今、大きな地震が起きました。みなさん、すぐに机の下にもぐりましょう。」 衣笠中学校でも同時に行う。</p> <p>②園児は担任の指示に従い、机の下に身を隠す。</p> <p>③避難開始 「地震が収まりました。防災頭巾を被り、運動場に避難しましょう。」</p> <p>④運動場に一時避難・人数確認</p> <p>⑤中学生が迎えに来てくれ、一緒に衣笠中学校グラウンドに避難。</p> <p>⑥訓練を終えて・・・衣笠中校長よりお話を聞く。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・もし、本当に災害起こったら、そしてその規模が大きいほど子どもたちをそして職員の命を守るためにしなければならないことがたくさんでてくる。一刻を争うそのような状況の中で、3人の職員では到底手が回らない。隣接する衣笠中学校の生徒や先生方が来てくれること、そしてその意識を持っていてくれることへの安心感は計り知れないものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の先生の中に、まだ顔や名前の知らない先生方もいるので、日ごろからのつき合いを深めていくことも大切である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとり、手をつないで誘導してもらうことで、安心して安全に避難できる。 ・お兄さん・お姉さんの優しさに触れ、親しみを持つとともに、頼りになる存在として憧れの気持ちなども芽生えているように思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平素、中学生とのふれあいが十分に持ていないので、逆に見知らぬ中学生に手をつないでもらう事への不安感を抱く子ども達への事前の扱いに留意しなければならない。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に憧れの気持ちを持つとともに、将来の自分たちのあるべき姿として意識の奥に残るであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い子ども達への言葉かけに心を傾け、つかの間の時間の中でもふれあいがもてるよう心がけたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生にとっては幼稚園児の世話をすることにより、助け合いの心はもちろんのこと、有能感を味わえ、自己充実につながる経験になると考えられる。 ・地域につながり、地域の一員として生活していくことの大切さに目を向ける機会となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両校の取り組みを周囲に広く知ってもらうことが必要。学校から保護者に学校だよりなどを使って、事業の目的や内容について、理解してもらう。各家庭でも防災への話し合いをする機会と捉えてもらう。 ・公民館も参加することにより、地域とつなぐパイプ役を果たしていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

「隣接する」という立地条件を生かした避難訓練の取り組みは、非常に意義深いものであると思います。今後も続け、つながっていきたいと思います。

幼稚園では、日々の生活の中で「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。」ことが大切です。しかし、園内だけに限らず、保護者や公民館・地域の方々との連携しながら、地域に開かれ、地域に根付いた実践を重ねていくことが安全教育に関しても大切になってくるので、今後もそのような意識で取り組みを進めていきたいと思ひます。

学社融合活動実施報告

学校名	上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
-----	--------	------	--------

学社融合における学校・地域の様子

本園は旧田辺市の北東部、市街地より数キロ離れ、標高606メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年、専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は13世帯である。また、若い年代の世帯数も増えてきて、本園では核家族25世帯、同居家族15世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。地域には町内会はじめ、あらゆる組織・団体を網羅する「秋津野塾」という地域作り団体が結成されていて、様々な活動を行っている。

活動名	創立50周年記念事業	学年・教科・領域等	全園児
-----	------------	-----------	-----

目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とのふれあいを楽しみ、親しみを持つ。 ・記念事業に参加し、地域の方々に感謝の気持ちを持つ。
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、園及び地域間の連携と信頼関係を深めるとともに、世代間の交流の輪を広げる。 ・多くの方々に園児達の取り組みに触れていただき、子どもたちの健全な育成に関心を持っていただく。

支援者及び支援組織
 創立50周年記念事業実行委員会、公民館、裏千家淡交会、長尾宗静先生、生活研究(からたち)グループ、愛郷会、町内会、保護者

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

《月日》	《活動名》	《活動内容》
4/16(金)	PTA役員会	幼稚園創立50周年記念事業について、実行委員会を立ち上げる 記念事業および実行委員会についての承認 経過説明、事業内容、予算、役割分担について検討する (餅つき、植樹、パンフレット作成)
4/21(水)	PTA総会	
5/20(木)	実行委員会	
6/10(木)	PTA役員会 保護者ボランティア 愛郷会寄付 長尾先生 生活研究グループ JA 地域の方々	実行委員会の報告を行う 手作り遊具(ママゴト道具、エプロン、布ボール等)届けられる ベンチやテーブルのペンキ塗りなど園舎内の整備を行う スイートハウス、鉄棒補助板、ママゴトキッチン等購入する お茶席(野点)を設けるにあたっての打ち合わせをする お寿司のケーキ(トッピング)についての打ち合わせをする お土産のかに人形の材料にする梅干の種をいただく 写真展やパンフレットに使う50年間の貴重な写真が集まる
8/29(日)	実行委員会	日程及び、各分担の進行状況報告
9/27(月)	公民館主事と打ち合わせ	経過説明、日程内容役割について実行委員会事前協議 タイムスケジュールに沿った役割分担を考える
10/ 3(日)	実行委員会	分担された役割に分かれて当日までの詳細を決定する 案内状作成、配布する
10/29(金)	作品搬入	園児共同製作作品「シンデレラ」、50周年記念写真展(会場:上秋津公民館) 「秋津野ガルテン」で植樹を行う お餅つき、ミニ発表会(歌、合奏、ダンス)、アンパンマン登場、年長児によるお茶席、お寿司のケーキ、幼児手作りに人形のお土産
11/ 2(火)	記念植樹	
11/ 5(金)	当日	



公民館・幼稚園打ち合わせ



記念植樹



お餅つき

	成 果	課 題
学 校	多くの地域の方々の協力のおかげで、写真展、記念植樹、パンフレット、お茶会、餅つき、ミニ発表会、お寿司のケーキ、おみやげなど充実した内容になり、喜びの言葉を頂けた。お祝いの会には、地域の方々が多く来園して下さり、地域の幼稚園として存在が再認識される良い機会となった。また、保護者にとっても地域の方々と関わりながら運営していくことで地域の一員としての意識を実感することが出来た。	地域の方々の幼稚園への関心をさらに高め、幼稚園へ気軽に訪問できるような人間関係作りを図りたい。そのためにも教師自身が開かれた姿勢を大切にして、自然な生活の流れの中で、共に活動の楽しさを共有できる実践となるようつなげていきたい。
* 子どもにとって	ミニ発表会、お茶会、共同作品などの取り組みが、記念事業として活かされていくことで、幼児なりに責任感と共に、達成感、有能感を持つことが出来た。	多くの方に支えられ、守られているということへの感謝の気持ちをこれからの保育活動の中で途切れることなく伝えていく必要がある。
* 子どもにとって	幅広い年代の方々と交流することができた。また、発表会やお茶席の接待等、自分たちの取り組み成果を多くの来園者に披露することができ、大きな自信が芽生えた。上秋津幼稚園が多くの人に愛されているという感謝の心が高まった。	これからも多くの地域の方々とふれあい、色々な体験を積み重ね、コミュニケーション力や社会性を育てていってほしい。
地 域 (公民館)	この事業を通して、住民間、異世代間の交流が深まった。 保護者以外の方々も多数来園され、幼稚園の取り組み、園児たちの様子を見ていただく絶好の機会となった。また、子どもは未来の宝物ということで、子どもたちの成長に関心を持ってもらえた。 保護者、地域住民、各種団体が得意分野で参画し、協同でこの事業を創り上げたことで、人と人とのつながりの大切さを改めて実感することができた。	幼稚園との連携をより深め、多くの地域の方々が気軽に参加していただけるような事業内容の検討や園の取り組みに関心を持ってもらえるような広報活動の展開、また、人のつながりを発展させて、新たな協力者の発掘等も行っていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

創立50周年という節目の年に、「おかげさまで」という感謝の気持ちを込めて何か心に残る記念事業を計画したいとの思いを持っていたが、年度初めには、職員数も少なく、日々の保育活動に追われる毎日であることから、お餅つきとパンフレットのみのこじんまりした会を余儀なくされていた。しかし、公民館との話し合いを通して、学社融合という見地から教育熱心な上秋津地区の人的環境を今一度見直し、地域に声をかけることにしたところ、各団体や個人の方々より想定以上の支援をいただいた。

地域の方々に支えられる事によって当日は内容も豊かで盛大に楽しんでもらえる一日となり、地域の方々に感謝の気持ちを伝えるという目的が達成できた事業となった。地元近くに住む卒園生も多く、「懐かしい」「幼稚園は今どう？」「園児数は？」など、この行事をきっかけに幼稚園に対して関心や親近感を抱いてもらえるようになったこともうれしい成果である。また、今回は公民館と幼稚園の職員とのつながりだけに留まらず、公民館とPTAが協力して企画運営をしていく体制作りへの一歩ができたと思われる。次年度からは公民館の地域力をもとにして、さらに地域との結びつきを深め、日常の保育やPTA行事等への活用を図っていきたい。



お茶会



ミニ発表会



お寿司のケーキ

学社融合活動実施報告

学校名	中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>核家族化や新興住宅地の増加により、隣近所や地域のつながりの希薄化を憂慮する事が多い昨今、当中芳養地域では八年前から地域のつながりを深め、伝統文化(地唄による盆踊り)の継承や子ども達の夏休みの思い出づくりにと、地域をあげて「中芳養夏まつり」を開催し、毎年盛況を得ている。その取り組みには幼稚園や園児・PTAも参画し大いに盛り上がっているところである。</p> <p>また、地域のいろいろな人とのふれあいにより、身近な人々に親しみを持ち、人とかかわることの楽しさや、人の役に立つ喜びをという願いを持ち、中芳養地域の高齢者の会である『芳寿会』の方々や未就園児・小学校・中学校との交流も一年を通して計画的に行っている。</p> <p>一方通行ではない、お互いが楽しめる、お互いに意義のある交流となり続けている。</p>			
活動名		芳寿会との交流	
		学年・教科・領域等	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高齢者やいろいろな人とのふれあいを楽しみ、身近な人に親しみを持つ。 ・ 人とかかわることの喜びや楽しさを味わう。 ・ 幼稚園を地域に開き、地域とのつながりや幼稚園教育への理解を深める。 	
	公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の各種団体との積極的な連携をとることにより、交流の促進を促す。 ・ 子ども達に、郷土の伝統・文化・歴史に親しみを持たせ、郷土への愛着心を育む。 ・ 施設を有効利用し、住民の集える場を提供する。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>芳寿会(中芳養老人会)・中芳養公民館・中芳養幼稚園PTA・未就園親子</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>《ねらい》</p> <p>◎地域の高齢者をはじめ、自分達の生活にかかわりの深い身近な人に親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>◎人とかかわることを楽しみ、地域の人々や伝統文化への興味や関心を広げる。</p> <p>《取り組み》</p> <p>7月2日 七夕飾り作りを楽しむ。⇒できた笹飾りを公民館と一緒に届ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児と芳寿会との交流だけでとどまらず、公民館と一緒に届けに行きお互いの連帯感を高め、それを地域の人の目を楽ませる場に展示することで、地域にも広げていく。 <p>7月30日 地域に伝わる盆踊りを教えていただく (含 PTA)</p> <p>7月31日 中芳養夏まつりを楽しむ (中芳養地域総動員)</p> <p>9月12日 中芳養地区敬老会に出演し、歌やよさこいソーランのダンスを披露する。</p> <p>10月 3日 幼稚園運動会に招待し、一緒に玉入れなどの競技を楽しむ。</p> <p>12月 7日 生活発表会の演技を披露する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会当日は観客が多く、ゆっくり座って観ていただけないので、芳寿会の方に観ていただく日を改めて設定する。 <p>1月13日 伝承遊びを楽しむ。(こままわし・お手玉・まりつき・すごろく・あやとり等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会の方の子ども頃の話を聞いたり、得意なこままわし・お手玉・まりつき等を見せていただいたりしながら、一緒に遊びを楽しむ。その際、未就園児親子も招き、幅広い年齢層の交流がもてるようにする。 <p>芳寿会の会長さんには、入園式や修了式にも来賓として来ていただき、1年を通して交流前には日程や内容の打ち合わせもお願いしている。</p>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に幼稚園の活動を知ってもらえ、地域と共にある幼稚園・地域に開かれた幼稚園への一助となっている。 ・園児がいろいろな年齢層の方とふれ合うことにより、人の温かさや人とかかわる楽しさを感じ、親しみを持ってかかわろうとするコミュニケーション力が身につく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農繁期と七夕や夏まつり・発表会等、日程が決まった行事が重なることも多く、芳寿会の一部の方には無理をお願いしている。 ・多くの人々との出会いや交流を通して、園児の社会性やマナー、人とかかわり方等の力を向上させていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会の方とのふれあいの中で、いつもとは違う温かさを感じて安定している様子がある。 ・地域の方への親しみが増し、幼稚園外でも声をかけ合える関係ができつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会との交流を通して、地域の人々の温かさを感じ、人に感謝する心の育成や、地域の施設や自然・伝統文化等への興味関心を高めていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統・文化・歴史に親しみ・関心を持たせることにより、郷土に対する愛着心、社会への帰属意識を育めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のときだけでなく、日常的に地域の方とコミュニケーションができるよう努める。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や技能を、次代を担う子ども達に伝えられ、地域の手で子ども達を育てるという意識を高められた。 ・住民の集える場、生涯学習を推進できる場として、公民館施設を有効に活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動がマンネリ化しないよう、事業の点検、見直しを進め、参加者にとって、毎回新しい発見ができるよう努める。 ・公民館施設を気軽に活用できるよう、施設の維持・修繕を心がける。 ・地域の方の理解と協力をさらに得るために、活動予定や活動報告などの、情報の発信を徹底する。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

《評価》

数年前までは、芳寿会との交流を、芋苗植え・さつま芋の収穫・おもちつき等で行っていたが、“お手伝いいただく交流”から“共に楽しい時間を過ごす交流”へと変えていく取り組みを進めてきた。そのことにより、お互いの負担が軽くなり、交流がスムーズに続いているように思われる。

子ども達にとっても“してもら交流”ではなく、自分達の力を見てもらったり、一緒に作ったり、踊ったり、遊んだりする交流となり、芳寿会の方にとっても、自分達の得意な物を披露したり、子ども達に教えてもらうことがあったり、お互いに楽しい時間となり、「刺激や力をもらって帰るよ！」「毎回楽しみやよ！」と声をかけていただくことが多くなっている。

核家族化が進み、いろいろな世代の方との交流が少なくなっている今、共に楽しみ、共感し合う体験をする交流活動は、人の温かさを知り、いろいろな人に親しみを持ち、人とかかわることの楽しさや人の役に立てる喜びを味わうことのできるいい経験となっている。また、誰かに喜ばれ、感謝されることによって自分が有用な人間であることを自覚しもっと人の役に立ちたいという気持ちの育成にも一役かっていると思われる。これは、園児だけではなく、交流する芳寿会の方々にもいえることではないだろうか。

《次年度に向けての取り組みの方向》

- ・ 交流がマンネリ化しないように「共に楽しい時間を過ごすためには」という視点に立ち、活動を考えていく。
- ・ 日程については、お互いの都合の調整に配慮する。
- ・ 地域の人々にとって、幼稚園がより身近なものになり、さらに園教育に対する理解を深めていけるように進めていきたい。

講評

1 はじめに

昨年の12月3日（金）、本宮中学校・本宮小学校・本宮公民館による平成20年度から22年度までの文部科学省委託事業「学校支援地域本部事業」の成果発表会が開かれましたが、その会に臨み、改めて田辺市の学社融合の先駆性、先進性を直接的に肌を感じ、感銘を深くしました。その実践収録にこんな報告が掲載されています。

「今回歩いて、語り部さんの各ポイントの話はすごく勉強になりました。私のブロックの語り部さんの話の中で、心に残った言葉があります。歩いている途中に大きな岩が上から落ちていました。昔は、上にちゃんとあったのに、何かの自然災害のときに落ちてきたらしいのですが、そのとき語り部さんが『弱いものは、こういう風にはじかれるんやで。世の中も同じやろ・・・』みたいなことを話してくれました。何か少し考えさせられた古道ハイクでした。」

これは本宮中学校の生徒さんの授業感想ですが、この感想は、田辺市の学社融合への取り組みが学校の授業を充実させているばかりでなく、学社融合することによって子どもたちの人生観までを形作りつつあるということを示唆しているのではないのでしょうか。これらは、“授業”を核にした学社融合を推進してきた田辺市だからこそ手にすることができた成果であると考えます。

さて、今回も年度報告書に拙稿を寄せさせて頂く機会を得ました。手元に届けられた報告書原稿を読ませて頂くうちに、公民館の動きに注目して、田辺市の学社融合を分析したいという思いになりました。そこで、今回は「公民館の目標」と「地域（公民館）の成果」に記された記述をもとに拙稿をまとめさせて頂くことにしました。

2 実践報告に見る公民館の設定目標と成果

(1) 中部公民館

①田辺第一小学校

中部公民館の目標には、「大人と子どもと一緒に授業を進めることで」とあり、田辺第一小学校と行う授業を核とした学社融合に、公民館が主体的に取り組んでいることが読み取れます。その具体化のためには、「子どもと大人と一緒に活動する授業を作る」ことを考え、「(授業に参加する) 地域の方々に (事前に) 授業を参観してもらい、本時の取り組みがスムーズに行くようにする」という手立てが講じられています。その結果、子どもからは「(大人は) やっぱりすごいな」という感想が聞かれ、また大人からは「久しぶりに燃えたよ」という声が聞かれたとのこと。報告には「地域の方々の学びの高まり、という点ではよかったのかどうか評価しがたい」と記していますが、「久しぶりに燃えたよ」という大人の声は、大人たちの学びが十分高まったことを示すものとしてとらえて良いのではないのでしょうか。今後の公民館にとっての課題は、学校との協働で高められた学びの高まりを、大人のどのような個人的あるいは社会的学びや活動へと導いていくかにあると思います。

(2) 東部公民館・南部公民館

①田辺第二小学校

「昔から伝わる地域行事を知ろう」という田辺第二小学校との学社融合の活動に、東部公民館と南部公民館は、「次世代への文化の継承」と「地域行事に積極的に参加する心を育てる」ことを目標に掲げました。結果報告には、「今回の学習を通してその歴史を知り、改めて地域を見直すきっかけになったように思う。また積極的に地域の行事に参加したいという子どもも多くなった」や、「地域の伝統行事を子どもたちに教えることで、子どもたちが、地域に対して愛着を持ってほしいという願いが強くなった」とあり、そこからは、公民館の積極的なかわりが子どもを変え、地域の大人を変えていったことが読み取れます。学社融合に対して、公民館がより明確な意図を持って、積極的に臨むことが大切であると改めて教えられた実践です。

②東陽中学校

「高齢者対象初級パソコン教室」の実践を、学社融合の手法で開設した珍しい実践報告です。目標部分に「地域から要望があった」と記されていますので、要望を受けたのはおそらく公民館だったのでしょう。その要望を東部及び南部公民館は、「東陽中学校と公民館が併設されていること」「コンピューターが整備されていること」「パソコンクラブがあること」「中学生であること」などの利点を活かして「高齢者対象初級パソコン教室」として実現しました。この実践は、学社融合が公民館活動そのものを拡充させることを示唆するものです。公民館が学社融合に何を期待し、何を期待できるかが、このような実践を積み重ねることでやがて明らかになるのではないのでしょうか。

(3) 西部公民館

①田辺第三小学校

「子どもたちは、展示作品が新しくなると必ず気付いてみている。日頃は、廊下を走り去ってしまう子どもたちも、立ち止まっているくらいである。大人の作品には、子どもたちは、尊敬のまなざしを向けて『上手やなあ』『この絵、写真みたいやなあ』『どんなにしたらこんな細かいの、作れるんかなあ』と驚嘆の声をあげる。

これは、「西部公民館・明洋中学校作品展示コーナー」を田辺第三小学校の一角に設置した実践報告の一部です。西部公民館は、この活動に「子どもたちが地域の人々と交流する機会やつながりを強く持ち、コミュニティー活動の活性化を図る」ことをねらっていますが、報告を読むと「子どもたちが、地域の人々と交流する機会やつながりを強く持ち」という部分については、現状でも十分達成できていると思います。今後は、作品展示コーナーに対する公民館の考え方を、「地域の方々に多くの作品を展示していただく」という考え方から、「地域の方々が作品を展示する場として自ら活用する」という考え方に転換することで、目標後半部分に掲げた「コミュニティー活動の活性化を図る」ことも、二年目以降の取り組みの中で十分に達成可能なのではないのでしょうか。

(4) 芳養公民館

①芳養小学校

芳養公民館は、芳養小学校との学社融合で、「次世代を担う子どもたちへの、地域の伝統文化の継承を支援する」「子どもたちと幅広い世代の地域の方々との交流を図ることで、学校と地域の一体感を育む」ことを達成することをねらっていますが、「地域の伝統文化の継承」や「学校と地域の一体感（の育成）」は、現代社会が抱える大きな課題であり、かつ公民館がその機能を発揮して解決すべき課題でもあります。そのため芳養公民館では芳養小学校との学社融合による「芳養ふれあい教室」や「地域の教育力を生かした授業」を実践し、そこで「育まれた地域の方々子どもたちとのつながり」をねらい達成に役立てようとしています。「地域の伝統文化の継承」や「学校と地域の一体感（の育成）」という現代社会が抱える大きな課題を、日常の実践から解決しようとしている素晴らしい取り組みであると思います。

②大坊小学校

「大坊のびのび教室」は、大坊小学校との学社融合により、芳養公民館が「休日の土曜日に、子どもたちが安全に、安心して過ごせる居場所づくり」として設置している子ども教室であり、「子どもたちが心豊かに育まれるよう、文化活動や地域住民との交流に取り組む」ことをねらいとしています。報告によれば、「公民館を中心に、継続的に活動を展開することで、『地域の子どもは地域で育てる』という意識が一層深まっている」とのことであり、その成果を導き出している原動力は「のびのび教室母の会（保護者）の方々を中心となり、大変熱心に取り組んでいること」だそうです。「大坊のびのび教室」で培われた保護者の方々の教育力は、大坊小学校の教育を支える力ともなっているのではないのでしょうか。「大坊のびのび教室」は、子ども教室に対する公民館のかかわり方の望ましい姿を示唆するものであるように思います。

③明洋中学校

芳養公民館が掲げる目標の一つに、「地域人材の知識や経験、学習成果を生かせる機会の充実を図り、活躍できる場を提供する」がありますが、明洋中学校と行なった「ゆかた着つけ講座」では「芳養地域人材バンク登録者を積極的に活用し、活躍できる場の拡大を図ることができた」そうです。また今回の実践では保護者に対する講座参加も促しており、次年度には、男子生徒の参加も企画するそうで、もう一つのねらいである「子どもたちが心豊かに育まれるよう、文化活動や地域住民との交流に取り組む」ことが、確実に達成されつつあることが読み取れます。公民館が目標を明確化することで学社融合の事業が質的に改善されることを示唆する実践となっています。

論点とは少し離れますが、明洋中学校区の報告に注目すべき記述がありますので、一言触れさせていただきます。それは、「今年度から、明洋中学校、芳養公民館、西部公民館、中部公民館の担当で、明洋中学校区学社融合推進会議（略称：明融会）を組織し、定期的に交流を図りながらさまざまな協議を行っている」という記述です。また、「明洋中学校の職員会議に各公民館長・主事が参加し、館長の地域づくりに対する思いや各公民館の活動の様子などを、全職員に伝えていくという取り組みも始めている」という記述にも目を見張りました。これらの取り組みが自然発生的に生じてきたことは、田辺市の学社融合が、さらにステップアップ、パワーアップしたことを物

語っていると思います。形式的でない、柔軟な組織的な地域あげての取り組みが、今後、各地域にも広がっていくことを期待したいと思います。

(5) 新庄公民館

①新庄幼稚園

新庄幼稚園の園児の作品を公民館ロビーに展示する活動を行っていますが、新庄公民館ではこの活動に「来館者に、幼稚園の活動そのものの一端を見ていただくとともに、それらの展示作品を通して地域の様子や行事などを知ってもらう」ことをねらっています。そして、その実践によって「気軽に多くの人に見ていただくことが出来た」「園行事の後おじいちゃんやおばあちゃんも一緒に公民館に出向き、子どもたちの絵を見てくださった」「園紹介パネルで、地域と園のかかわりや伝統行事などを知り、関心が高まった」という成果があったとのこと。この実践は、「人が集う場」という公民館の機能性をフルに生かした、園にも公民館にも無理なく出来る実践だったのではないのでしょうか。こうした日常的な実践は、際立った成果をもたらすものではありませんが、園に対する持続された理解がもたらされるなど、日常を支える温かな地域の支援を園にもたらすものであると考えます。今後は、日常的な展示へと発展させていくのもよいのではないのでしょうか。

②新庄小学校

新庄小学校との学社融合で農業体験学習に取り組む新庄公民館は、「地域の教育力を学校教育に生かす」ことや「地域の方々に学校や子どもの様子を知ってもらう」ことを目標にしていますが、その真のねらいは目標の末尾に記された「今後の地域づくりに生かしてもらう」ことにあるのではないのでしょうか。地域の方が「子どもに地域の様子を教えたり、農業体験をさせることにより、さらに地域を見直し、大切にしようという気持ちが強くなった」「学校や児童の様子を知ることにより、以前と比べて『地域の学校や子ども』といった意識で接してくれるようになった」といった成果は、公民館が「今後の地域づくりに生かしてもらう」という目標を持って、この実践に臨んだからこそ、手にすることができた成果なのだと思います。

③新庄第二小学校

新庄公民館は、新庄第二小学校との学社融合に、「地域と学校が共に育つ環境をつくるための支援（機会や場の提供）」を、公民館の役割として取り組みました。その結果、「地域の魅力を再発見し、そこに関わっている人の想いを感じ取り、また、その想いを受けて、自分たちにできることを考え、実践する態度が育ってきている」「特に新興住宅住民に、地域の様子を伝えることが出来た」「舞台照明などの協力が得られ、発表内容が伝わりやすかった」「内の浦の獅子舞については、祭り当日に神前で子ども獅子舞として舞うことにもつながり、今後の伝統文化の継承に有意義であった」といった成果を手にしてしています。この成果報告からは、公民館がねらいとした「地域と学校が共に育つ環境」が、今回の実践を通して確実に創られつつあると感じました。

④新庄中学校

継続的に行なわれている新庄中学校との学社融合「新庄地震学」の報告ですが、公民館が学社融合にかかわることの意図と意義が良く分かる報告となっています。新庄公民館は、第1には、地震等の自然災害への備えを日常的に意識化するための社会啓

発の手立てとして、この実践を活用しようとしています。中学生が真剣に取り組む姿で、マナー化する社会意識を覚醒させようとねらっているのです。第2には、記憶の風化を防ぎ、新庄地区の宿命的課題を若い世代に継承していくことをねらっています。そしてさらには、この実践を通じて「地域ぐるみの防災意識を高める」ことをねらっています。公民館がこのような意図を持って実践に取り組むことで、学校教育の中に留まらない、地域にも役立つ新庄地震学が実践できているのではないのでしょうか。今後は、公民館がさらに意図を強めることで、地域の防災活動とも連動、あるいは融合した新庄地震学が展開できるのではないかと期待されます。

(6) 稲成公民館

①稲成小学校

稲成公民館は、稲成小学校との「2010いなりふるさとまつり」の実践を通じ、「地域社会の中で、地域住民と子どもたちの交流を深めることにより、コミュニティ活動の活性化を図る」ことをねらっています。その実践には「地域行事の学校教育化」「学校教育の地域行事化」というユニークな視点を持って臨んでいます。学社融合の考え方をイメージ化できる、分かりやすい表現であるように思います。この実践を通じ、「地域と子どもの関係がより深まった」「地域住民同士の交流を深めることができた」「地域の伝統文化が、次世代へ継承することができた」といった成果があり、「地域の活性化が図れた」とのことです。この実践においても、公民館が意図を持って働きかけることの大切さを改めて感じさせられます。

(7) ひがし公民館

①田辺東部小学校

「ぼくたちのクリーン作戦」と題されたこの実践にも、田辺東部小学校の小学生の持つ教育力で地域を変えていこうとしているひがし公民館の意図が読み取れます。それは公民館の記した目標を読めば明らかです。目標には、まずは「地域の公園の清掃活動や、近くの国道沿いやひがしコミュニティセンターの進入路の脇に児童が花を植える活動を通して、地域環境の向上に資する」とありますが、真のねらいは「美化活動に子どもが参加しているという姿を示すことで、地域の美化活動に対する気運を高めていく」という後段部分にあることは明らかです。実践面では「保護者との共同作業で行う」などの工夫もされており、目標の実現に向けたさまざまな創意工夫が感じられる素晴らしい実践であると思います。

(8) 秋津公民館・万呂公民館

①会津小学校

会津小学校と行なう「夏休み短期教室」「公民館見学」は、表面的には「休日や放課後における子どもが安心して過ごせる居場所・学びの場づくり」なのですが、秋津公民館と万呂公民館にとっては、それは「地域の文化や活動について、実際の活動を通じて子どもに伝える」ということをねらった活動であり、また「地域全体で子どもを見守っていく意識の向上」を目指した活動なのです。そこには、地域における社会教育機関であることを明瞭に意識した公民館の姿勢が感じられ、公民館職員の資質の高さを感じます。この実践は、公民館がこのような意識を持つことで、単一事業を多機能性のある社会装置とすることができるということを教えてくれています。

②高雄中学校

高雄中学校区の実践は、秋津公民館、万呂公民館以外にも、中部公民館、稲成公民館、ひがし公民館や南部公民館が関わって実践になっています。今回の実践は、公民館の機能を生かして「学校の取り組みを地域に積極的に発信し、活動を幅広く知ってもらう」ことを目指しています。活動内容は、高雄中学校の生徒の作品を公民館に展示するものですが、「地域や公民館活動への生徒の参加を通じて、学校と公民館の連携や、学習活動の様子的一端を地域の方々にも知ってもらうことができ、学校と地域との距離感をより一層縮める良い機会となった」と大きな成果が得られたことが報告されています。また、この取り組みの成果として、「(中学生が)積極的に地域に出て活動をするようになった」ことも報告されています。このような成果を生み出す要因は、公民館が学校と積極的に連携してきたことにあるようです。報告には、公民館主事と学校の公民館担当教員が会議を開き、公民館活動の様子などを学校に伝えていることが記されています。この実践はまずは学校の積極的な、そして組織的な姿勢に支えられていますが、学校の熱意に対応できる公民館側の積極的姿勢がなければ実現しなかったことと考えます。この実践は、我々に、実り多い学社融合を実践するには学校と公民館が積極的に連携することが必要不可欠であることを教えています。

(9) 上芳養公民館

①上芳養小学校

上芳養小学校と行なう「カヌー体験教室」は、上芳養公民館にとって、「地域の大人との会話を通じて」「(子どもの)社会性を育む」という大きなねらいを持った実践でした。結果は、ねらい通り「協調性を養う機会」となり、また「生涯的にスポーツや文化的なこと等にかかわることの大切さを感じとれた」とのことです。公民館が掲げた「社会性の育成」という目標は、今回のような実践を積み重ねていくことで次第に達成されていくものと考えます。この実践からは、公民館がどのような子どもを育てていくかを意識化することが極めて大切であることを学びました。

②上芳養中学校

上芳養公民館では、上芳養中学校との様々な学社融合活動を通じて、「学校・家庭・地域団体と協力し、様々な行事に積極的に取り組み、住民同士の親睦・交流を推進する」ことを達成しようと考えました。そして、そのような考えのもとに取り組みを進めた結果、「生徒が加わった事業を展開することで、地域内の世代間交流が活性化された」という成果を導き出しました。さらには、「地域の知識や技能を、子どもに伝える場を設けたことにより、地域の子どもは地域で育てるという意識の向上につながった」という成果までを手にししました。この実践からも、中学生(子ども)自らが持つ教育力が、地域の大人を変え、地域を活性化していくということを学ぶことができると思っています。

(10) 中芳養公民館

①中芳養幼稚園

中芳養公民館は、中芳養幼稚園との学社融合活動に「地元の各種団体との積極的な連携をとることにより、交流の促進を促す」ことや「子ども達に、郷土の伝統・文化・歴史に親しみを持たせ、郷土への愛着心を育む」こと、「施設を有効利用し、住民の集

える場を提供する」ことという三つのねらいを持って臨んでいます。今年度の芳寿会との交流では、「(園児に) 地域の伝統・文化・歴史に親しみ・関心を持たせることにより、郷土に対する愛着心、社会への帰属意識を育めた」そうで、公民館が設定した目標が十分に達成されていることが分かります。また、「知識や技能を、次代を担う子ども達に伝えられ、地域の手で子ども達を育てるという意識を高められた」とも報告されており、今回の実践が派生的な成果も手にできた素晴らしい実践であったことが読み取れます。

②中芳養小学校

中芳養公民館は、「地域の教育力の活性化を図り、子ども達と地域の交流を深める」ことと、「公民館施設が地域活動の拠点となり、学校と地域の活性化につながるような機会を提供していく」ことをねらいとして掲げ、中芳養小学校との学社融合に取り組んでいます。実践結果報告では子どもたちが、「地域の特産品を知ることで、郷土を愛し、地域社会の一員としての自覚を持てた」や「公民館を訪れ、公民館に慣れ親しむことができた」と成果が述べられています。また、地域側には「地域の教育力を発揮できる機会と場所が提供できた」「地域で子どもを育てていくという気運を高めることができた」という成果があったことが報告されています。このような報告からは、中芳養公民館が自ら掲げた目標を着実に達成することによって、中芳養小学校区における学社融合活動がより一層深められていっていることが読み取れます。

③中芳養中学校

「中芳養 Human - Chain～先達に学ぶ」と題された活動は、「地域の先輩が身近な存在となった」「地域の先輩と触れ合い歴史や文化を知って、地域の一員としての自覚が高まった」「話を聞くことで、自分自身の今後の生き方を考えることも出来た」「経済やエネルギー利用の発達の有り難さと共に、平和の大切さも考える機会になった」といった成果を中芳養中学校の生徒にもたらししました。また「地域の高齢者が中学生と直接ふれあう機会が出来た」「芳寿会のメンバーも、中学生に語ることに前向きに取り組み、自分の体験が子どもたちに吸収されることに喜びを持ってくれた」「他の地域の老人会活動の経験もあるが、こんな経験は初めてで嬉しい」という成果を地域(公民館)にもたらししました。このような素晴らしい成果を手に出れたのも、中芳養公民館が「地域各種団体と積極的な連携をとり、新旧住民、世代間ならびに地域間交流を促進する」「次代を担う子ども達は地域で育てるという意識を高め、郷土の伝統・文化・歴史に親しみを持たせることにより、郷土への愛着心を育む」という目標を設定したからであると考えます。

(11) 上秋津公民館

①上秋津幼稚園

「保護者、園及び地域間の連携と信頼を深めるとともに、地域間の交流の輪を広げる」「多くの方々に園児達の取り組みに触れていただき、子ども達の健全な育成に関心を持っていただく」ことを上秋津幼稚園との学社融合の目標に掲げる上秋津公民館は、上秋津幼稚園の「創立50周年記念事業」の実施において、公民館の機能を生かして見事な学社融合を実践しました。その経緯は、「創立50周年という節目の年に、『おかげさまで』という気持ちを込めて何か心に残る記念事業を計画したいとの思い

を持っていたが、年度初めには、職員数も少なく、日々の保育活動に追われる毎日であることから、お餅つきとパンフレットのみのこじんまりした会を余儀なくされていた。しかし、公民館との話し合いを通して、学社融合という見地から教育熱心な上秋津地区の人的環境を今一度見直し、地域に声をかけることにしたところ、各団体や個人の方々より想定以上の支援をいただいた」と報告されています。この実践報告は、田辺市が学社融合に取り組む意味や意義を顕著に示した素晴らしい実践であると考えます。

②上秋津小学校

上秋津公民館は、「早い段階からの農業体験は、将来、地域の農業を担うかもしれない子どもたちに、大変有意義な効果をもたらす」という考えから、「地場産業である農業（みかん、梅、野菜）を題材とすることにより、子どもたちに上秋津の農業について知ってもらう」「地域住民が農業を通じて、子どもたちの育成にかかわり、『人づくり』『地域づくり』につなげていく」ことを目標に掲げ、上秋津小学校と共に「農業体験学習」の実践に取り組んでいます。その実践で注目すべきことは、「農業体験学習」が「農業体験学習支援委員会」によって組織的に実践されているという点です。その組織的実践は、公民館がその目標に、「地域住民が農業を通じて、子どもたちの育成にかかわり、『人づくり』『地域づくり』につなげていく」ことを掲げたことによって生じたものではないかと考えます。つまり、上秋津公民館区では充実した「農業体験学習」が行われていますが、その礎である「農業体験学習支援委員会」は、公民館がその目標を達成するために必要不可欠なものとして生み出された社会教育の装置なのではないでしょうか。

③上秋津中学校

上秋津中学校の「農事体験学習」に対して上秋津公民館は、「地域の農業について、単なる知識だけでなく、実体験を通してより深く理解してもらおうとともに、農家の方々の考え、生き方に触れてもらう」「地域全体に、子どもたちの教育や健全育成に積極的に関わっていこうという気風を広げていく」という目標を掲げて臨んでいます。その目標の中にある「実体験を通して」「農家の方々の考え、生き方」「気風を広げていく」という文言には、上秋津中学校の「農事体験学習」に対して、公民館として意図を持って積極的にかつ主体的に取り組んでいこうとしている姿勢を感じます。「農事体験学習」は実に充実した活動になっていますが、その充実は上秋津公民館のこうした姿勢から導き出されているのではないかと思うのです。

(12) 秋津川公民館

①秋津川小学校

秋津川小学校と秋津川公民館は、実践結果を「世代間交流の推進、歴史・伝統文化の伝承、そして学社融合の推進という、秋津川生涯学習計画重点プランの成果の一つとなった」と報告しています。この一文に接し、目を見張る思いでした。それというのも、さりげなく書かれたこの一文ですが、生涯学習論や学社融合論の見地からみると、意味するところは極めて大きいからです。この記述は、秋津川公民館区では、学社融合によって学校教育と社会教育が一体となった実践が行われているということを報告したものであると思います。それを生涯学習論に立って読み解くと、秋津川公民

館区では学校教育と社会教育を統合した姿としての本来的な生涯学習が実践されていることを述べたものと解釈できます。秋津川公民館の実践報告によって、田辺市の生涯学習、学社融合が実に質の高いものであることをさらに思い知らされたのでした。

②秋津川中学校

秋津川中学校との学社融合の実践にあたり、秋津川公民館は「地域の人と人、子どもたちを繋ぐ場を設け、郷土を愛する心を培い、連帯感を高める」「地域と学校が連携・協力して行事を創り、秋津川地域の活性化に資する」「地域住民に子どもたちの活動に目を向けてもらい、より健全育成に関心を持っていただく」という三つの目標を掲げています。今回報告された「秋津川ふるさとまつり」は、学社融合の実践のモデルのように思える実践です。「公開授業→地域イベント→公開授業→学年懇談会」という、かつてであれば考えられなかった実践は、学社融合の発想があってこそ想起された活動であり、公民館が目標に「地域と学校が連携・協力して行事を創り、秋津川地域の活性化に資する」ことを掲げたからこそ具現化した活動なのではないでしょうか。

(13) 三栖公民館

①三栖幼稚園

「避難訓練（衣笠中学校・三栖幼稚園合同避難訓練）」と題された実践報告の公民館目標の欄には、「三栖幼稚園は、職員数が3名で、全園児への対応に十分とは言えない現状である。隣接する衣笠中学校の生徒が中学生として関われる活動を通して、支援するという訓練を実施することで、園児・生徒の保護者だけでなく、地域の方々にも災害時の幼稚園救助に関心を持ってもらうことができ、生徒にとっても扶助の心や道徳心を養う良い機会となる」と記されています。この公民館の目標は、学社融合上の公民館の役割を実に巧妙に示唆した記述であると感心しました。三栖幼稚園は「3人の職員による教育力には限界があり、地域の方々、近隣の小中学校・専門機関などの協力や支援を頂きながら、教育活動の充実に努めている」という現状にあるそうですが、公民館は、三栖幼稚園が抱える課題を中学校の活動と結びつけることで解決を図ろうと試みているのです。しかも、その両者の活動成果を使って、地域全体で三栖幼稚園を応援する気運を盛り上げることを意図しているのです。この記述には、学社融合の活動、いや、それに止まらない地域全体の教育活動、さらには地域全体の活動をコーディネートする三栖公民館の姿が描かれているように思うのです。

②三栖小学校

三栖小学校との「地域と歴史」の実践で、三栖公民館は、「学校と連携を図ることにより、地域で子どもたちを育てようとする気持ちを高める」ことや「学校との組織的な支援体制の確立を目指す」ことを目標に掲げています。その結果、「地域を知り、普段接する機会の少ない方と交流する機会ができた」「地域の人材を学校教育で生かすことができ、世代を超えての交流ができた」という成果を手にしてしています。単年度としては目標を達成できていると考えられますが、三栖公民館が掲げる目標を十分に達成するためには、このような実践を繰り返し行うことにより、より多くの方々に関わっていただき、関心を抱いていただき、子どもに目を向けていただくことが必要なのではないかと考えます。

③衣笠中学校

「地域に子ども達の学びがどう広がっていくのかを館報で地域に知らせる」「学社融合を推進するための基盤となる人的資源を育成する」ことを目標に掲げた三栖公民館と万呂公民館は、今年度は衣笠中学校と「公民館での作品展示」「地域人材の活用」に取り組みました。この活動を展開するにあたって、公民館は、「外部から見られるということは、学校の生徒ではなく、社会の構成員の一人として見られることでもある。子ども達は、少しずつであっても、外の視線を感じる経験を重ねることが成長につながるはずである」と考えています。学社融合の実践では、公民館も子どもに直接接します。ですから、公民館も公民館なりの子ども観を持つことは極めて大切なことです。学社融合の推進では、公民館が意図を持って学校に向き合っていくことが求められます。その意図は、公民館が描く子ども観から発生してくるものです。報告に「今年は、地域と学校の双方から積極的な動きがあり、公民館もそれに合わせて、うまくコーディネートすることができた」とありますが、地域の意図、学校の意図に加え、公民館の意図をもそこに織り交ぜていくことがコーディネートなのかもしれません。

(14) 長野公民館

①長野小学校

長野公民館は長野小学校との学社融合において「地域や公民館が学校の行事を支援し、地域と学校との関係を密にして児童の健全育成を図る」ことを目標に掲げています。そのため、具体的には「公民館が講師を紹介したり、学習内容をいっしょに計画する」ということを行っています。そのことにより、今回の「手作り遊び道具を作ろう」「梅を使った料理体験」の実践においては、「子どもだけでなく親の世代でも地域とのかかわりが希薄になり、地域の方にゆっくり教えてもらう機会が少なくなってきた」という現状を踏まえ、親にも参加してもらうという実践が行われています。この実践からは、田辺市においては学社融合が確実に定着したことを窺い知ることができます。

②伏菟野小学校

長野公民館は、伏菟野小学校との「ホタル学習」の実践で、「伏菟野地区でホタルを飼育することで自然のすばらしさを子どもたちに伝える」とことと同時に、「ホタルを飛ばせることによりホタル祭を成功させ地域の活性化につなげる」ことを目標としています。このように、学校教育と地域活性化を結びつけた珍しい実践になっています。その結びつきは「地域の特色を生かした事業は、他の地域でも同じようにできるものではない。教育的観点から、また、経済的な要請からも、全国でその地域らしさの特色を出すことに力を入れている時代なので、そういう観点からみても、素晴らしい素材を扱っている事業である」という公民館の考え方が元になっています。地域づくりの担い手でもある公民館ならではの発想ではないでしょうか。この実践は、学社融合に臨む公民館の姿勢の一つを示した事例となっています。

③長野中学校

「茶摘み体験」の実践について、「長年続く授業で、支援者は日頃、積極的に学校行事にも参加されているため、子ども達はリラックスした様子で支援者との距離もうまく取れており、野外での実習を楽しんでいた」や、「支援者は、子ども達にたいしても、

普通に接していた。学校の生徒ではなく、地域の住民の一人として扱い、自然に交流ができるのだろう。子ども達もまた、学校の中の生徒という位置づけ以外の自分の存在に気がつく場の一つになればよいと考える」という報告がなされています。このような結果を生み出すことができたのは、公民館が「子ども達の学びがどう広がっているか、また、学校への支援について、地域に広報し知ってもらう」「長年、体験学習を続ける地域の方の活動を支援する」という目標を掲げて実践に取り組んだからであると考えます。

(15) 龍神公民館

① 咲楽小学校

福井分館と甲斐ノ川分館は、咲楽小学校との学社融合において、「地域社会の中で、子どもたちが心豊かに育まれるよう、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流に取り組む」ことを目標に掲げ、今年度は「“万歳音頭”復活活動」に取り組みました。その実践は「小さな取り組みであったが、これまでの学校・家庭・地域が連携したものではなく、学社融合の取り組み」であったそうです。その実践によって、「“万歳音頭”が復活でき」「福井バイパス開通式や運動会で踊ることができ、地域の方々に懐かしんでもらえた」「踊りを通して、地域の一体感をもつことができた」という成果が得られたとのことです。報告書で今回の実践の意義を「“万歳音頭”を復活させ、福井バイパスの開通式で披露するまでの全体の高まりをみんなが体験できたことは大きな意義がある」と記していますが、それは学社融合の意義でもあるように思います。

② 中山路小学校

中山路小学校と中山路分館は、今年度「地域サークルとのふれあい」に取り組ましました。その実践の地域側の成果は「(子どもたちが)身近な地域住民の様々な活動にふれることができた」「(子どもたちが)自分たちが地域の人々に支えられていることを感じる事ができた」「学校に対して、地域住民の取り組んでいる活動などを紹介することで、学校と住民の『互いに顔が見える活動』を支援できた」「地域住民の活動の場を広げることを支援することで住民の生き甲斐づくりにつなげることができた」と記されています。これらの成果は、公民館が「学校行事に積極的に協力するために、各種団体の活動情報を学校に提供する」「地域住民のつながりを深めていく活動や生き甲斐作りを支援する」ことを目標としたからこそ手にすることができた成果なのではないでしょうか。

③ 上山路小学校

殿原分館、東西分館、宮代分館は、上山路小学校と「マイタウンクリーン大作戦」を展開しました。その活動に対する公民館のねらいは、「小学校と交流することにより、地域として学校教育を支えていく」「地域の環境保全の意識を高める」「子ども達との活動を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す」ということです。実践では、小学生がクリーン作戦への参加を呼びかける手紙を各種団体等に送ったそうで、例年になく地域住民の関心が高まり、参加者も多くなったとのことです。実践後には、地域ごとに計画されている清掃活動との統合など、今後における活動のあり方が検討されたようです。公民館のコーディネート力の発揮で、次年度にはさらに充実した活動ができるものと予想されます。

⑤龍神小学校

龍神公民館と龍神分館は、「高齢者の方の願いや思い、苦勞を知り、昔の人の知恵や地域に伝わる文化を学び、高齢者に対する思いやりや感謝の気持ちを育むために、多くの高齢者の方と子どもたちとのふれあいの場を大切にする」ことを目標に掲げ、龍神小学校と「敬老の日のお手紙」の実践に取り組みました。手紙は子どもたちが手書きし、戸別訪問して届けたそうですが、その行動は公民館が掲げる「ふれあいの場を大切にする」ことの現れのように思います。このような実践の結果、敬老の日の後に開かれた運動会には、大勢の高齢者が参加してくれるという成果も導き出しています。

「敬老の日のお手紙」の活動を今後も継続したいとありますが、地域の実態を良く知る公民館が地域の実態に応じた活動の展開を助言することで、さらにより良い活動へと変質していくと考えられます。

⑥龍神中学校

龍神公民館は「地域社会の中で、子どもたちが心豊かに育まれるように、清掃活動やリサイクル活動を通して地域住民との交流に取り組む」という目標のもと、龍神中学校と「清掃美化・リサイクル活動」に取り組みました。その取り組みの結果、「(中学生が) 地域の人々との協働や交流を通して、地域に生きる自分に気づくとともに、そこに住む人の思いや生活を感じることができた」「(中学生が) 地域の方と声を交わすことができた」「(中学生が) 地域の方々にいろいろ教えていただきながら作業するなど、異世代の方と交流を深めることができた」「地域と中学生が一体となった活動を行うことで、環境美化・保全の意識を高めることができた」と、公民館のねらいを上回る多くの、そして幅広い成果をあげたことが報告されています。また、報告書には「清掃美化・リサイクル活動」が「学校が地域を知り、地域が学校の活動を知ることによって、地域の教育力を高め、学校教育に生かしていく一つの良い機会となった」ということが記されていますが、今回の実践のように、こういう活動を展開する中で意図的に地域の教育力を引き出し、学校教育に活用する道筋をつけていくことも公民館の役割の一つなのではないでしょうか。

(16) 中辺路公民館

①栗栖川小学校

栗栖川上分館と栗栖川下分館が学校との学社融合で達成したいと掲げた目標は、「子どもたちが地域の伝統芸能に触れ、楽しく学べる環境作りを学校と共に取り組んでいく」ことです。栗栖川小学校と取り組んだ「わたしたちの中辺路(三味線の授業)」の実践は、少子化という課題に直面した地域が、いかにして地域の伝統を継承していくかを思い悩んだ末に生み出された学社融合であるように思います。地域の切実な思いは、公民館が掲げた目標の中の「楽しく学べる」という言葉に表れているように思います。実践の結果、「(子どもたちが) 保存継承する気持ちになってくれた」ということですので、私もホッとしました。

②二川小学校

二川分館と二川小学校は、「運動場芝生化、運動会、文化祭」の実践に取り組みました。その実践に対する公民館の目標は、「地域の多くの人々との作業やふれあいを通して相互理解を深める」「子どもたちとの交流を通じて、地域の子どもの育む素地をつく

る」ということです。実践では、「子どもたちが地域の方々と一緒に作業をしたり、ふれあい、交流を持つことで、地域と子どもの関係を深め、地域の中の子どもたちを見守る目を増やすことができた」そうです。また「地域ネットワークを構築できた」とのことです。公民館の目標が十分に達成できた実践であったと思います。

③近野小学校

近野分館は、「地域社会の中で、子どもたちが心豊かに育まれると同時に、子どもを通して地域住民同士の交流を深めることにより、コミュニティ活動の活性化を図る」ことを目標に掲げ、近野小学校と「郷土や人々とのふれあい学習」を実践しました。実践成果としては、「(子どもたちが) 地域の方々と触れ合うことで、そこに住む人や地域の素晴らしさを感じることができた」や「(子どもたちが) 郷土の文化や知恵を学ぶことができた」ことをあげています。また、地域側の成果として「高齢者のみの世帯が増える中、子どもとのふれあいにより、知識や経験と技術を伝えることにより、地域の活性化が図れた」ことや「郷土の伝統文化にふれてもらうことができ、今後の伝統文化の保存継承に有意義であった」ことを記しています。このような大きな成果を手にしたのは、やはり公民館が目標実現のため、意図的、積極的に動いたからなのではないでしょうか。

④中辺路中学校

中辺路公民館、栗栖川上分館、栗栖川下分館、二川分館は、「地域で活動しているサークルを生徒に観てもらふことにより、公民館活動の活性に繋がっていく」と考え、中辺路中学校と「地域で作る文化発表会」を実践しました。手法的には、中学校文化発表会に地域サークルの舞台発表を行ったり、町文化祭に中学生が作品を出品したり、活動や体験を舞台発表したりするものでした。その手法は、互いに多くの負担を強いられることがないものかと思いますが、記された成果を読むと、生徒が「地域等で活動しているサークルの方々と交流が出来た」や、地域側が「地域で活動しているサークルの楽しさ等を生徒達に知ってもらうことが出来た」と成果の大きかったことが記されています。公民館が期待した「現在の活性」と「将来の活性」を見事に手に入れた実践であったと判断できます。

⑤近野中学校

近野中学校と行った「米作り勤労体験学習」において、近野分館は「生徒と地域の人達との交流を深めることにより、子ども達が地域への理解をより深める」ことや、「学校・地域の連携を密にして子ども達の健全育成を図る」ことを目標として取り組みを進めました。その結果、中学生達が「地域の抱える問題に気づくとともに、活性化のために自分たちも関わっていくことで役立てることを学ぶことが出来た」や「地域のイベントに参加することで、地域と一体感を感じることができた」という成果があったと記しています。また、地域側には「子ども達と農作業を通して交流することが出来た」という成果があったと報告しています。さらには、公民館の目標を超える「(中学生達に) 地域のイベントに参加してもらい、餅つきを実演販売することで、地域活動に協力してもらった」という成果も手にしたことが述べられています。今後は、公民館の設定目標をレベルアップすることも考えられる実践結果となったと思います。

(17) 大塔公民館

①鮎川小学校

大塔公民館は、鮎川小学校と行った「子どもと地域のふれあい」の実践に、「児童と地域住民のふれあいを通して、『地域の子どもは地域で育てる』という意識を高める」ことや、「様々な取り組みを行うことで、子どもにとって様々な体験・交流・学習活動の機会とする」こと、さらには、「地域融合を積極的に推進することで地域力を高める」ことを目標に掲げています。公民館として学社融合を進める目標がよく整理されていると思います。三つ目の目標の中にある「地域力を高める」は、今、改めて公民館に求められている役割です。その点に関し、実践報告では、「取り組みにご協力いただける地域の住民・団体が増加している」「大塔女性会や大塔老人会等、地域団体も巻き込んで実施することができ、世代間交流等も含めて実施できたとともに、取り組みについて地域住民に認知されるようになってきた」と記しており、地域力が高まりつつあることが読み取れました。

②三川小学校

三川小学校とあすなる楽団との合同演奏、あすなる会との交流の実践に取り組んだ三川分館は、この実践で「合同演奏を通して、障害者理解を図る」「行事に参加・参画することで、障害者理解やお互いの交流を深める」「児童との交流を通して、地域の児童を育む環境を考える」、さらには「地域のコミュニティ活動の活性化を図る」ことをねらいました。実践結果では、「障害者との交流を通して、自然な関係で一緒に演奏したりなど良い交流ができ、障害者理解が進んできた」とや「地域の方々との交流を通して、ふるさとの良さや地域の方々への感謝の気持ちが育っている」と子どもたちの成果を記しています。また、地域側にも「あすなる会との交流を通して、障害者理解の良い機会となっている」とや「三川小学校とあすなる楽団の合同演奏や交流を通して、元気をもらっている」「地域の方々が集まり、お互いの交流を深めることができている」「学校やあすなる会の様子が分かり、協力しやすくなった」と、数多くの成果があったことが報告されています。いずれの成果も公民館が目標に即した活動を行ったことによって導き出された成果です。今後は、地域側の活動の担い手である「あすなる会」にとっての成果をより高めるための公民館目標を設定することも望まれます。

③富里小学校

実践結果には、「学習を通して、児童と地域住民の交流が図れたとともに、児童の地域への関心・理解が高まった」とや「地域住民が学校教育に関わることで、住民の学校への理解が深まるとともに、関心が深まった」という成果が記されています。これらの成果は、富里分館が富里小学校との「ふるさと学習」を行うにあたって、「地域の方々にご協力いただいて、学習を通じた児童との交流をすすめることで、子どもの社会性を育むとともに地域と子どもの結びつきを高める」という目標を設定したからこそたらされたものではないかと考えます。また、その目標設定は、「児童は地域をより身近に知ることができている」とや「学校教職員と公民館や地域の各団体の方々との距離が近くなった」といった成果も導き出しています。さらに、「(児童に)ふるさとを支える一員としての自覚が育ってきている」という成果は、公民館が目標実現のために意図的に働きかけたからこそ得られたものであり、公民館にとって何にも増して喜べる

成果なのではないでしょうか。ここまで高まった状況を踏まえると、次年度以降は、公民館の目標をレベルアップする必要があるように思います。

④大塔中学校

大塔公民館が「中学生にとって地域で行われている活動について学び、地域のことを知る機会にするとともに、交流を通して地域との結びつきの大切さを認識する機会とする」という目標を設定して取り組んだ活動は、大塔中学校と行う「ふるさと交流会」でした。「ツツジの植樹作業」「グランドゴルフ大会」を通じたシルバー人材センターの方々との交流は、中学生たちに「その存在や活動、はたまた活動を通して地域やふるさとに対する思いを知ることができた。自分の祖父母など身近な家族の存在に目を向け、いたわりの気持ちが必要だという意識づけにもなった」という成果をもたらしています。また、「シルバー人材センターの方も、中学生と交流することにより、活動の活性化につながった」という成果ももたらしています。公民館が設定した目標が十分に達成できた実践であったことが分かります。

(18) 本宮公民館

①本宮小学校

本宮分館、請川分館、四村川分館は、本宮小学校との『ありがとう』はとてもすてき」と題された実践に、「地域の持つ教育力、及びそれぞれの活動を学校の教育活動に生かすとともに、地域ぐるみで子育てをする意識や、本宮の歴史・文化・自然に対する思いを深める」という目標を掲げて臨みました。その結果、児童が「地域の方々の距離が近くなり、あいさつなどもできるようになった」「もっと故郷のことを知りたいという気持ちが深まった」という成果を導き出しました。また、この実践が「学校の課題、地域の課題を共有する機会となった」や「本宮の良さを発信する場となった」「学校と地域がともに故郷本宮について考える機会となった」という成果も導き出しています。さらには、児童に生じた成果として、「児童が多くの大人と関わることによって、規範意識やコミュニケーション能力の向上が図られた」ということが報告されていますが、この成果は公民館と本宮小学校との取り組みの質の高さを物語るものなのではないでしょうか。

②本宮中学校

「地域の方々と一緒になって、伝統料理である『めはり寿司』を作れたことは大きな経験になったし、地域の方とふれあえる機会にもなった」という生徒にとっての成果は、本宮中学校と「郷土料理『めはり寿司』作り」に取り組んだ本宮公民館と本宮分館、請川分館、四村川分館が掲げた「地域人材を活かした活動を推進し、学校や生徒の様子を知り、交流を深めると共に、地域を愛する生徒を育む」という目標があったからこそ導き出されたものであると考えます。報告書には、「地域のことや食文化に対する関心が高まった」と生徒の変化も記されていますが、これは今回の実践が公民館の目標を十分に達成できた実践であったことを物語るものだと思います。今後については、「地域の方々が地域の子どもを愛し、育てようという意識も高まっている」という実態を踏まえて、より高い成果をめざした公民館目標を設定することが望まれます。

③三里小学校

三里分館は、三里小学校との「運動場の芝生化」の実践にあたって、「運動場芝生化の協働作業を通して保護者・地域住民・学校の連携強化を図るとともに、社会体育の場・休日の憩いの場、また小学校と地域住民の交流の場として芝生化された運動場を活用する」という目標を掲げて臨みました。実践の結果としては、「地域の方々が学校を訪れる回数が増え、子どもたちに対する関心が強くなってきた」「保護者・地域住民がいつしよに作業することで、学校に関心を持ち、今まで以上に学校に足を運ぶようになってきた」「若者がやってきては、裸足で遊んでいる姿がよくみられた」などと、運動場芝生化が学校と地域の結びつきを強めたことが報告されています。これらのことは、「運動場芝生化の協働作業を通して保護者・地域住民・学校の連携強化を図る」という公民館目標の前段部分が達成されたことを示すのだと思います。住民にはすでに、社会体育として活用したいという意向があることも報告されていますが、芝生の安定を待って、目標の後段の実現は図られていくものと考えます。

④三里中学校

今年度の実践については、「これまでの『ふるさと学習』での連携に加え、『三里祭り』で新たな学校と公民館の連携の道を見出すことができました。子どもたちには地域のすばらしさや特色を大切にしようとする心が育ち、地域には子どもをみんなで見守り育てようという意識や学校への関心が高まりました」と報告書の最後に総括されていますが、その成果を具体的に記した文章を目にし、思わず唖ってしまいました。「(子どもたちに) 地域で見守られながら生きる喜びの心が育っている。また、子どもたち自身が地域の人々に元気を与えているということを実感するようになった」「学校に関わりを持ち、子どもや教育への関心を高め、地域で一丸となって子どもを育てる意識を高めることができた。また、本年度は、『三里祭り』について学校とも連携を強めた結果、中学生の発表や先生方の劇出演というこれまでになかった協力体制を作ることができた」。三里中学校との学社融合は、三里分館が「学校行事に積極的に参加すると共に、育友会（共育会）や他団体と連携を密にして、子どもたちの健全な育成に寄与する」とした目標を掲げることで、より充実したものへと進化しつつあるのではないのでしょうか。

3 おわりに

今回、公民館の「目標」と「成果」に着目して田辺市の学社融合の実践を分析しましたが、田辺市の学社融合が全国レベルを上回る成果を挙げている理由とその背景の一端を垣間見たように思います。

田辺市における学社融合は、授業を核として進めてきたこともあり、どうしても学校が中心となる傾向にあったことは否定できないと思います。過去の報告書を紐解いてみても、多くが学校サイドからの報告として書かれたものが多く、公民館としての働きかけをそこから読み取ることはかなり難しい作業になっています。

しかし今回、公民館に視点をあてて実践を分析した結果、公民館が掲げた目標と、地域（公民館）側の成果は、ほとんどが一致していることが分かりました。このことは、地域（公民館）側にもたらされた成果は、公民館が実践を構想した段階から、も

たらされるであろうと予測し、それを目標として位置づけ、それを生じさせるために意図的に展開し、結果として自ら手にしたものであることを意味しています。

田辺市の学社融合の著しい進展は、やはり、公民館の積極的で主体的な取り組みによっても導かれているものだったのです。したがって、田辺市の学社融合の今後の更なる発展のためには、公民館がなお一層厳しい目標分析を行い、より高い成果を生み出すことに努めることが求められます。公民館の更なる創意工夫に大いに期待します。